

# 福生市立学校 ICT推進計画

平成 28 年 3 月

福生市教育委員会

## はじめに

福生市教育委員会では、子どもたちが変化の激しい社会を生き抜くために、「福生市教育振興基本計画」の策定や「ふっさっ子未来会議」などの取組を通じて、子どもたちの「生きる力」を育む教育を推進してきました。一方で、社会が大きく変容する中で、これに対応するために、子どもたちに求められる能力も日々変化し続けています。

「知：確かな学力」、「徳：豊かな人間性」及び「体：健康・体力」を基礎とする「生きる力」の中でも、子どもたちの「確かな学力」を育むことは学校教育が中心的に担うべき、重要な役割であると考えます。そして、情報通信技術の習得が一般的となっている現代社会では、「教育の情報化」は優先的に検討すべき取組の一つです。福生市教育委員会では、「教育の情報化」を独立した教育施策と捉えるのではなく、学校教育全体の課題を解決するための取組として検討を続けてきました。その検討を踏まえて、「福生市立学校 ICT 推進計画」では、「学力のさらなる向上」「不登校の改善」「福生市の長を生かした英語教育」という福生市の教育課題の中から特に喫緊の3つの課題を改善するために、市立小・中学校への ICT 機器導入施策を提示しています。

例えば、福生市教育委員会では、これまでも学力向上策に取り組んできましたが、平成 27 年度からは東京都学力ステップアップ地域指定を受け、全校で協働して取り組んでおります。小学校では東京都教育委員会が作成した「東京ベーシックドリル」を活用し、小学校 1 年生～4 年生の基礎的な学力を、朝学習や放課後学習など授業外学習時間の徹底をすることで改善を図ってきました。また、中学校でも、平成 27 年度から、「東京ベーシックドリル」中学校版試案を活用するとともに教科指導内容の改善などを実施し、特に低学力層の底上げなどで成果があらわれ始めています。このような学力向上策と、ICT 機器導入の連動を図ろうとしている点が、「福生市立学校 ICT 推進計画」の特長です。そして、本計画では ICT 機器の導入をゴールとすることなく、それを利活用することで、「魅力ある学校づくり」へ寄与することを目指しています。

子どもたちの「生きる力」を育むための「魅力ある学校づくり」が、地域・家庭・社会全体と連携した子どもの成長を育む大きな仕組となるように、「福生市立学校 ICT 推進計画」を進めていきます。

# 目 次

## 第一章 福生市立学校 ICT 推進計画の全体像 ..... 1

- 1 福生市立学校 ICT 推進計画策定の経緯..... 1**
  - (1) 「教育の情報化ビジョン」を受けて..... 1
  - (2) 福生市教育委員会における教育施策を踏まえて..... 2
- 2 福生市立学校 ICT 推進計画策定の目的..... 2**
  - (1) 学力のさらなる向上..... 3
  - (2) 不登校の改善..... 6
  - (3) 福生市の特長を生かした英語教育..... 8
- 3 福生市立学校 ICT 推進計画の概要..... 9**
  - (1) 主要な施策..... 9
  - (2) 主要な施策を補助するための施策..... 11

## 第二章 福生市教育委員会が目指す学校 ICT とその現状..... 13

- 1 「学校 ICT の活用」をどのようにとらえるか ..... 13**
  - (1) ICT の特長を生かした指導場面 ..... 13
  - (2) ICT を利活用するための類型 7 + 2 (Seven + Two) ..... 15
- 2 福生市教育委員会が目指す学校 ICT..... 16**
  - (1) 主要な施策における学校 ICT ..... 16
  - (2) 主要な施策を補助するための学校 ICT ..... 19
- 3 福生市立学校における学校 ICT の現状..... 20**
  - (1) ICT 機器整備状況 ..... 20
  - (2) ICT 機器稼働状況 ..... 21
  - (3) 教員の ICT に対する期待..... 23

## 第三章 福生市教育委員会が目指す学校 ICT の実現に向けて ..... 24

- 1 ICT 環境整備..... 24**
  - (1) 福生市立学校 ICT 全体推進..... 25
  - (2) 学校情報環境の整備..... 25
  - (3) 家庭学習を促進するための環境整備..... 25
  - (4) 効果的な授業支援を実現するための環境整備..... 25

<b>2 ICT 活用支援</b> .....	<b>26</b>
(1) 教員の ICT 活用支援.....	26
(2) 情報モラル教育.....	27
(3) 特別支援教育・日本語学級の情報化.....	27
<b>3 福生市立学校 ICT 推進計画実行体制</b> .....	<b>29</b>
<b>4 福生市立学校 ICT 推進計画策定の体制</b> .....	<b>30</b>
(1) 計画策定委員会・事務局定例会の開催.....	30
(2) 福生市立学校 ICT 推進計画策定委員.....	30

## 資料編

<b>学校での ICT 活用に関する調査・結果報告</b> .....	<b>32</b>
1 調査概要.....	32
2 回答者属性.....	33
3 結果概要.....	38
(1) オフィス用アプリケーション使用程度.....	38
(2) ICT 機器設置状況（管理職回答）.....	38
(3) 先生方の時間配分.....	38
(4) ICT 機器活用状況（管理職以外）.....	39
(5) ICT 活用力程度.....	39
(6) ICT 活用意向.....	39
(7) まとめ.....	40
4 管理職回答編.....	41
5 管理職以外回答編.....	69

# 第一章 福生市立学校 ICT 推進計画の全体像

## 1 福生市立学校 ICT 推進計画策定の経緯

福生市立学校 ICT<sup>\*1)</sup>推進計画は文部科学省の策定した「教育の情報化ビジョン」や福生市教育委員会における「福生市教育振興基本計画」における教育施策を推進していくために策定する。

### (1) 「教育の情報化ビジョン」を受けて

- ① 文部科学省は、平成 32 年度に向けた教育の情報化に関する総合的な推進方策として「教育の情報化ビジョン」を平成 23 年 4 月に取りまとめた。「教育の情報化ビジョン」では、21 世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、「知識基盤社会」の時代であると規定している。
- ② また、競争と技術革新が絶え間なく起こる「知識基盤社会」において、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく新しい知識や価値を創造する能力が求められることや、社会構造のグローバルな変化による、知識や人材をめぐる国際競争が加速し、異なる文化・文明との共存や国際協力が必要となることについても言及している。
- ③ 「教育の情報化ビジョン」では、「知識基盤社会」を生きる子どもたちに求められる力を育む教育を推進するには、「時間的・空間的制約を超える」、「双方向性を有する」、「カスタマイズを容易にする」などの特長を持った情報通信技術を活用することが重要であるとしている。
- ④ さらに、子どもたちの学習や生活の主要な場である学校において、教育の情報化を推進し、教員がその役割を十分に果たした上で、情報通信技術を活用することによって、一斉指導による学び（一斉学習）に加え、子どもたち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）、子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）を推進していくことができるとしている。
- ⑤ 具体的には、教育の情報化によって「情報教育（子どもたちの情報活用能力の育成）」「教科指導における情報通信技術の活用（情報通信技術を効果的に活用した、分かりやすく深まる授業の実現等）」「校務の情報化（教職員が情報通信技術を活用した情報共有によるきめ細かな指導を行うことや、校務の負担軽減等）」の 3 つの側面での質の向上を掲げている。

\*1) Information and Communication Technology の略。IT=情報技術に通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉。

- ⑥ このような文部科学省を中心とした国の方針を受け、福生市教育委員会では、市立学校において「教育の情報化ビジョン」に掲げる ICT 環境整備を効果的・効率的に推進し、教職員が活用しやすい ICT 活用環境を作り、児童・生徒にとって魅力ある授業展開に資するために福生市立学校 ICT 推進計画を検討してきた。

## (2) 福生市教育委員会における教育施策を踏まえて

- ① 福生市教育委員会では、教育目標と基本方針に基づき、「福生市教育振興基本計画」を平成 22 年 3 月に策定した。この計画では、子どもたちの「知：確かな学力」「徳：豊かな人間性」及び「体：健康・体力」を基礎とする「生きる力」を育み、人間性豊かに成長することを願い、「魅力ある学校づくり」を推進してきた。また福生市全体の課題解決の実現のために「ふっさっ子未来会議」を平成 25 年 7 月に設置し、検討を行い、その結果を 6 つの未来提言としてまとめた。この会議で検討された内容を踏まえ、「福生市教育振興基本計画」を平成 27 年 6 月に後期 5 年間の計画として改定した。
- ② 平成 23 年度に改定された文部科学省の学習指導要領では「知：確かな学力」の重要な要素として「基礎的な知識・技能の習得」「知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む」「学習に取り組む意欲を養う」の 3 つを掲げている。
- ③ 福生市教育委員会は、「福生市教育振興基本計画」と改訂された学習指導要領に基づき、積極的な施策の推進に努めている。
- ④ このような福生市教育委員会における教育施策を、市の現状に沿った効率的・効果的な計画として、「福生市立学校 ICT 推進計画」を検討してきた。

## 2 福生市立学校 ICT 推進計画策定の目的

子どもたちの「生きる力」、中でも「知：確かな学力」を定着させる上で、ICT 機器の活用が有効であるとの認識が浸透しつつあるが、福生市立学校においては ICT 機器の利活用が効果的であるとは言えない状況である。

ICT 機器が、子どもたちの「学習意欲」「興味喚起」「理解促進」を向上させる授業支援となるという特長を生かし、福生市教育委員会の課題である「学力のさらなる向上」「不登校の改善」「福生市の特長を生かした英語教育」を後押し、「魅力ある学校づくり」を推進することを目的として、「福生市立学校 ICT 推進計画」を策定する。

ICT 機器を「新たな道具、利便性の高い道具」としてとらえ使いこなしていくことによって、教育目標を達成するスピードをさらに加速させるため、福生市立学校 ICT 推進計画策定の過程では、それぞれの教育目標ごとの現状と ICT 推進における課題の把握を重点的に行った。

## (1) 学力のさらなる向上

---

### ① 福生市立学校の学力の現状

ア 福生市教育委員会では、平成 26 年度に東京都教育委員会が作成した「東京ベーシックドリル」を活用し、小学校 1 年生～4 年生で学ぶ基礎的な学力習得を朝学習や放課後学習など授業外学習時間で徹底して行った。

イ その結果、平成 27 年度の東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では東京都平均には届かないまでも、低学力層の底上げに効果がでている。特に、中学校の低学力層では、正答数が習得目標値（教科書の例題問題レベルの問題数）に達していない生徒の割合が、数学を除く 4 教科で東京都平均を下回るなど、授業内容の工夫などによる改善の成果が見られた。（図表 1・図表 2）一方で、高学力層が少ないのも福生市の特徴である。

ウ 心理学者である新井邦二郎氏は「学習意欲の相対的強さの変化」（1995 年）の中で以下のように述べている。「小学校の中学年（3・4 年生）が、子どもの学習意欲を喚起するのによい時期であり、また、それによって勉強好きにできる可能性が高い時期だと言える。賞罰がまだ高い効力を発揮する最後の時期にあたり、親の期待に応えようという気持ちが最も強く、知りたいという欲求がそのまま学習意欲につながる時期である。」

エ 算数・数学の基礎基本のほとんどが小学校 4 年生までに集約されていると言っても過言ではなく、算数・数学を学ぼうえで最も重要な時期は、小学校 4 年生である。小学校 4 年生までの算数のつまずきが、その後の算数、ひいては中学校での数学の習得を困難にする「小 4 ビハインド（＝小 4 でのつまずき）」に陥る原因となり得る。

(図表 1) 平成 27 年度 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」

平均正答率

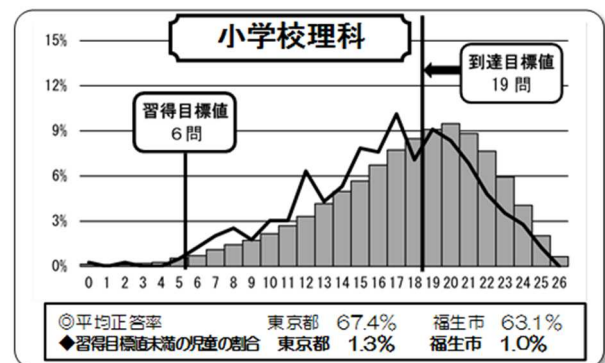
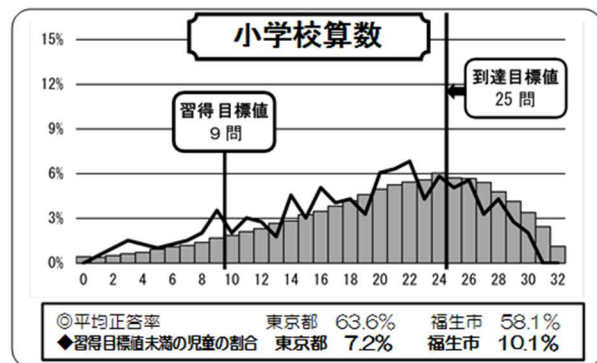
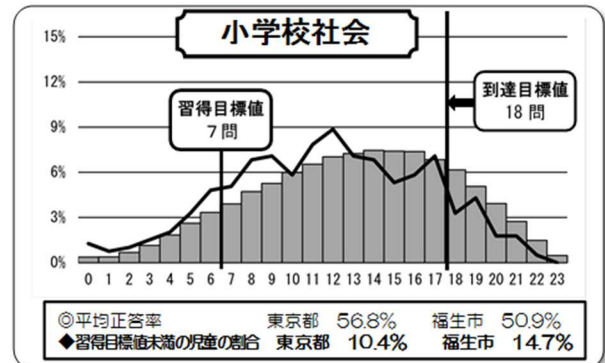
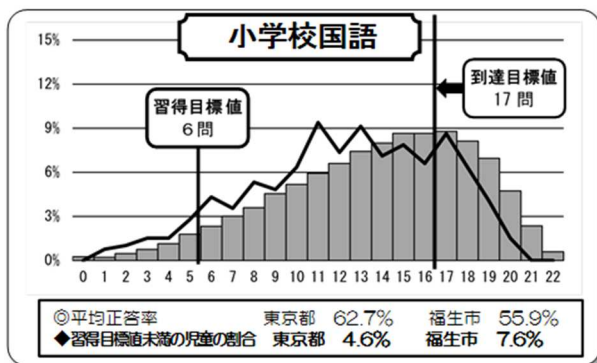
	小学校 5 年生		中学校 2 年生	
	福生市	東京都	福生市	東京都
国語	55.9%	62.7%	52.4%	54.1%
社会	50.9%	56.8%	50.4%	51.9%
算数・数学	58.1%	63.6%	52.1%	56.2%
理科	63.1%	67.4%	49.1%	49.3%
英語			60.0%	59.0%

(図表 2) 中学校の下位層が改善

	国語	社会	数学	理科	英語
福生市	0.8%	8.4%	15.1%	5.1	1.1%
東京都	2.1%	10.9%	11.7%	9.2	2.8%

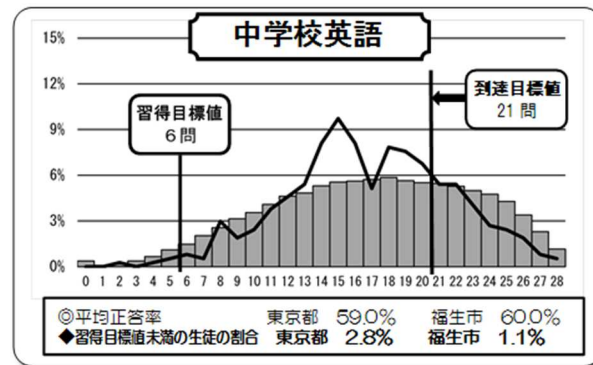
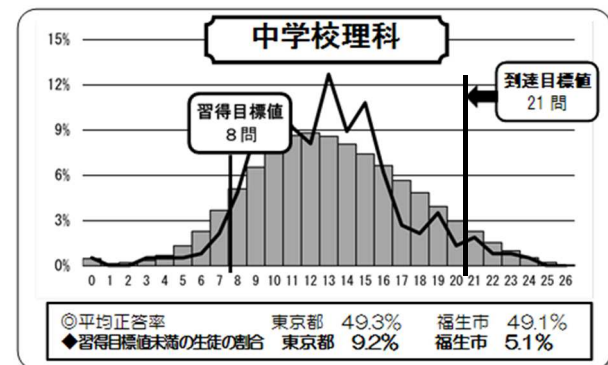
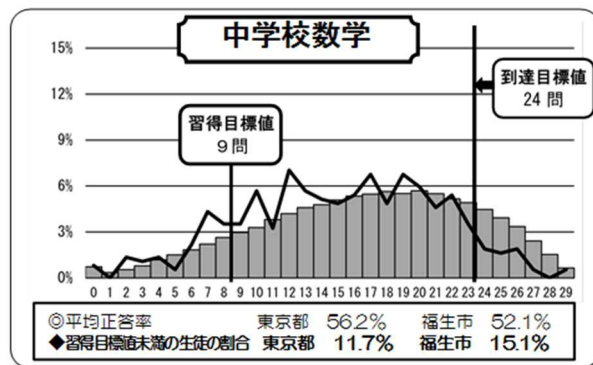
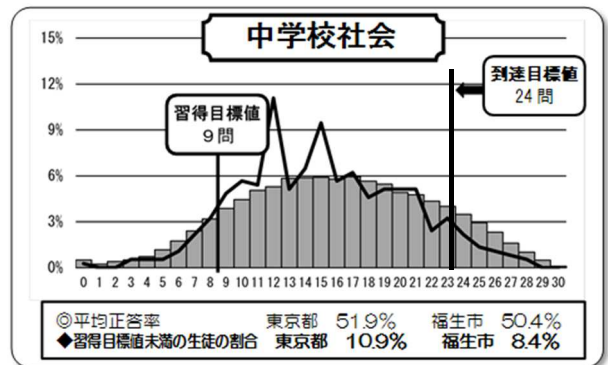
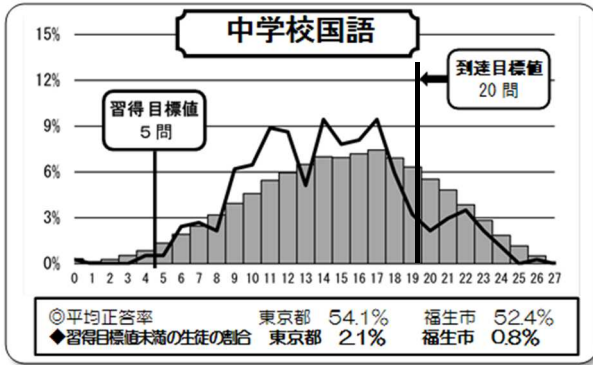
正答数が習得目標値（教科書の例題問題レベルの問題数）に達していない生徒の割合について、数学を除く 4 教科で東京都平均を下回った。

(図表 3) 正答数分布図：小学校





図表 4) 正答数分布図：中学校



■ …東京都    — …福生市

◆ 習得目標値 → 教科書の例題レベルの問題数  
★ 到達目標値 → 教科書の練習問題レベルの問題数

② 学力向上のための ICT の利活用

ア 小・中学校において、今後のさらなる学力の向上を目指すためには、現状の改善策を継続することに加えて、授業外学習の強化が有効な手段と考えられる。

イ 基礎学力の定着、及び学力の伸長には、家庭学習が重要となるが、「児童・生徒が家庭学習に取り組める十分な環境、設備の整備不足」「就学援助を受けている家庭が他自治体に比べ多く、授業外学習での支出が困難」「教員の授業外学習のために割ける時間、負担の増加」などの課題が挙げられる。

ウ 児童・生徒の家庭学習への取組姿勢は、家庭環境に大きく左右されている。「保護者の学習に対する関心の度合いが低い」、あるいは「経済的な事情で家庭内に学

習環境を整備できない」「学習意欲はあっても塾に通えない」などの家庭環境が学習意欲の低下に影響しているのが現状である。その点で、ICT 機器には、家庭環境に依存されずに、家庭学習を行うためのツールとしての役割が期待される。

エ 「学校での ICT 活用に関する調査」「学校ヒアリング」の結果から、教員が時間をかけている、最も時間をかけたい活動は「授業」「授業用の教材研究」であり、授業運営そのものに対して高い意識を持っていることがうかがえる。児童・生徒の習熟は把握したいと考える一方、授業運営と直接結びつかない練習問題の作成や準備、その採点には、それほど時間をかけたくないという内心が察せられる。

オ 限られた時間の中で効率的に業務を進めつつ、必要な情報を把握できる支援が望まれていることが推察できる。

カ 児童・生徒の家庭学習と教員の負担軽減の双方を支援できる手段として、ICT 機器の活用は有効なツールとしての期待がもてる。その中でも、タブレット PC<sup>\*2)</sup>を用いた家庭学習は他の ICT 機器に比べて高い効果が見込まれる。

キ あらかじめ、学習ドリル、自動採点、学習管理システムを組み込んだタブレット PC を児童・生徒が家庭に持ち帰り、家庭学習に励む。その結果を教員が閲覧、抽出できる仕組みが構築できれば、教員の負担も解消され、家庭環境の課題の解決策にもなる。

ク 「学校での ICT 活用に関する調査」「学校ヒアリング」の結果から、管理職の ICT 強化への意向が小学校 4 年生から急激に増加している。対象教科の組合せでは、小学校 4 年生の算数をもっとも高い。「小 4 ビハインド」の危険性を意識している事が伺える。また、算数は考えの筋道を明らかにしていく醍醐味をもっとも感じられる教科であり、がんばった成果が数字に表れるため、子どもたちにとって励みや達成感の得られる教科である。物事を論理的に「考える力」(思考力)を育てる教科でもあり、実生活でのあらゆる局面で必要とされる能力を育む教科でもある。小学校 3・4 年生の算数から重点的にタブレット PC の持ち帰り、家庭学習に取り組むことを検討する。

## (2) 不登校の改善

### ① 不登校の現状

ア 不登校に関しては、小学校では改善されつつあるものの、中学校は東京都、全国平均と比べ（不登校）出現率が高い状況である。（図表 4）

イ 復帰率についても、小・中学校いずれも東京都、全国平均を下回っており、さらなる改善策が必要となっている。（図表 5）

\*2) キーボードがなく画面をタッチして操作するコンピュータ。

(図表 5) 不登校出現率の推移

単位 (%)

		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
小学校	福生市	0.54	0.63	0.64	0.59	0.20
	東京都	0.34	0.36	0.34	0.43	0.46
	全国	0.32	0.33	0.31	0.40	0.39
中学校	福生市	5.13	4.62	5.03	6.09	4.40
	東京都	3.07	2.93	2.76	3.03	3.17
	全国	2.73	2.64	2.56	2.70	2.76

出所:「福生市立小学校・中学校における「不登校」の状況」

(図表 6) 不登校児童・生徒の学校復帰率

単位 (%)

		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
小学校	福生市	20.0	35.3	64.7	40.0	20.0
	東京都	32.5	34.6	33.6	32.7	33.3
中学校	福生市	23.6	33.9	38.5	7.8	7.4
	東京都	27.7	28.4	23.9	25.3	25.1

出所:「福生市立小学校・中学校における「不登校」の状況」

ウ 文部科学省の「不登校に関する実態調査」によると、不登校のきっかけとして、「友人との関係 45%」に次いで「勉強がわからない 28%」が二番目となっており、学業不振が不登校の大きな要因であることが伺える。(図表 6)

エ 基礎学力の習得ができず、「小4 ビハインド」に陥った児童・生徒が不登校となる可能性も考えられる。

(図表 7) 不登校のきっかけ

理由	比率	順位
友人との関係	45%	1
先生との関係	21%	3
勉強がわからない	28%	2
クラブ活動の友人・先輩との関係	17%	4
学校の決まりなどの問題	10%	7
家族の生活環境の急激な変化	4%	9
親との関係	11%	6
家族の不和	8%	8
病気	13%	5

出所:文部科学省「不登校に関する実態調査」

## ② 不登校の児童・生徒を支援するための ICT の利活用

ア 基礎学力の低さが、不登校問題に大きく影響している現状を踏まえると、「福生市立学校の不登校総合対策」とあわせて、基礎学力の向上を図っていくことが不登校の児童・生徒への有効な支援となり得る。

イ 「学力のさらなる向上」への取組と同様に、「授業外学習」を充実させることが不登校の対策においても重要となる。「勉強がわからない」という状況を解決することが、不登校になる前の予防策と、学校復帰を促す対処策になると考えられる。

ウ 家庭でのタブレット PC による基礎学力の習熟支援を促進し、児童・生徒が不登校になるのを防ぐことと、不登校の児童・生徒の学校復帰を手助けすることが、ICT 機器の利活用で期待できる。

## (3) 福生市の特長を生かした英語教育

### ① 英語教育に対する取組の現状

ア 福生市は、総人口に占める外国人の割合が高く、和と洋の文化が混在するという特長を持っている。それを背景として、小学生の段階から異文化の中でのコミュニケーション能力を高めていくことを目的に、「外国語活動年間指導計画」では、小学校 5・6 年生で 70 時間の外国語活動の計画を策定した。

イ その他、市内の全小・中学校の英語授業の充実を目指し、英語教育担当統括指導主事による英語教育の指導・助言を行い、授業力の向上や ALT<sup>\*3)</sup>の配置など様々な施策を実施している。

ウ また、「ふっさっ子未来会議」の未来提言では、「自国の文化理解を前提に、国際的な視野に立ち、グローバル化の進展の中で活躍できる力を育てる。」という考え方に基づき「福生の子どもに自信と誇りを持たせ、グローバル化する社会においても積極的に人とコミュニケーションが図れる資質・能力を育成する英語教育を展開する」ことを目的とした「福生市英語教育推進計画」を策定した。

エ さらに、「福生市立外国語活動年間指導計画改定」「英検福生モデル：小学校 6 年生までに英検 5 級、中学校 3 年生までに 3 級取得」「オリンピック、パラリンピック教育の一貫として外国人とのコミュニケーション実践」の施策を実施している。

オ 「福生市英語教育推進計画」を促進するために、平成 32 年からの小学校 5・6 年生の英語教科化と小学校 3・4 年生の英語必修化に対する対策を講じていく。

\*3) Assistant Language Teacher の略。日本人教師を補佐し、英語を母語とする外国人指導助手。

## ② 英語教育支援のための ICT の利活用

ア 「学校での ICT 活用に関する調査」及び「学校ヒアリング」の結果では、一般の教員の間では、現状の英語教育は小学校 5・6 年生のみの「外国語活動」という認識である。また、授業時数も少なく、福生市英語教育推進事業や ALT の配置が行き届いているため課題意識は低い。一方、管理職は、平成 32 年からの小学校 5・6 年生英語教科化、3・4 年生必修化を見据えて英語教育に対する危機意識は高い。

イ 英語教育が教科化されることで授業の時間数が大幅に増え、それに伴い ALT の不足が予想されている。その一方で、教員は日常の職務が忙しく、新しい英語教育のための時間を割くのは難しいと想定される。そのため、トレーニング時間を要さず、教員が自力で授業を実施していくことを考えると、ICT 機器の利活用は期待が持てる。

ウ 英語教育における ICT 機器の利活用に関しては、実物投影機（書画カメラ）と教科指導用 PC が現時点で既に小学校・中学校ともに整備が整っており、操作も容易なことから、実物投影機（書画カメラ）と教科指導用 PC を組み合わせた施策が、ICT 推進の導入当初は最も即効性があり実現性が高いと想定される。

エ 実物投影機（書画カメラ）は、実物や実演（実験など）と児童・生徒のノートを投影することが主要な用途であったが、教科指導用 PC と接続することで、新たな授業展開を図ることが可能となる。教科指導用 PC に英語教材を搭載し実物投影機（書画カメラ）で投影するなど、教員への支援策としても期待される。

# 3 福生市立学校 ICT 推進計画の概要

## (1) 主要な施策

### ① 校務の情報化

ア 小・中学校ともに、学校ごとに構築している校務支援システムを学校間や教育委員会との情報共有を可能にし、資産の圧縮を図るため、センターサーバ型へと移行することを検討する。

イ 計画の導入段階では既存の校務支援システム<sup>\*4)</sup>と校務用 PC を利活用し、センターサーバ型校務支援システム<sup>\*5)</sup>の導入と、各サーバにアクセスするためのネットワーク構築の検討を行う。

ウ 教員へは、PC 操作、校務支援システム操作、ユーザーアカウント<sup>\*6)</sup>管理方法習

\*4) 校務業務の負担軽減と教職員等学校関係者が必要な情報を共有できるシステム。

\*5) データセンターにて校務情報を一元管理する機構。

\*6) 利用者がコンピュータやシステムにアクセスする際に利用者を識別する文字列。

得のための支援を行い、あわせて、個人情報を取扱ううえで重要となる情報モラル教育<sup>\*7)</sup>の浸透を図る。

## ② 教科指導における情報通信技術の活用

### ア 授業での活用

(ア) 小・中学校ともに、授業への導入が有効と考えられる ICT 機器を検討すると、大画面 TV や実物投影機（書画カメラ）が効果的である。その中でも、実物投影機（書画カメラ）は、小学校・中学校とも各学級にほぼ 1 台配備されており、機器操作が複雑ではなくトラブルも少ないため、学校 ICT としての展開が期待できる。

(イ) 実物投影機（書画カメラ）の活用により、従来の実物投影機（書画カメラ）を主とした使用方法に加えて、教科指導用 PC との連動を図る。

(ウ) 教科指導用 PC については担任制と教科担当制の違いにより、現状では小学校と中学校で使用頻度の差が多少みられるので、教室間移動などの物理的な障壁をなくすために、持ち運びが可能なタブレット PC の導入を検討する。

### イ 授業外学習・家庭学習での活用

(ア) 授業外学習・家庭学習では、学校所有のタブレット PC を使った持ち帰り学習を開始し、のちに児童・生徒用タブレット PC の導入を検討する。

(イ) タブレット PC を活用することにより、児童・生徒が家庭環境に左右されずに学習に取り組める環境となる。

(ウ) また、教員の持ち帰り学習に向けての教材準備や採点などの作業を軽減し、あわせて児童・生徒の学習状況や習熟度の把握が可能となる。

### ウ 英語教育での活用

(ア) 実物投影機（書画カメラ）と教科指導用 PC の組み合わせは様々な教科で期待できるが、特に今後導入される小学校での英語授業の支援のための活用に重点を置く。

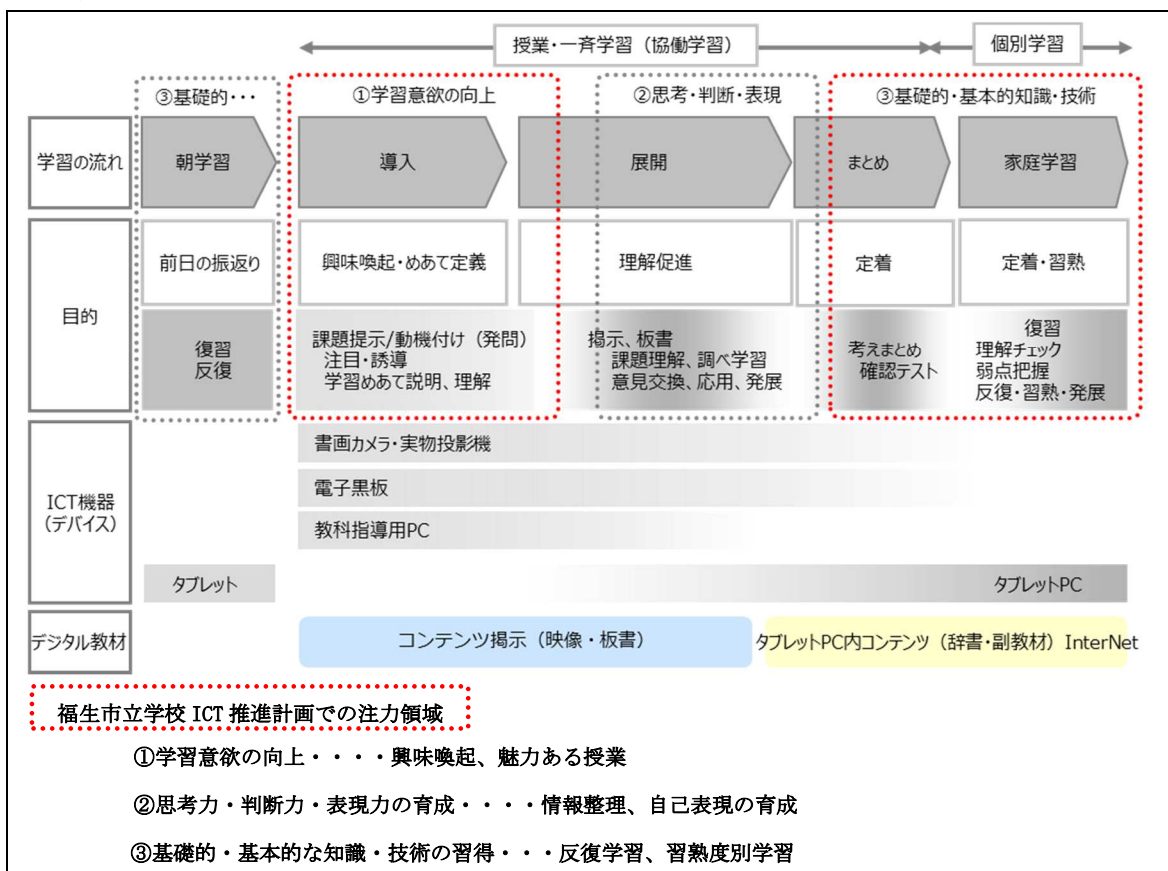
(イ) 事前に教科指導用 PC に英語授業の教材を搭載して、実物投影機（書画カメラ）で投影をする方法を取ることで ALT 支援だけに頼ることのない英語授業の実現を目指す。まずは小学校 3・4・5・6 年生の英語教科における活用に重点を置く。

---

\*7) 情報社会における正しい判断や望ましい態度の育成、教育。



(図表 8) 学習シーンに対する ICT 機器の活用



### ③ 家庭・地域との連携強化

ア 小・中学校ともに、保護者との連携強化や緊急・災害対策には、コミュニケーションツール<sup>\*8)</sup>を継続して使用する。このコミュニケーションツールは、家庭・地域への情報発信のためのツールとして引き続き活用していく。

イ 教員へは、システムを活用するにあたって、PC 操作、学習支援サービス操作、ユーザーアカウント管理方法、緊急・災害時対策の活動ルール習得のための支援を行う。保護者へは、個人情報を取扱ううえで重要となる情報モラル教育の浸透を図る。

## (2) 主要な施策を補助するための施策

### ① 教員への支援

ア 小・中学校ともに、ICT 支援員を活用し、教員が ICT 機器の操作方法や活用方法を習得するための支援を行う。

\*8) メールやメッセージなど情報伝達するための手段。

- イ 小学校では一斉型の OJT<sup>\*9)</sup>で ICT 支援員から、操作方法や活用方法の指導を行う。
- ウ 中学校では、教科ごとに教員の担当が分かれているため、ICT 支援員を中心に教科ごとの小集団で学校 ICT についての討議を行い、操作方法や活用方法の習得を目指す。
- エ ICT 支援員から各機器の活用例や、搭載する教材コンテンツなどの指導を実施することで、「ICT を使って、いかに効果的で楽しい授業ができるか」という授業設計に関しても支援を行う。
- オ 各学校で情報化推進リーダーを育成し、他の教員への普及を促進させていく仕組みを構築する。ICT 機器を熟知した “情報化推進リーダー” となる教員が存在することで、他の教員へのサポートが強化されるとともに、教員間の協力で ICT への理解が促進されることが期待できる。

## ② 情報モラル教育

- ア 児童・生徒にタブレット PC を携帯させることを想定し、情報モラル教育のさらなる徹底を行う。
- イ ICT 機器を使うであろう場面と、その中で生じるリスクを想定し、特に、「個人情報の取扱」「タブレット PC の取扱」に関する情報モラル教育を重点的に行う。
- ウ 教員と保護者に関しては、教員への支援や家庭・地域との連携強化の中で、情報モラル教育の浸透を図る。

## ③ 特別支援教育・日本語学級の情報化

- 特別支援教育と日本語学級に関しては、それぞれにおいて留意すべき点を踏まえつつ、教科指導における情報通信技術の活用と、同時に、実物投影機（書画カメラ）やタブレットの利活用と導入を検討する。

---

<sup>\*9)</sup> On the Job Training の略。現場実務をさせることで行うトレーニング。



## 第二章 福生市教育委員会が目指す学校 ICT とその現状

### 1 「学校 ICT の活用」をどのようにとらえるか

第一章では、福生市教育委員会が学校 ICT の活用を推進する背景、学校 ICT 計画策定の目的等について、学力向上策や不登校対策、英語教育等、本市の主要な教育施策と関連させながら明らかにしてきた。

本章では、福生市教育委員会が目指す学校 ICT とその現状についてまとめていく。

その前段として、「そもそも学校 ICT を整備することで、授業はどのように変わり、どのように改善されるのか」という根本的な視点を整理したい。つまり、高額な予算を投じてでも、学校 ICT を導入する必要があるというその理由について、特に学校 ICT 導入によって目指す授業改善の姿を明確に示すことで説明責任を果たしたい。

そこで、ここでは福生市立小・中学校から委員を委嘱して構成している「福生市情報教育推進委員会」が平成 27 年度まで検討や協議を重ねて得た授業改善の視点や、平成 28 年 2 月 19 日に実施した同推進委員会の研究授業等を通じて明らかになった視点についてまとめる。

#### (1) ICT の特長を生かした指導場面

ICT の特長を生かした指導場面として、「児童・生徒の思考や学びの状況を可視化できること」「児童・生徒の思考や学びの状況を瞬時に共有化できること」「成功・達成・習熟するまで試行を多様に、そして何度でも繰り返せること」等が考えられる。

##### ① 児童・生徒の思考や学びの状況を可視化できること

教員は、児童・生徒がどのように考え、課題に対してどのように学んでいるか、その把握に努める必要がある。このことは、一斉学習、個別学習、グループ学習等、学習形態の是非を問わない。いわゆる「児童・生徒理解」である。この「児童・生徒理解」の技術は、経験の浅い若手教員であればあるほど不足しがちな側面である。それを補う手立てとして、ICT の特長を生かした指導の実現が期待できる。例えば、大画面テレビ等を活用して、子どもの学習のプロセスやその結果を可視化することができれば、「児童・生徒理解」の手立てとしては極めて有効である。児童・生徒の考えを把握し、個に応じた指導に生かすことができる。また、児童・生徒にとっても、学習内容のイメージが深まり、学習意欲を高めることが期待できる。

##### ② 児童・生徒の思考や学びの状況を瞬時に共有化できること

教員は、その授業の学びを、いかに教室に広げていくかに苦心する。いわゆる「学びの共有化」の工夫である。例えば、「Aさんは、メダカの卵の観察で、こんなスケッチを描きました」と、ノートに描かれた卵の絵についての中で着目させたい部分を

紹介する際、a：口頭で紹介する。b：実物投影机（書画カメラ）を使って大画面テレビで写す。c：タブレットでノートを写し、A君以外の児童の作品も含めて複数枚撮影して、大画面テレビのコマ割り画面に同時に写す。aもbもcも、「児童・生徒の思考や学びの状況を瞬時に共有化したい」という教員の思いは同じである。しかしながら、bもcともに、ICT環境が整備されていない限り、実現できない授業である。

すなわち、ICTの特長を生かせば、あらゆる授業場面で、児童・生徒一人一人が考えたこと、学びの状況を瞬時に学級全体で共有化することが可能となる。

③ 成功・達成・習熟するまで試行を多様に、そして何度でも繰り返せること

「できるまでやる」、「わかるまでやる」、「身に付くまで繰り返してやる」。これは、教員の姿勢であるとともに、児童・生徒自身に身に付けさせたい学びの姿である。しかしながら、現実には授業の1単位時間は決まっており、かつ紙による教材については書いてしまえばそこまでである。つまり、成功・達成・習熟するまで試みを繰り返すことは、紙が中心となる授業では、自ずと限界がある。

ICTには、「試行錯誤が容易」という特長がある。児童・生徒が何度でも試行を繰り返すことで、自らの考えを深めたり、計算問題や演習等についてできるまで何度でも繰り返して取り組んだりすることが可能になる。

## (2) ICT を利活用するための類型 7 + 2 (Seven+Two)

ICT が導入された際、その特長を生かした授業改善が期待される3つの指導場面を示した。ここでは、3つの指導場面において ICT を利活用するための7類型と、環境整備としての2類型を示す。福生市教育委員会が学校 ICT を導入する際の視点としたい。

視点	No	類 型	説 明
指導場面 7	1	興味喚起学習	内容に興味をもてない児童・生徒に対して、興味をもたせる。
	2	モチベーション喚起	外部からモチベーションを与えることで、学習意欲を高める。
	3	理解促進	ICT 機器導入前の授業では説明しにくい、わかりにくい部分の理解を深める。
	4	授業効率化	黒板に何度も同じ地図や図、図形問題などを描く手間を省く。
	5	進捗確認、理解度確認	学習時間や、問題の正誤判定結果などを記録する。
	6	教材拡充	これまで見せにくかった教材を提示できる。
	7	表現手段、思考手段の拡充	デジタルならではの表現や思考のオプションを増やす。
環境整備 2	8	家庭との情報共有	事務連絡や教室での様子を保護者に伝える。
	9	学習環境の拡充	教室外で学習ができるようになり、学習時間を増やせる。

この9類型は、平成 28 年 2 月 19 日に実施した福生市情報教育推進委員会 研究授業の際に、講師として御指導をいただいた、フューチャーインスティテュート株式会社 教育 ICT リサーチ主席研究員 為田裕行氏の講義内容を引用し、用語の整理をして「ICT 利活用類型 7 + 2」としてまとめたものである。

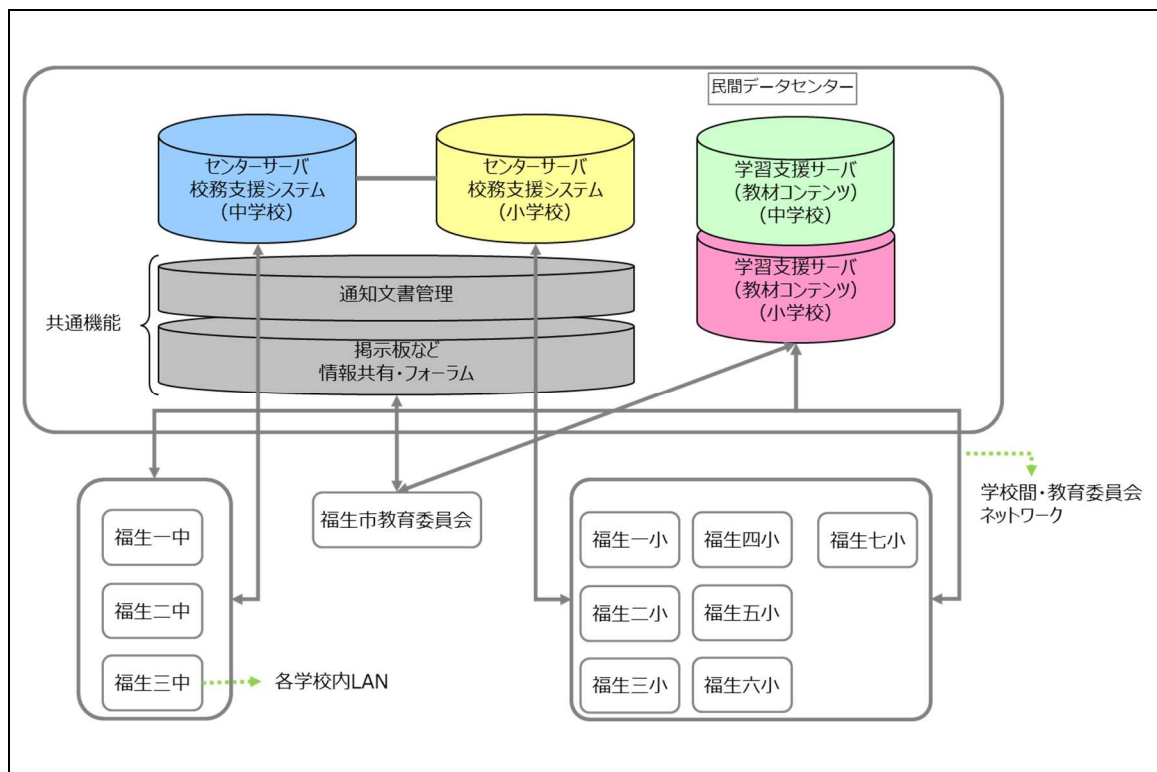
## 2

# 福生市教育委員会が目指す学校 ICT

## (1) 主要な施策における学校 ICT

### ① インフラ構築の全体図

(図表 9) センターサーバ型校務システムと学習支援サーバ構想



#### ア 学校内のネットワーク構築

(ア) 小・中学校において学校内でタブレット PC を PC 教室以外に持ち運ぶことを想定し、校内 LAN<sup>\*10)</sup> (WiFi<sup>\*11)</sup>を含む) の構築を検討する。

(イ) 小・中学校共に PC 教室の PC 更新までに運用を開始できるように計画する。

#### イ センターサーバ型校務支援システム・学習支援サーバの導入

(ア) 現状、学校毎に設置している校務支援システムを一元管理するためのセンターサーバ型校務システムと、教材コンテンツや学習システム、教員間情報連携のための学習支援サーバの設置を検討する。

(イ) 小・中学校共に各サーバの更新時期に合わせて導入を検討する。

\*10) Local Area Network の略。学校内のネットワークを意味する。職員室、各教室（特別教室、体育館）に配備。

\*11) Wireless Fidelity の略。無線 LAN と動議。教室内でタブレットなどの通信機器からネットワーク接続する際に活用する。

ウ 学校間と教育委員会とのネットワーク構築

(ア) センターサーバ型校務支援システム・学習支援サーバに蓄積された情報を有効活用する、各学校、教育委員会間で情報共有をするために、学校間と教育委員会を結ぶネットワークの構築を検討する。

② 家庭学習の促進、効果的な授業支援を考慮した PC 教室の PC 更新

文部科学省は「教育の IT 化に向けた環境整備 4 か年計画」で、各校「コンピュータ教室 40 台」と「設置場所を限定しない可動式コンピュータ 40 台」の設置を推奨しているが、資産を有効利用するため、当面、双方 40 台の設置はせず、キーボード脱着式ノート PC<sup>\*12)</sup>の導入を検討する。「コンピュータ教室の PC」と「設置場所を限定しない可動式コンピュータ」の兼用が可能となり、PC 教室、普通教室、特別教室、持ち帰り学習など、幅広い活用が可能となる。また、教科指導用 PC としても活用できる。

③ 家庭学習を促進するための環境整備

児童・生徒に一人一台のタブレットを一括で導入することは、財政的にも、負担が大きいことを踏まえて、次のア、イ、ウのステップで導入を計画する。

ア PC 教室へのキーボード脱着式ノート PC の導入

(ア) PC 教室での PC 基本操作の習得、及び普通教室、屋外、課外活動での活用を想定する。

(イ) 小・中学校共に PC 教室の PC 更新の際に検討する。

イ PC 教室のキーボード脱着式ノート PC を、持ち帰り学習・家庭学習用として活用

(ア) 小学校では小学校 3・4 年生に重点を置き、持ち帰り学習の開始を検討する。

ウ 授業外学習、家庭学習用タブレットの導入

(ア) 小学校 3・4 年生からタブレットの導入を検討する。

(イ) 家庭環境に通信設備が無い場合でも使用できるように、WiFi 機器の導入や SIM<sup>\*13)</sup>フリー・LTE<sup>\*14)</sup>などの通信機能搭載の導入も検討をする。

(ウ) また、搭載する学習システム、学習コンテンツも通信設備・機能がなくても可動することを条件に導入の検討をする。

(エ) 通信環境下では学習システムと連動し、児童・生徒の学習履歴が学習支援サーバに集約されるような学習システム、学習コンテンツの導入を検討する。

\*12) キーボードを取外すとタブレット PC として活用できる PC。

\*13) Subscriber Identity Module card の略。携帯情報端末に差し込んで使用する契約者情報を記録した IC カード。

\*14) Long Term Evolution の略。携帯電話通信規格のひとつで、現在主流となっている第 3 世代携帯の通信規格 (3G) をさらに高速化させたもの。

(図表 10) 児童・生徒用タブレット導入推進スケジュール (例)

	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3	ステップ 4
小学校	PC 教室へ キーボード脱着 式ノート PC 導入  PC 教室 PC を 家庭学習・持ち帰 り学習用に活用	児童用 タブレット導入 小学校 3・4 年生 を優先		
中学校			PC 教室へ キーボード脱着 式ノート PC 導入  PC 教室 PC を 家庭学習・持ち帰 り学習用に活用	生徒用 タブレット導入

④ 効果的な授業支援を実現するための環境整備

児童・生徒へのタブレット導入と同様に、財政的に負担が大きいことを踏まえて、教員用の教科指導用 PC の導入について次のア、イのステップで計画する。

ア PC 教室のキーボード脱着式ノート PC を教員教科指導用 PC として一部活用

(ア) 本来、PC 教室の機器の活用目的は PC 教室内での教科指導であるが、教員の教科指導用 PC 導入まで、当面は教員教科指導用 PC としても一部併用することを検討する。

(イ) 実物投影機 (書画カメラ) との連動を図るため、授業支援システムの導入を検討する。

イ 教科指導用タブレット PC を教員に導入

小・中学校の教員 (本務者) にタブレット PC の導入を検討する。

(図表 11) 教員用タブレットの導入推進スケジュール (例)

	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3	ステップ 4
小学校	<p>PC 教室へ キーボード脱着 式ノート PC 導入</p> <p>PC 教室 PC を 教科指導用 PC と して活用</p>	<p>教員用 タブレット導入</p>		
中学校			<p>PC 教室へ キーボード脱着 式ノート PC 導入</p> <p>PC 教室 PC を 教科指導用 PC と して活用</p>	<p>教員用 タブレット導入</p>

## (2) 主要な施策を補助するための学校 ICT

(図表 12) 教員への支援・情報モラル教育

	教員への支援	情報モラル教育
校務の情報化	① PC 操作	教員や生徒・保護者の個人 情報取扱い
家庭・地域との 連携強化	② 校務支援システム操作	
	③ ユーザーアカウント管理方法 ④ 学習支援システム操作 ⑤ コミュニケーション ツール操作 ⑥ 緊急・災害時対策の活動 ルール	
実物投影機（書 画カメラ）導入	① 書画カメラ操作、活用方法 ② タブレット操作、活用方法 ③ デジタル教材・コンテンツの活 用方法	タブレット取扱いに係る モラル教育
タブレット導入	④ 情報化推進リーダーの育成 ⑤ ICT を活用した授業設計支援	

① 教員への支援

ア 既存の ICT 機器を含めた全般的なデジタル機材の操作や活用の仕方、ICT 機器に搭載される各コンテンツの活用と ICT を活用した授業設計の支援を検討する。

イ 計画の初期段階では、導入予定の ICT 機器の操作方法、及び、デジタル教材やコンテンツの活用方法を具体的に指導する。加えて、PC の操作方法、既存学習支援サービスの操作方法、ユーザーアカウント管理、緊急・災害時対策の活動ルール等の習得の支援を行う。

② 情報モラル教育

児童・生徒に対する、ICT 機器の利活用方法の指導とあわせて、「情報の取扱い」「ICT 機器の取扱い」「個人情報の取扱い」などに関する情報を正しく安全に利用できるように、教科指導の中に情報モラル教育を盛り込む。

③ 特別支援教育・日本語学級の情報化

特別支援教育や日本語学級に関しては、それぞれにおいて留意すべき点を踏まえ、教科指導における情報通信技術の活用と同様に、実物投影機（書画カメラ）やタブレットの導入を検討する。

### 3

## 福生市立学校における学校 ICT の現状

「福生市立学校 ICT 推進計画」の策定にあたり、福生市立小・中学校において、どの程度 ICT が活用されているのかを確認する調査を実施した。調査では、全教員、管理職に対してのアンケート、学校管理職に対してのヒアリングを行った。

### (1) ICT 機器整備状況

- ① 実物投影機（書画カメラ）、普通教室の大画面 TV、は各校各教室に整備済み。
- ② 校務用 PC は教員に一人一台整備されている。
- ③ 学校内ネットワーク（校内 LAN）は職員室、PC 教室には整備されているが、普通教室には整備されていない。

(図表 13) 学校 ICT 機器整備状況

	実物投影機 (書画カメラ)	教科指導用 PC	教科指導用 タブレット	大画面 TV	校務用 PC
小学校 (7 校平均台数)	16.1 台	10.7 台	0.0 台	11.9 台	12.8 台
中学校 (3 校平均台数)	9.3 台	5.0 台	0.0 台	22 台	32.3 台



## (2) ICT 機器稼働状況

(図表 14) 学校 ICT 稼働状況

	小学校	中学校
実物投影機 (書画カメラ)	普通教室では 100%稼働している。	特別教室では 100%稼働されているが、普通教室では 50%程度の稼働率である。
教科指導用 PC	共有スペース保管されているため、移動に手間がかかる。50%程度の稼働率である。	共有スペース保管されているため、移動に手間がかかる。80%以上の高稼働率である。
大画面 TV	各学級に 1 台設置されている。トラブルが少なく稼働率が高い。	普通教室、特別教室には、ほぼ 100%導入されており、稼働率も高い。
校務 PC	成績管理・通知表管理に 100%稼働している。	成績管理・通知表管理に 100%稼働している。

### ① 実物投影機（書画カメラ）

ア 課題提示、動機づけ、理解促進、児童・生徒の発表に活用されている。

イ 小・中学校共にほぼ 1 台/学級に整備され、機器操作が複雑ではなくトラブルも少ないため稼働率が高く、主に授業での導入・課題提示のシーンで活用されている。

ウ 中学校では教室間移動があり、小学校に比べ授業内での学習内容も多いため、機材のセットアップなどの僅かな準備時間が惜しいと感じている教員が多く、小学校に比べて若干稼働率が下がる。

### ② 教科指導用 PC

ア 課題提示、動機づけ、理解促進、児童・生徒の発表に活用されている。

イ 教科指導用 PC は共有スペースに保管されており、共有物として利用されている。

ウ 小学校では、教員は 1 日中教科指導用 PC を確保することができないため、教科指導用 PC を利用する場合は、自作した教材コンテンツデータを授業の度に PC へセットアップする必要がある。そのため中学校よりも稼働率が低い。

エ 中学校では、担当している教科のデジタル教材を教科指導用 PC にセットアップすれば、異なる学級で使い回しができるため、教科指導用 PC の稼働率が高くなっている。

オ 新たに ICT 機器を導入する場合、中学校では教科別指導であるため、教室常設ではなく教師が持ち歩けるタブレット PC が望ましい。

③ 大画面 TV

ア 課題提示、動機づけ、理解促進、児童・生徒の発表に活用されている。

イ 大画面 TV の整備率は高いが、活用頻度は実物投影機（書画カメラ）ほどではない。大画面 TV を活用するには活用したい映像、DVD の手配が必要である。実際は、活用したい映像、DVD は少ない。また、再生機へのセットや活用したいシーンの頭出しなど、少なからず手間がかかる。

④ 校務用 PC

小・中学校ともにほぼ活用されている。特に「成績管理」「通知表管理」「出欠管理」「学籍管理」など、校務業務の主要な作業は、校務管理システムで遂行している。

### (3) 教員の ICT に対する期待

小・中学校へのヒアリング結果から ICT 導入に対する様々な要望が伺える。その中でもタブレットとセンターサーバ型校務支援システムは、小・中学校どちらの教員からも導入による効果が期待されている。

(図表 15) 小学校・中学校ヒアリング結果

	小学校	中学校
実物投影機(書画カメラ)+PC の教室設置について	書画カメラと PC とを接続しデジタル教材(静止画、動画、音声など)の出力デバイスとしての活用が有効である。	教員は教科別担当であり教室間を移動するため、授業毎に PC セットアップ する手間がかかる。
PC 教室、及び授業外使用のタブレット導入について	タブレット PC は、教室外に持ち出し、課外活動、屋外活動、普通教室での活用など機動性を活かした授業展開が図れる。また、タブレットは、カメラや音声、録画など機能も充実しているため、導入への期待が大きい。	
英語の授業支援強化について	平成 32 年の 5・6 年生の英語教科化、3・4 年生の必修化に備え、ICT による支援は必要だと認識している。	ICT による支援が必要であると認識には賛同する。
授業外学習支援について(タブレット学習)	個別学習の促進に役立つ。児童の習熟度に合わせて問題を出し分けるシステムと教材コンテンツが必要である。管理職は 4 年生の算数に対する ICT 意向が高い。	低学力層の生徒が小学校レベルまで戻って弱点克服ができると良い。生徒の情報モラル教育も必要である。
教員への ICT 支援について	機器の操作方法だけではなく、教科指導の中で ICT 機器の活用ポイントや指導法も支援してほしい。	教科毎の担当であるため、教科毎の小集団で ICT 活用を議論し、その場に ICT 支援員が参画するのが良い。
学校内ネットワークについて	現状は学校内に絞られているが、学校間で情報の共有ができたほうが良い。また、学校毎に校務サーバを構築しているが、将来的にはセンターサーバで集中管理すべきである。さらに、教育委員会とも情報連携の必要がある。	

# 第三章 福生市教育委員会が目指す学校 ICT の実現に向けて

福生市立学校 ICT 推進計画は、ICT 環境整備及び ICT 教育推進に向けた理念計画であり、基本計画である。その具現化に当たっては福生市企画財政部との十分な調整が必要である。そこで、本計画書の 29 ページに示す「福生市立学校 ICT 推進計画実行体制」に基づき、目指すべき学校 ICT の実現に向けた実施計画を今後、計画的に展開していく。

## 1 ICT 環境整備

(図表 16) 学校 ICT 環境整備計画推進スケジュール (例)

		現状	導入準備	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3	ステップ 4
学校情報環境	校務用 PC	校務用 PC 活用				中学校校務用 PC 更新	小学校校務用 PC 更新
	センターサーバ型校務支援システム	既存システム活用	導入検討	構築作業	運用開始		
	学校間・教育委員会ネットワーク						
	学習支援サーバ		導入検討	構築	学習支援サーバ運用開始		
	校内 LAN		導入検討	構築	運用開始		
授業支援環境	実物投影機(書画カメラ)導入	既存書画カメラ利活用	活用のための施策の検討	書画カメラ入替え 授業支援システム導入	授業支援システム運用開始		
	タブレット PC タブレット	教材コンテンツ検討	機種選定 事前調査 設計準備	小学校 PC 教室の PC 更新	小学校 教員と 3・4 年生にタブレット導入	中学校 PC 教室の PC 更新	中学校 教員と生徒にタブレット導入
家庭学習環境	保護者連絡手段	コミュニケーションツール運用					

## **(1) 福生市立学校 ICT 全体推進**

---

福生市教育委員会教育部教育支援課と教育指導課が主管となり、本計画を推進する。あわせて、福生市立学校情報セキュリティポリシー（仮称）の策定、及び福生市教育委員会に情報システム担当の配置についても検討を行う。

## **(2) 学校情報環境の整備**

---

① センターサーバ型校務支援システムと学校間・教育委員会ネットワークの導入  
ア 計画の導入段階では既存の校務支援システムと校務用 PC を利活用する。

イ 小・中学校の校務用 PC 更新にあわせ、センターサーバ型校務支援システム、及び学校間・教育委員会ネットワークの運用を検討する。

② 小・中学校への学校内ネットワーク（校内 LAN）・学習支援環境の整備

ア 校内 LAN を各教室（特別教室・体育館）に整備することを検討する。

イ 学習支援環境設備（学習支援サーバ）の構築を検討する。

## **(3) 家庭学習を促進するための環境整備**

---

① 家庭・地域との連携強化

ア 平成 27 年度以降も、引き続きコミュニケーションツールを運用する。

イ 保護者連絡を円滑に行うために、教員へは PC 操作、コミュニケーションツール操作、ユーザーアカウント管理、緊急・災害時対策の活動ルール等の習得を支援していく。

ウ 保護者へは、個人情報などの適正な取扱いを呼びかけ、情報モラルに関する知識の習得を促すとともに、学校と連携して児童・生徒への「情報モラル教育」を推進させる。

## **(4) 効果的な授業支援を実現するための環境整備**

---

① 実物投影機（書画カメラ）の活用

ア 計画の導入段階では、現状、小・中学校の各教室に設備されている実物投影機（書画カメラ）を活用する。

イ 教科指導用 PC（タブレット）、授業支援システム、及び、小学校の英語教材を含めた、各機器に搭載する教材コンテンツの検討を行う。

ウ 授業支援システム、教科指導用 PC（タブレット）導入検討を進める。

エ 授業支援システム、実物投影機（書画カメラ）と教科指導用 PC（タブレット）

を接続させ、デジタル教材（静止画、動画、音声など）を画面に映し出すなど、授業に活用する。

## ② タブレット PC 導入（小・中学校共通）

ア 計画の導入段階では、児童・生徒用のタブレットの機種選定や今後の導入に向けての準備を開始し、キーボード脱着式ノート PC やタブレット PC に搭載するコンテンツや様々な学習サービスの導入に向け、事前調査や設計などの準備と、学校内ネットワーク（校内 LAN）の構築や学習支援環境設備（学習支援サーバ）の検討を行う。

イ PC 教室の PC 更新に併せ、PC 教室の PC をキーボード脱着式ノート PC に更新することを検討する。あわせて、持ち帰り学習への対応や、家庭学習を促進するための児童・生徒用タブレット PC の検討を開始する。

ウ 児童・生徒用タブレット PC の運用と学校内ネットワーク（校内 LAN）、学習支援環境設備（学習支援サーバ）の構築を検討する。

エ 児童・生徒用タブレット PC の運用開始にあわせ、学校内で行う授業内容の充実と、家庭学習での活用を促進するための支援を検討していく。

## 2 ICT 活用支援

### (1) 教員の ICT 活用支援

- ① 計画の導入段階では、実物投影機（書画カメラ）の操作方法や効果的な活用方法、及び教材コンテンツの指導など、既存の ICT 機器を含めた全般的なデジタル機材の操作や利活用の仕方、ICT 機器に搭載される各コンテンツの活用に向けた支援を行っていく。
- ② ICT 支援員より ICT の効果的な活用方法や、ICT に搭載する教材コンテンツなども指導し、ICT の技術面に加えて、ICT を活用した「ICT を使って、いかに効果的で楽しい授業ができるか」という授業設計を考え実現させていく支援を継続する。
- ③ あわせて、PC 操作、学習支援サービス操作、ユーザーアカウント管理、緊急・災害時対策の活動ルール等の習得がスムーズにできるよう支援していく。
- ④ 既存の ICT 機器の操作に加え、教科指導用 PC の運用など、新たな機器の操作方法やデジタル教材、コンテンツの活用方法を指導する。
- ⑤ 各学校における「情報化推進リーダー」を育成し、他の教員への普及を促進させていく仕組みを構築する。ICT 機器の操作やシステム、教材コンテンツの活用方法を習得した「情報化推進リーダー」となる教員が存在することで、他教員の、ICT に対す

る理解を深めるきめ細やかな支援を行う。教員間の協力を深めていくことでの ICT への理解が促進することが期待される。

## (2) 情報モラル教育

---

- ① 計画導入段階では、「教員、生徒の情報取扱」、「(保護者とのやりとりを踏まえた中での) 個人情報の取扱」を重点ポイントとした情報モラル教育を随時実施していく。
- ② 既に情報モラル教育は実施されており、今後、児童・生徒が ICT 機器を自由に活用することを踏まえ、さらに教科指導の中に取り入れていく。
- ③ 児童・生徒に ICT 機器を利用する場面と、その中で生じるリスクをイメージさせることにより、情報社会の中で自身の行動に責任を持つことや、情報社会の中に潜む様々な危険を回避し、情報を正しく安全に利用できるようにすることなどを指導していく。
- ④ あわせて、保護者にもコミュニケーションツールの利用などにとまなう、個人情報の取扱に重点を置いた情報モラル教育の浸透を図っていく。

## (3) 特別支援教育・日本語学級における情報化

---

- ① 特別支援教育について
  - ア ICT の推進は、特別な支援を必要とする児童・生徒の移動上の困難や、社会生活の範囲が限定されがちなことを補い、学校や自宅等にいながらにして様々な情報を収集・共有できるという、大きな社会的意義をもっている。
  - イ また、障害の状態や発達の段階等に応じて ICT 機器を活用することにより、学習上、又は生活上の困難を改善・克服させ、指導の効果を高めることができる有用な手段である。
  - ウ このような ICT に対応した特別支援教育を考えるに当たっては、個々の児童・生徒が学習を進めるうえでどこに困難があり、どういった支援を行えばその困難を軽減できるか、に重点を置いて ICT の有効性を福生市教育委員会主導で検討していく。
- ② 日本語学級について
  - ア 来日や帰国などで入学・編入学した日本語の習得が不十分な児童・生徒に、日本語の理解力・表現力を養うことによって、学校生活への円滑な適応を支えるために、日本語指導を実施している。現状、福生第一小学校のみ（平成 28 年度より福生第二中学校でも開級）に日本語学級が設置されており、通級による日本語学習を実施している。
  - イ 英語教育同様、実物投影機（書画カメラ）やデジタル教材による指導で、より理

解を深める授業運営が可能となる。また、時間的制約、日本語学級までの移動負荷を考慮するとタブレット PC による持ち帰り学習が有効な手段である。特別支援教育同様、ICT の有効性を福生市教育委員会主導で検討していく。



## 3

## 福生市立学校 ICT 推進計画実行体制

実行内容	主管	実行	オブザーバー
福生市立学校 ICT 推進 全体進行 P25 1- (1)	教育部 ・教育支援課 ・教育指導課	教育部 ・教育支援課学務係 ・教育指導課指導係	教育部 ・教育総務課 ・指導主事 企画財政部 ・情報システム課
学校情報環境の整備 P25 1- (2)	教育部 ・教育支援課 ・教育総務課	教育部 ・教育支援課学務係 都市建設部 ・施設課建築グループ	教育部 ・教育指導課 企画財政部 ・情報システム課
家庭学習を促進するた めの環境整備 P25 1- (3)	教育部 ・教育支援課 ・教育指導課	教育部 ・教育支援課学務係 ・教育指導課指導係	教育部 ・指導主事 ・教育総務課 企画財政部 ・情報システム課
効果的な授業支援を実 現するための環境整備 P25 1- (4)			
教員の ICT 活用支援 P26 2- (1)	教育部 ・教育支援課 ・教育指導課	教育部 ・教育支援課学務係 ・教育指導課指導係	教育部 ・指導主事
情報モラル教育推進検 討 P27 2- (2)	教育部 ・教育支援課 ・教育指導課	教育部 ・教育支援課学務係 ・教育指導課指導係	教育部 ・指導主事 企画財政部 ・情報システム課

## 4

## 福生市立学校 ICT 推進計画策定の体制

## (1) 計画策定委員会・事務局定例会の開催

「福生市立学校 ICT 推進計画」は、検討組織である福生市教育委員会において案が作成され、年4回の福生市立学校 ICT 策定委員会を開催し、計画を策定した。

## (2) 福生市立学校 ICT 推進計画策定委員

敬称略

No.	職名	氏名	備考
1	教育委員会教育部参事	石田周	策定委員長
2	教育委員会教育部教育総務課長	町田和子	策定委員
3	教育委員会教育部教育総務課学校施設係長	山中一郎	策定委員
4	教育委員会教育部指導主事	鈴木輝	策定委員
5	企画財政部情報システム課情報システム係長	田村浩司	策定委員
6	都市建設部施設課建築グループリーダー	田村道生	策定委員
7	福生市立福生第四小学校校長 (市立小学校長の代表)	山本豊彦	策定委員
8	福生市立福生第二中学校校長 (市立中学校長の代表)	上田忠之	策定委員
9	福生市立福生第二小学校校長 (市立学校情報教育推進委員会委員長)	榛原紀子	策定委員
10	福生市立福生第七小学校主幹教諭 (市立学校教務主任)	浅井博行	策定委員
11	福生市立福生第三中学校主幹教諭 (市立学校教務主任)	成尾弘行	策定委員
12	教育委員会教育部教育支援課長	野崎昌利	事務局長
13	教育委員会教育部教育支援課学務係長	岸野美幸	事務局
14	教育委員会教育部教育指導課指導係長	矢ヶ崎冬木	事務局

# 資料編

## 学校での ICT 活用に関する調査・結果報告

### 1 調査概要

- 調査方法 : 留置自記入調査 (各学校に、調査票の配布回収を依頼)
- 対象者条件 : 福生市立小・中学校教職員
- 対象者抽出方法 : 教職員悉皆
- 調査実施期間 : 2015年9月24日 ~10月5日
- 集計数 : 218票 (小学校144票、中学校74票)

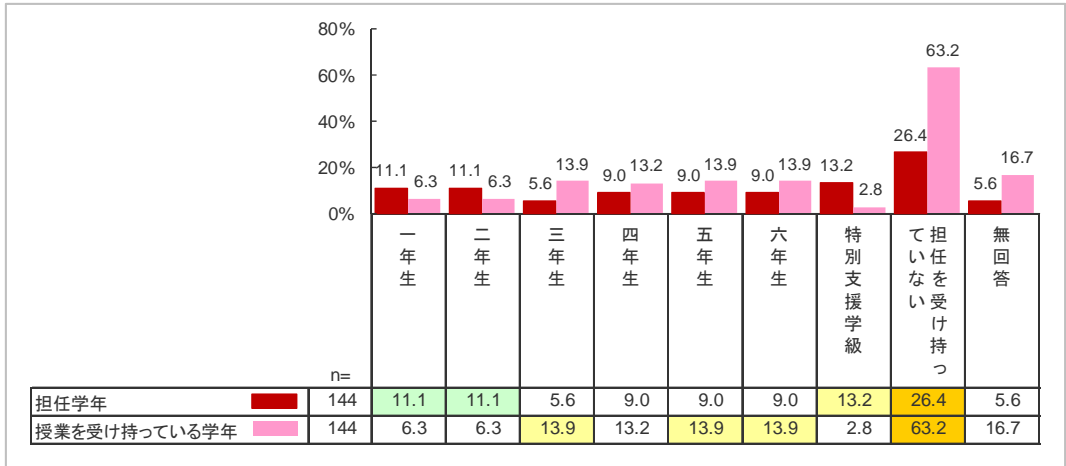
(内訳)

	小学校計	福生市立 第一立 小学校	福生市立 第二立 小学校	福生市立 第三立 小学校	福生市立 第四立 小学校	福生市立 第五立 小学校	福生市立 第六立 小学校	福生市立 第七立 小学校		中学校計	福生市立 第一立 中学校	福生市立 第二立 中学校	福生市立 第三立 中学校
合計	144	21	20	29	14	21	23	16	合計	74	21	29	24
管理職	14	2	2	2	2	2	2	2	管理職	6	2	2	2
管理職以外	123	13	18	27	12	19	20	14	管理職以外	68	19	27	22
職名 無回答	7	6	-	-	-	-	1	-	職名 無回答	-	-	-	-
依頼数	162	24	25	30	15	22	28	18	依頼数	87	29	33	25

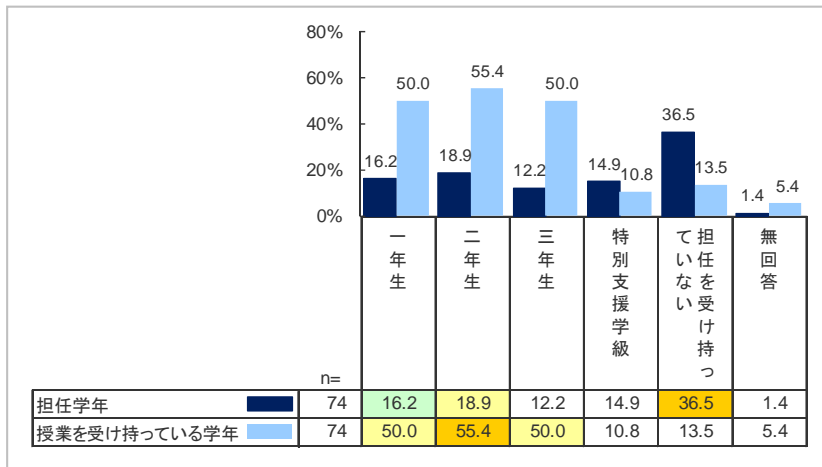
(票)

## 2 回答者属性

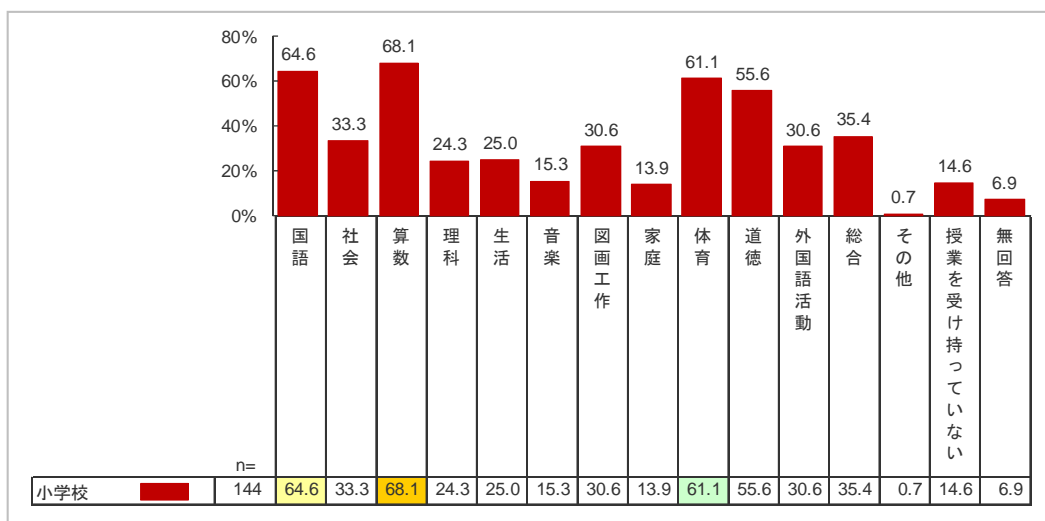
### < F2 担任学年、F3 授業を受け持っている学年 > 《小学校》



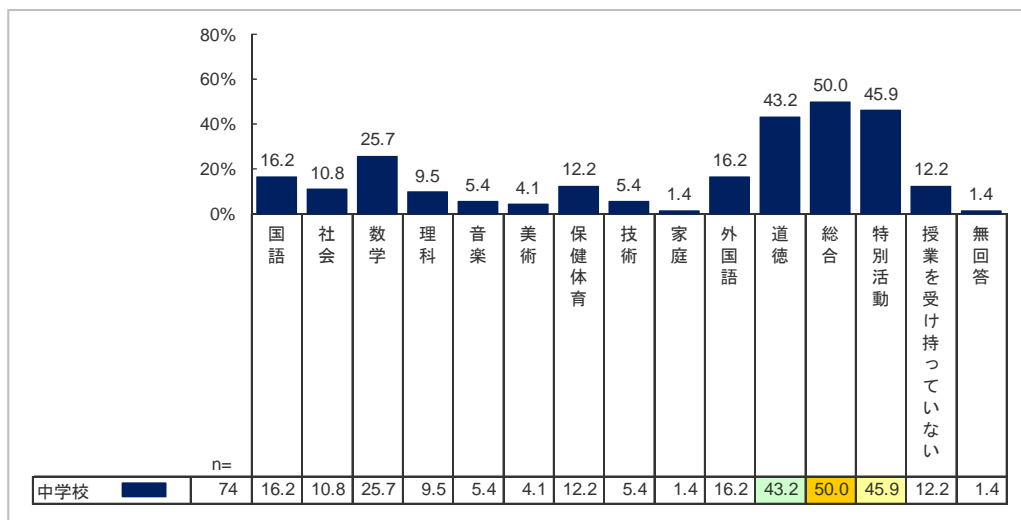
### < F2 担任学年、F3 授業を受け持っている学年 > 《中学校》



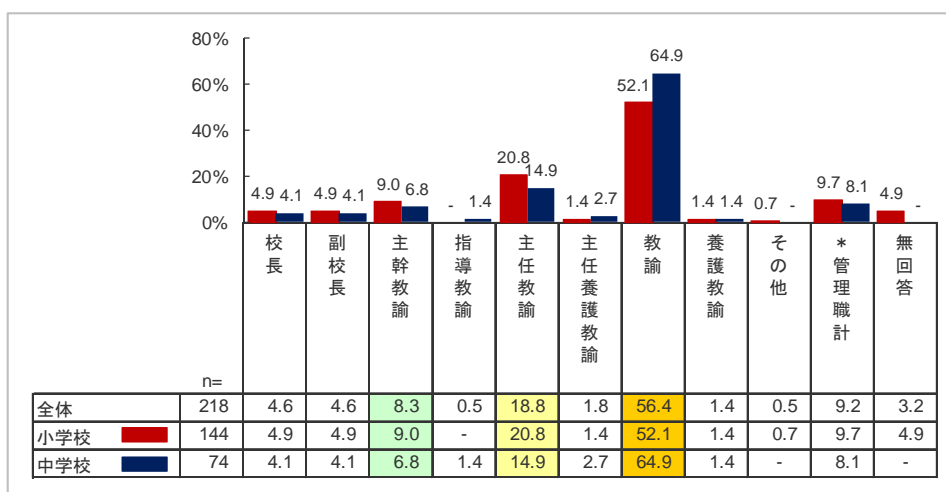
<F4 授業をしている教科・活動> 《小学校》



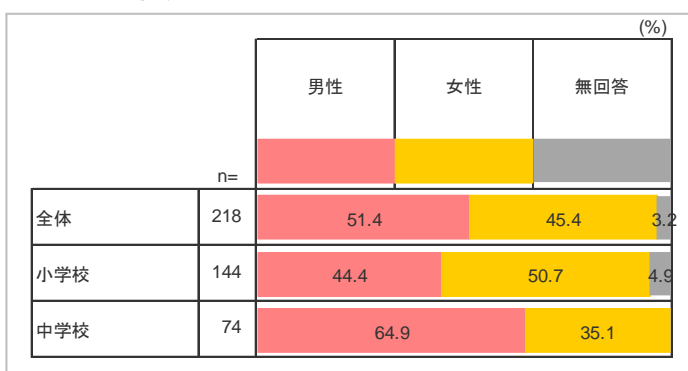
<F4 授業をしている教科・活動> 《中学校》



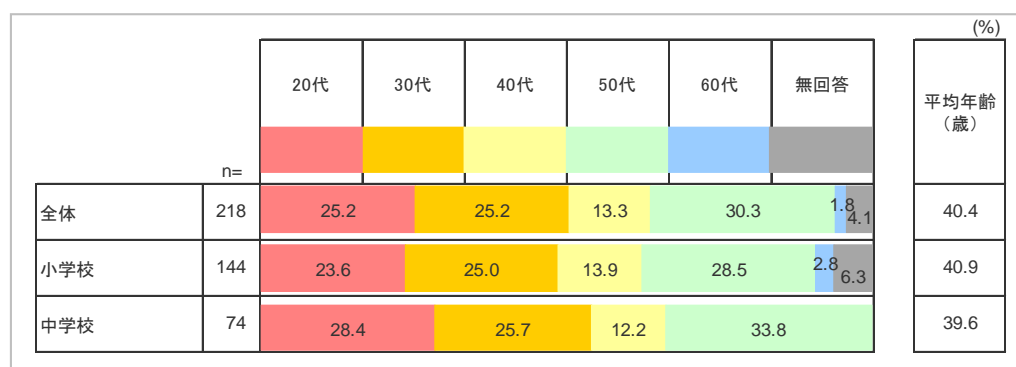
### <F5 職名>



### <F6-1 性別>



### <F6-2 年代>



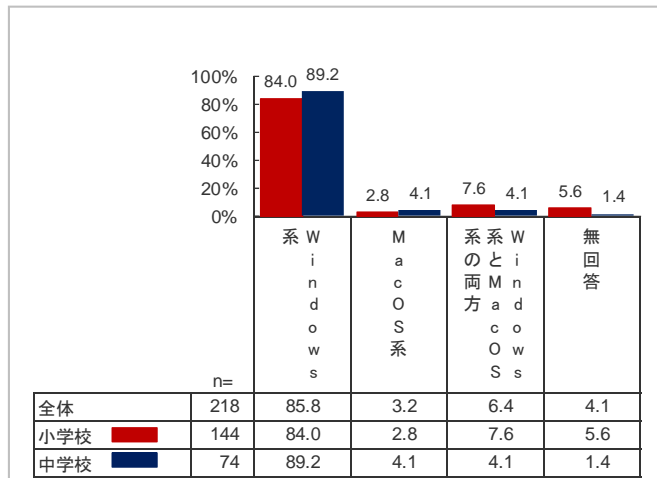
<F6-2 管理職の年代>

		n=		平均年齢(歳)	
		~45歳	55歳以上		
全体	20	45.0	55.0	54.8	
小学校	14	35.7	64.3	55.5	
中学校	6	66.7	33.3	53.0	

<F7 職員歴>

		n=						平均年数(年)	
		~5年	6~10年	11~20年	21~30年	31年以上	無回答		
全体	218	34.4	18.3	10.1	16.5	17.0	3.7	14.6	
小学校	144	35.4	14.6	11.8	13.9	18.8	5.6	14.9	
中学校	74	32.4	25.7	6.8	21.6	13.5		14.2	

<F8 普段使用パソコンOS>





## <F9 オフィス用アプリケーション使用程度>

		* 使用計					(%)	* 使用計	
n=		日常的に 使っている	入力程度は できるが詳しくは 分からない	触ったことはある が使い方はよく 分からない	使ったことがない	無回答			
a.MicrosoftWord (ワープロソフト)	218	79.4			14.7	1.4	4.6		94.0
b.一太郎 (ワープロソフト)	218	23.4	43.1		17.9	8.7	6.9	66.5	
c.MicrosoftExcel (表計算ソフト)	218	55.0		36.7		3.2	0.5	4.6	91.7
d.MicrosoftPowerPoint (プレゼンテーションソフト)	218	37.6	39.0		10.1	7.3	6.0	76.6	

### 《小学校》

		* 使用計					(%)	* 使用計	
n=		日常的に 使っている	入力程度は できるが詳しくは 分からない	触ったことはある が使い方はよく 分からない	使ったことがない	無回答			
a.MicrosoftWord (ワープロソフト)	144	82.6			10.4	6.9			93.1
b.一太郎 (ワープロソフト)	144	20.8	43.8		17.4	8.3	9.7	64.6	
c.MicrosoftExcel (表計算ソフト)	144	50.7		39.6		2.8	0.7	6.3	90.3
d.MicrosoftPowerPoint (プレゼンテーションソフト)	144	37.5	37.5		7.6	9.0	8.3	75.0	

### 《中学校》

		* 使用計					(%)	* 使用計
n=		日常的に 使っている	入力程度は できるが詳しくは 分からない	触ったことはある が使い方はよく 分からない	使ったことがない	無回答		
a.MicrosoftWord (ワープロソフト)	74	73.0			23.0	4.1		
b.一太郎 (ワープロソフト)	74	28.4	41.9		18.9	9.5	1.4	70.3
c.MicrosoftExcel (表計算ソフト)	74	63.5		31.1		4.1	1.4	94.6
d.MicrosoftPowerPoint (プレゼンテーションソフト)	74	37.8	41.9		14.9	4.1	1.4	79.7

### 3 結果概要

#### (1) オフィス用アプリケーション使用程度

Microsoft Word と Microsoft Excel の使用率 (Word : 94.0%、Excel : 91.7%) は9割を超えるが、Microsoft Excel を「使ったことがない」(0.5%) も少数ながらみられる。Microsoft PowerPoint の使用率 (76.6%) は7割台半ばに留まる。

#### (2) ICT 機器設置状況 (管理職回答)

実物投影機 (書画カメラ)、教科指導用パソコン、校務用パソコンの設置率は100%。一方、教科指導用タブレットの設置率は0%。教科指導用パソコンと校務用パソコンの共有はほとんどされていない。

電子黒板 (大画面テレビ) の設置率は、小学校 (57.1%) では6割弱なのに対し、中学校では100%であった。

##### ①実物投影機 (書画カメラ)

実物投影機 (書画カメラ) は小学校で活発に使用されている様子。“普通教室”と“特別教室”では100%稼働している。一方、中学校では“特別教室”で稼働が100%であるものの、“普通教室”では稼働が5割に留まる。

##### ②教科指導用パソコン

教科指導用パソコンは稼働しているものの、小学校は“共有の保管スペース”に、中学校は“コンピュータ室”に、置かれて必要なところで稼働させている様子。

##### ③電子黒板 (大画面テレビ)

電子黒板は小学校と中学校ともに、“普通教室”での稼働が100%、“特別教室”の稼働は小学校で100%、中学校で7割弱と高くなっている。

##### ④校務用パソコン

校務用パソコンは、「成績管理」と「通知表作成」はほぼ100%使用されており、「出欠管理」と「学籍管理」で9割近く使用されている。一方、「時間割管理」と「週案作成」は5～7割の使用に留まる。

##### ⑤校内ネットワーク

校内ネットワークはほとんど構築されておらず、コンピュータ室において小学校 (57.1%)、中学校 (83.3%) に留まる。

#### (3) 先生方の時間配分

①学校の先生として最も時間をかけているのは「教科指導」(35.3%) で平均が3割台半ば。ついで「生活指導」(15.6%) と「校務分掌」(14.9%) が平均で15%程度。実際にかかっている時間とかけたいと思っっている時間とに大きな齟齬はみられない

が、若干であるが「校務分掌」を減らして「教科指導」または「自己研鑽」に時間を割きたいという意向が見られる。

- ②教科指導の時間として最もかけているのは「授業」(48.5%)でほぼ半分。次が「教材研究」(10.6%)で1割程度。先生としての時間同様、実際にかけている時間とかけたいと思っている時間とに大きな差はみられないが、「教材研究」にもう少し時間を割きたいと感じている様子。

#### (4) ICT 機器活用状況 (管理職以外)

- ①ICT 機器の活用状況は小学校、中学校での差が見られた。実物投影機(書画カメラ)の活用率は小学校、中学校の両方で7割前後なのに対し、「教科指導用パソコン」は中学校で(83.8%)は8割以上の活用率なのに対し、小学校(50.4%)では5割に留まる。また、学校には設置されていないタブレットが、小・中学校の両方で1割程度の活用が見られた。

②実物投影機(書画カメラ)

実物投影機(書画カメラ)は「課題提示」、「動機づけ」、「理解を深める場面」、「生徒・児童の発表」の場面で多く活用されているが、小・中学校の比較をすると小学校の方が活用率が高い。

③教科指導用パソコン

教科指導用パソコンも「課題提示」、「動機づけ」、「理解を深める場面」、「生徒・児童の発表」の場面で多く使用されているが、小中学校の比較では中学校の活用率が高い。

④タブレット

タブレットは全体の活用率が低いが、「課題提示」、「動機づけ」、「理解を深める」、といった場面で活用されている。

⑤電子黒板(大画面テレビ)

電子黒板は「課題提示」、「動機づけ」、「理解を深める場面」、「生徒・児童の発表」の場面で多く活用されている。

#### (5) ICT 活用力程度

文部省が実施した項目と同じ項目のICT活用力は、管理職の「肯定層」が全国平均よりも高いのに対し、管理職以外の先生の「肯定層」は全国平均よりも低くなっている。

#### (6) ICT 活用意向

- ①ICT活用以降は、多くの場面で管理職の先生が9割前後の活用意向があるのに対し、管理職以外の先生では多くても6～7割にとどまる。特に、「積極的に活用」での差が大きい。

- ②学年別にみると、小学校では4年生から活用意向が上がり始め、5・6年では37%に達する。一方、中学校では1～3年生総じて4割前後の活用意向がある。
- ③教科別でみると、管理職以外の先生（小学校）では社会が3割で最も高く、算数、理科で高くなっている。中学校では総合が2割で最も高く、外国語が1割で続いている。
- ④一方、管理職の先生の意向は、小学校では4年生から80%近くまで急激に増加しており、教科別では社会、理科、算数が64%と同等である。学年と教科の組合せでは4年生の算数が最も高く60%近い活用意向がある。

## (7) まとめ

- ①ICT 機器としては、小学校で実物投影機（書画カメラ）、中学校ではパソコンの活用が進んでおり、課題の提示や動機づけ、理解を深める場面での活用が中心。ネットワーク環境としては、パソコン教室を含めてほぼ機能していないといっても過言ではない。
- ②ICT 機器の活用については、管理職と管理職以外では若干の温度差がみられる。管理職が積極的にICTの導入を志向しているのに対し、管理職以外の先生は若干その意識は低い。
- ③ICTの導入意向としては、小学校は4年生からその意向が高まり始める。一方、中学校では3学年ともにほぼ同じくらいの活用意向が見られる。但し、現状の活用方法が課題提示、動機づけ、理解深耕であることから、社会や理科での活用が意識されており、算数での活用は若干低くなっている。
- ④ICT 活用力評価では、管理職が全国平均に対して「高い」と考えているのに対し、管理職以外の先生は「低い」と考えており、ここにも管理職とそれ以外の先生との意識のギャップが見られる。
- ⑤現場の先生方としては、ICT 機器の導入について決して否定的ではないが積極的でもない。ICT 活用力についての自己評価も低めに出ている。これらの点について、管理職の先生とはかなりの意識の差がみられる。現場の側にあった策定や説明などが必須である。
- ⑥ICT 機器の活用について、一斉学習に即したものに限定されているため、意向についてもその延長戦上にあり、個別学習での定着をはかる場面などはほとんどイメージされていない。ICTの定着における有効性を別途示す必要がある。

#### 4 管理職回答編

##### Q1 学校のICT機器の設置台数 a. 書画カメラ 【管理職回答】

###### <Q1-1 学校にある台数>

							(%)
		1~10台	11~15台	16~20台	21台以上	無回答	平均台数(台)
	n=						
全体	20	20.0	40.0	20.0	10.0	10.0	14.5
小学校	14	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	15.6
中学校	6	33.3	66.7				12.3

###### <Q1-2 実際に稼働している台数>

							(%)
		1~10台	11~15台	16~20台	21台以上	無回答	平均台数(台)
	n=						
全体	20	30.0	30.0	20.0	10.0	10.0	13.5
小学校	14	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	15.6
中学校	6	66.7	33.3				9.3

## 《全体》

		* 設置計								
		* 使用可能計								
		* 稼働使用可能計								
		いつでも利用できる状態になっている	セッティングすれば使える状態になっている	使えるがしばらく使われていない	使える状態ではない	この教室には設置されていない	無回答	* 稼働使用可能計	* 使用可能計	* 設置計
n=										
a.普通教室	18	55.6		27.8		11.1	5.6	83.3	94.4	94.4
b.特別教室	18	61.1				38.9		100.0	100.0	100.0
c.視聴覚室	18	11.1	11.1	38.9		38.9		22.2	22.2	22.2
d.コンピュータ室	18	50.0		11.1	38.9		50.0	50.0	50.0	
e.体育館	18	5.6	72.2				22.2	5.6	5.6	5.6
f.校庭	18	5.6	72.2				22.2	-	-	5.6
g.共有の保管スペース	18	5.6	66.7				27.8	5.6	5.6	5.6

## 《小学校》

		* 設置計								
		* 使用可能計								
		* 稼働使用可能計								
		いつでも利用できる状態になっている	セッティングすれば使える状態になっている	使えるがしばらく使われていない	使える状態ではない	この教室には設置されていない	無回答	* 稼働使用可能計	* 使用可能計	* 設置計
n=										
a.普通教室	12	83.3				16.7		100.0	100.0	100.0
b.特別教室	12	66.7				33.3		100.0	100.0	100.0
c.視聴覚室	12	16.7	16.7	33.3		33.3		33.3	33.3	33.3
d.コンピュータ室	12	33.3		16.7	50.0		33.3	33.3	33.3	
e.体育館	12	66.7				33.3		-	-	-
f.校庭	12	66.7				33.3		-	-	-
g.共有の保管スペース	12	66.7				33.3		-	-	-

## 《中学校》

		* 設置計								
		* 使用可能計								
		* 稼働使用可能計								
		いつでも利用できる状態になっている	セッティングすれば使える状態になっている	使えるがしばらく使われていない	使える状態ではない	この教室には設置されていない	無回答	* 稼働使用可能計	* 使用可能計	* 設置計
n=										
a.普通教室	6	50.0		33.3		16.7		50.0	83.3	83.3
b.特別教室	6	50.0				50.0		100.0	100.0	100.0
c.視聴覚室	6	50.0				50.0		-	-	-
d.コンピュータ室	6	83.3				16.7		83.3	83.3	83.3
e.体育館	6	16.7	83.3				16.7	16.7	16.7	16.7
f.校庭	6	16.7	83.3				16.7	-	-	16.7
g.共有の保管スペース	6	16.7	66.7				16.7	16.7	16.7	16.7

Q3 学校の ICT 機器の設置台数 b.教科指導用パソコン 【管理職回答】

<Q3-1 学校にある台数>

		2台 3台 4台 5台 6台 7台以上 無回答							(%)
n=									平均台数(台)
全体	20	20.0	5.0	10.0	20.0	30.0	10.0	5.0	8.7
小学校	14	28.6	7.1	14.3	7.1	28.6	14.3		9.9
中学校	6	50.0			33.3		16.7		5.4

<Q3-2 実際に稼働している台数>

		2台 3台 4台 5台 6台 7台以上 無回答							(%)
n=									平均台数(台)
全体	20	20.0	10.0	15.0	10.0	30.0	10.0	5.0	8.5
小学校	14	28.6	7.1	21.4		28.6	14.3		9.8
中学校	6	16.7	33.3		33.3		16.7		5.0

《全体》

	n=	* 設置計					無回答	* 稼働使用可能計	* 使用可能計	* 設置計
		* 稼働使用可能計								
		* 稼働使用可能計								
		いつでも利用できる状態になっている	セッティングすれば使える状態になっている	使えるがしばらく使われていない	使える状態ではない	この教室には設置されていない				
a.普通教室	19	10.5	15.8	57.9		15.8	26.3	26.3	26.3	
b.特別教室	19	31.6		42.1		26.3	31.6	31.6	31.6	
c.視聴覚室	19	5.3	5.3	47.4		42.1	10.5	10.5	10.5	
d.コンピュータ室	19	21.1	52.6			26.3	21.1	21.1	21.1	
e.体育館	19	10.5	63.2			26.3	10.5	10.5	10.5	
f.校庭	19	10.5	63.2			26.3	10.5	10.5	10.5	
g.共有の保管スペース	19	36.8		31.6	15.8	15.8	68.4	68.4	68.4	

### 《小学校》

		* 設置計					(%)	* 稼働 使用 可能計	* 使用 可能計	* 設置 計
		* 使用可能計								
		* 稼働使用可能計								
n=		いつでも 利用できる 状態になっ ている	セッティ ング すれば 使える状態 になっている	使えるが しばらく使わ れていない	使える状態 ではない	この教室 には設置さ れていない				
a.普通教室	14	14.3	14.3		50.0		21.4	28.6	28.6	28.6
b.特別教室	14		28.6		35.7		35.7	28.6	28.6	28.6
c.視聴覚室	14	7.1	7.1		50.0		35.7	14.3	14.3	14.3
d.コンピュータ室	14	14.3			50.0		35.7	14.3	14.3	14.3
e.体育館	14		14.3		50.0		35.7	14.3	14.3	14.3
f.校庭	14		14.3		50.0		35.7	14.3	14.3	14.3
g.共有の保管スペース	14		42.9		42.9		14.3	85.7	85.7	85.7

### 《中学校》

		* 設置計					(%)	* 稼働 使用 可能計	* 使用 可能計	* 設置 計
		* 使用可能計								
		* 稼働使用可能計								
n=		いつでも 利用できる 状態になっ ている	セッティ ング すれば 使える状態 になっている	使えるが しばらく使わ れていない	使える状態 ではない	この教室 には設置さ れていない				
a.普通教室	5		20.0		80.0			20.0	20.0	20.0
b.特別教室	5		40.0		60.0			40.0	40.0	40.0
c.視聴覚室	5		40.0		60.0			-	-	-
d.コンピュータ室	5		40.0		60.0			40.0	40.0	40.0
e.体育館	5				100.0			-	-	-
f.校庭	5				100.0			-	-	-
g.共有の保管スペース	5		20.0		60.0		20.0	20.0	20.0	20.0



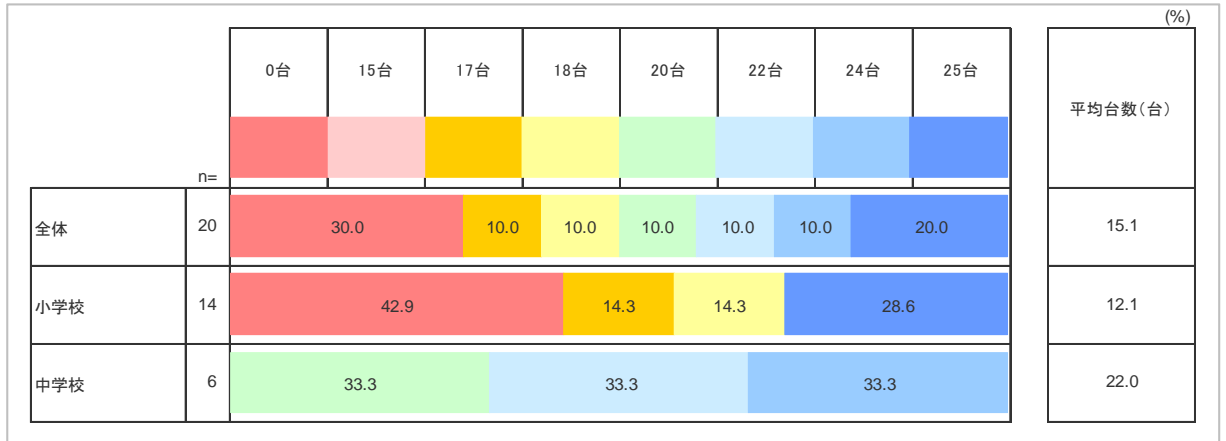
Q5 学校の ICT 機器の設置台数 c. 教科指導用タブレット 【管理職回答】

<Q5-1 学校にある台数>

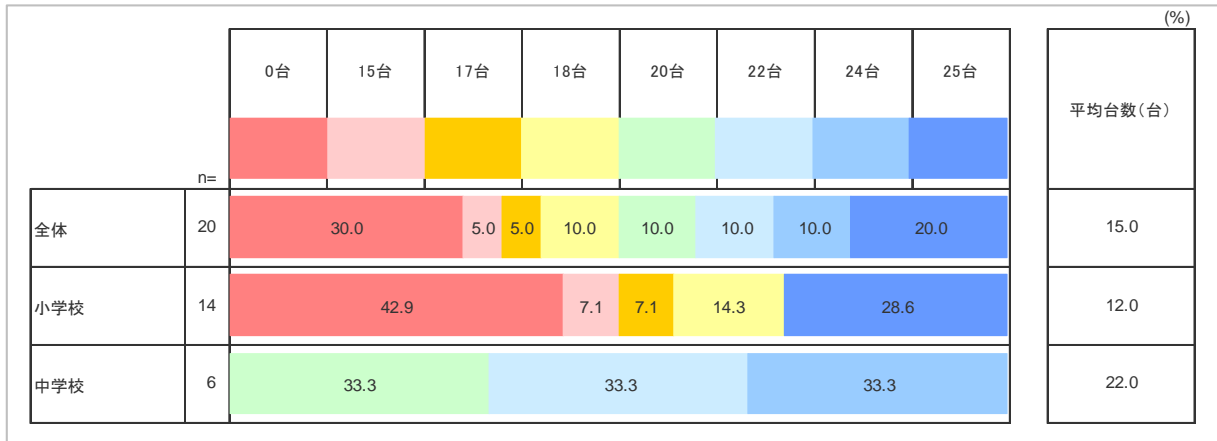
		教科指導用タブレット 0台		(%)
		n=		平均台数 (台)
全体	20		100.0	0.0
小学校	14		100.0	0.0
中学校	6		100.0	0.0

Q7 学校のICT機器の設置台数 d. 電子黒板(大画面テレビ) 【管理職回答】

<Q7-1 学校にある台数>



<Q7-2 実際に稼働している台数>



**Q8 学校の ICT 機器の稼働状況 d. 電子黒板(大画面テレビ) 【管理職回答】**  
**《全体》**

		* 設置計								
		* 使用可能計								
		* 稼働使用可能計								
		いつでも利用できる状態になっている	セッティングすれば使える状態になっている	使えるがしばらく使われていない	使える状態ではない	この教室には設置されていない	無回答	* 稼働使用可能計	* 使用可能計	* 設置計
n=										
a.普通教室	14	100.0						100.0	100.0	100.0
b.特別教室	14	71.4				14.3	14.3	85.7	85.7	85.7
c.視聴覚室	14	14.3	50.0			35.7		14.3	14.3	14.3
d.コンピュータ室	14	14.3	14.3	42.9		28.6		28.6	28.6	28.6
e.体育館	14	14.3	14.3	50.0		21.4		28.6	28.6	28.6
f.校庭	14	14.3		64.3		21.4		14.3	14.3	14.3
g.共有の保管スペース	14	14.3	28.6	50.0		7.1		42.9	42.9	42.9

**《小学校》**

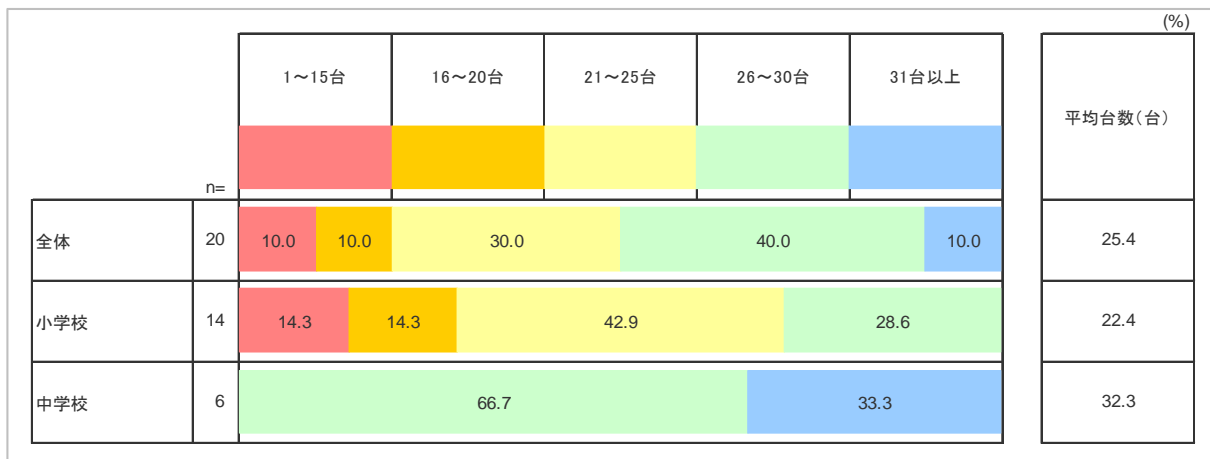
		* 設置計								
		* 使用可能計								
		* 稼働使用可能計								
		いつでも利用できる状態になっている	セッティングすれば使える状態になっている	使えるがしばらく使われていない	使える状態ではない	この教室には設置されていない	無回答	* 稼働使用可能計	* 使用可能計	* 設置計
n=										
a.普通教室	8	100.0						100.0	100.0	100.0
b.特別教室	8	75.0				25.0		100.0	100.0	100.0
c.視聴覚室	8	25.0	37.5			37.5		25.0	25.0	25.0
d.コンピュータ室	8	25.0	25.0	25.0		25.0		50.0	50.0	50.0
e.体育館	8	25.0	62.5			12.5		25.0	25.0	25.0
f.校庭	8	25.0		62.5		12.5		25.0	25.0	25.0
g.共有の保管スペース	8	50.0			37.5		12.5		50.0	50.0

**《中学校》**

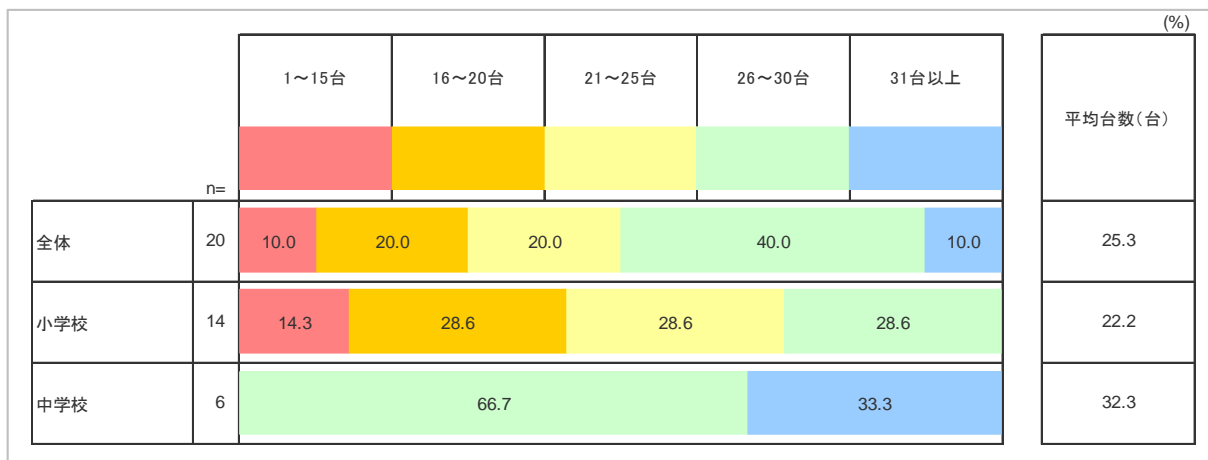
		* 設置計								
		* 使用可能計								
		* 稼働使用可能計								
		いつでも利用できる状態になっている	セッティングすれば使える状態になっている	使えるがしばらく使われていない	使える状態ではない	この教室には設置されていない	無回答	* 稼働使用可能計	* 使用可能計	* 設置計
n=										
a.普通教室	6	100.0						100.0	100.0	100.0
b.特別教室	6	66.7				33.3		66.7	66.7	66.7
c.視聴覚室	6	66.7			33.3		-	-	-	
d.コンピュータ室	6	66.7			33.3		-	-	-	
e.体育館	6	33.3		33.3		33.3		33.3	33.3	33.3
f.校庭	6	66.7			33.3		-	-	-	
g.共有の保管スペース	6	33.3		66.7			33.3	33.3	33.3	

Q9 学校の ICT 機器の設置台数 e. 校務用パソコン 【管理職回答】

<Q9-1 学校にある台数>



<Q9-2 実際に稼働している台数>



Q10 学校の ICT 機器の利用状況 e. 校務用パソコン 【管理職回答】

《全体》

		* やっている計 (%)					* やっている計	
n=		ほぼ全教員がやっている	やっている教員が多い	やっている教員は少ない	ほとんどの教員がやっていない	校務システムにその機能がない		無回答
a.出欠管理	20	90.0				10.0	90.0	
b.時間割管理	20	45.0	10.0	15.0	20.0	5.0	5.0	55.0
c.成績管理	20	95.0				5.0	100.0	
d.通知表作成	20	95.0				5.0	100.0	
e.週案作成	20	25.0	45.0	30.0			70.0	
f.学籍管理	20	75.0			15.0	10.0	90.0	

《小学校》

		* やっている計 (%)					* やっている計
n=		ほぼ全教員がやっている	やっている教員が多い	やっている教員は少ない	ほとんどの教員がやっていない	校務システムにその機能がない	
a.出欠管理	14	100.0					100.0
b.時間割管理	14	50.0	14.3	7.1	28.6		64.3
c.成績管理	14	92.9				7.1	100.0
d.通知表作成	14	100.0					100.0
e.週案作成	14	21.4	64.3	14.3			85.7
f.学籍管理	14	85.7			14.3		100.0

《中学校》

		* やっている計 (%)					* やっている計
n=		ほぼ全教員がやっている	やっている教員が多い	やっている教員は少ない	ほとんどの教員がやっていない	校務システムにその機能がない	
a.出欠管理	6	66.7			33.3		66.7
b.時間割管理	6	33.3	33.3	16.7	16.7		33.3
c.成績管理	6	100.0					100.0
d.通知表作成	6	83.3			16.7		100.0
e.週案作成	6	33.3	66.7				33.3
f.学籍管理	6	50.0	16.7	33.3			66.7

Q11 PC 共用状況・Q12 校内ネットワーク接続状況 【管理職回答】

<Q11 校務用 PC と教科指導用 PC の共用状況>

		(%)			
		先生全員が共有している	共有している先生が多い	多くはないが、共有している先生がいる	校務用と教科指導用は完全に分けている
	n=				
全体	20	15.0	85.0		
小学校	14	14.3	85.7		
中学校	6	16.7	83.3		

<Q12 校内ネットワーク接続状況> 《全体》

		* LANあり計					(%)	* LANあり計
		無線LANが安定的に使える状態にある	無線LANも使え有線LANのジャックもある	有線LANのジャックがある	ネットワークに接続できる設備がない	無回答		
	n=							
a.普通教室	20	10.0	90.0				10.0	
b.特別教室	20	15.0	85.0				15.0	
c.視聴覚室	20	10.0	10.0	50.0		30.0	20.0	
d.コンピュータ室	20	25.0	40.0	10.0	25.0		65.0	
e.体育館	20	100.0					-	
f.校庭	20	100.0					-	
g.共有の保管スペース	20	20.0	80.0				20.0	

<Q12 校内ネットワーク接続状況> 《小学校》

	n=	* LANあり計				無回答	* LANあり計
		無線LANが安定的に使える状態にある	無線LANも使え有線LANのジャックもある	有線LANのジャックがある	ネットワークに接続できる設備がない		
a.普通教室	14	14.3		85.7			14.3
b.特別教室	14	14.3		85.7			14.3
c.視聴覚室	14	14.3	14.3	42.9		28.6	28.6
d.コンピュータ室	14		35.7	21.4	7.1	35.7	57.1
e.体育館	14			100.0			-
f.校庭	14			100.0			-
g.共有の保管スペース	14	28.6		71.4			28.6

<Q12 校内ネットワーク接続状況> 《中学校》

	n=	* LANあり計				無回答	* LANあり計
		無線LANが安定的に使える状態にある	無線LANも使え有線LANのジャックもある	有線LANのジャックがある	ネットワークに接続できる設備がない		
a.普通教室	6			100.0			-
b.特別教室	6	16.7		83.3			16.7
c.視聴覚室	6		66.7			33.3	-
d.コンピュータ室	6			83.3		16.7	83.3
e.体育館	6			100.0			-
f.校庭	6			100.0			-
g.共有の保管スペース	6			100.0			-

Q13 教員の ICT 機器の使用程度 【管理職回答】

《全体》

		* 学校にあり計						* 使用計	* 学校にあり計
		* 使用計				学校にその機器はない	無回答		
		すべての先生が使用している	多くの先生が使用している	多くはないが使用している先生もいる	使用している先生はほとんどいない				
	n=								
a. 書画カメラ	20	20.0	35.0	45.0	25.0	25.0	100.0	100.0	
b. パソコン	20	35.0	10.0	55.0			100.0	100.0	
c. タブレット	20	5.0	90.0	95.0			5.0	5.0	
d. 電子黒板(大画面テレビ)	20	35.0	35.0	5.0	20.0	5.0	75.0	75.0	

《小学校》

		* 学校にあり計						* 使用計	* 学校にあり計
		* 使用計				学校にその機器はない	無回答		
		すべての先生が使用している	多くの先生が使用している	多くはないが使用している先生もいる	使用している先生はほとんどいない				
	n=								
a. 書画カメラ	14	28.6	42.9	71.4			100.0	100.0	
b. パソコン	14	50.0	14.3	35.7			100.0	100.0	
c. タブレット	14	7.1	85.8	92.9			7.1	7.1	
d. 電子黒板(大画面テレビ)	14	50.0	35.7	14.3			85.7	85.7	

《中学校》

		* 学校にあり計						* 使用計	* 学校にあり計
		* 使用計				学校にその機器はない	無回答		
		すべての先生が使用している	多くの先生が使用している	多くはないが使用している先生もいる	使用している先生はほとんどいない				
	n=								
a. 書画カメラ	6	16.7	66.7	83.3			100.0	100.0	
b. パソコン	6		100.0	100.0			100.0	100.0	
c. タブレット	6		100.0	100.0			-	-	
d. 電子黒板(大画面テレビ)	6	33.3	16.7	33.3	16.7		50.0	50.0	



Q14 教師の ICT 機器の活用内容 a. 書画カメラ 【管理職回答】

《全体》

	n=	* 学校にあり計					無回答	* 使用計 (%)	* 学校にあり計 (%)
		* 使用計							
		使 用 す べ て の 先 生 が	使 多 用 く し の 先 生 が	先 使 生 も し は い て い る が	使 多 用 く し の 先 生 が	は 使 用 と し て い る 先 生			
a.児童生徒に課題を提示する場面	20	15.0	55.0			30.0	100.0	100.0	
b.児童生徒への動機づけを図る場面	20		70.0			25.0	95.0	100.0	
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	20		70.0			25.0	95.0	100.0	
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	20	25.0	50.0			25.0	75.0	100.0	
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	20	25.0	70.0			5.0	95.0	100.0	
f.児童生徒同士が話し合う場面	20	20.0	50.0			30.0	70.0	100.0	
g.児童生徒が発表する場面	20	45.0	55.0				100.0	100.0	

《小学校》

	n=	* 学校にあり計					無回答	* 使用計 (%)	* 学校にあり計 (%)
		* 使用計							
		使 用 す べ て の 先 生 が	使 多 用 く し の 先 生 が	先 使 生 も し は い て い る が	使 多 用 く し の 先 生 が	は 使 用 と し て い る 先 生			
a.児童生徒に課題を提示する場面	14	21.4	71.4			7.1	100.0	100.0	
b.児童生徒への動機づけを図る場面	14		92.9			7.1	100.0	100.0	
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	14		92.9			7.1	100.0	100.0	
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	14	28.6	42.9			28.6	71.4	100.0	
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	14	28.6	71.4				100.0	100.0	
f.児童生徒同士が話し合う場面	14	28.6	42.9			28.6	71.4	100.0	
g.児童生徒が発表する場面	14	50.0	50.0				100.0	100.0	

《中学校》

	n=	* 学校にあり計						* 使用計	* 学校にあり計
		* 使用計							
		使 す べ て し て の 先 生 が	使 多 く し て 先 生 が	先 使 用 し て い る が	多 く は な い が	は 使 用 と し て い る 先 生	そ 学 校 に 機 器 は な い		
							(%)		
a.児童生徒に課題を提示する場面	6	16.7	83.3					100.0	100.0
b.児童生徒への動機づけを図る場面	6	16.7	66.7			16.7	83.3	100.0	
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	6	16.7	66.7			16.7	83.3	100.0	
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	6	16.7	66.7			16.7	83.3	100.0	
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	6	16.7	66.7			16.7	83.3	100.0	
f.児童生徒同士が話し合う場面	6	66.7			33.3		66.7	100.0	
g.児童生徒が発表する場面	6	33.3	66.7				100.0	100.0	

Q14 教師の ICT 機器の活用内容 b. パソコン 【管理職回答】

《全体》

	n=	*学校にあり計					*使用計 (%)	*学校にあり計
		*使用計						
		使 す べ て の 先 生 が	使 多 く し の 先 生 が	先 使 多 く し は な い が	は 使 多 く し は な い 先 生	そ 学 校 に 機 器 は な い		
a.児童生徒に課題を提示する場面	20	30.0	65.0	5.0			95.0	100.0
b.児童生徒への動機づけを図る場面	20	30.0	60.0	10.0			90.0	100.0
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	20	35.0	45.0	20.0			80.0	100.0
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	20	15.0	55.0	30.0			70.0	100.0
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	20	15.0	65.0	20.0			80.0	100.0
f.児童生徒同士が話し合う場面	20	15.0	40.0	45.0			55.0	100.0
g.児童生徒が発表する場面	20	25.0	60.0	15.0			85.0	100.0

《小学校》

	n=	*学校にあり計					*使用計 (%)	*学校にあり計
		*使用計						
		使 す べ て の 先 生 が	使 多 く し の 先 生 が	先 使 多 く し は な い が	は 使 多 く し は な い 先 生	そ 学 校 に 機 器 は な い		
a.児童生徒に課題を提示する場面	14	42.9	50.0	7.1			92.9	100.0
b.児童生徒への動機づけを図る場面	14	42.9	50.0	7.1			92.9	100.0
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	14	50.0	28.6	21.4			78.6	100.0
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	14	21.4	42.9	35.7			64.3	100.0
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	14	21.4	57.1	21.4			78.6	100.0
f.児童生徒同士が話し合う場面	14	21.4	28.6	50.0			50.0	100.0
g.児童生徒が発表する場面	14	28.6	50.0	21.4			78.6	100.0

## 《中学校》

	n=	*学校にあり計					無回答	*使用計	*学校にあり計	
		*使用計								
		使 用 し て い る 先 生 が	使 多 く の 先 生 が	先 使 多 く も し て い る が	は 使 多 く と ん ど い る 先 生	そ の 機 器 は な い				
							(%)			
a.児童生徒に課題を提示する場面	6						100.0	100.0		
b.児童生徒への動機づけを図る場面	6						83.3	16.7	83.3	100.0
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	6						83.3	16.7	83.3	100.0
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	6						83.3	16.7	83.3	100.0
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	6						83.3	16.7	83.3	100.0
f.児童生徒同士が話し合う場面	6						66.7	33.3	66.7	100.0
g.児童生徒が発表する場面	6	16.7					83.3		100.0	100.0

Q14 教師の ICT 機器の活用内容 c. タブレット 【管理職回答】

《全体》

	n=	* 学校にあり計					その学校に 機器はない	無回答	* 使用計	* 学校に あり計
		* 使用計				は使用 として いる 先生				
		使 す べ て し て の 先 生 が	使 多 く し て 先 生 が	先 使 多 く も し は い る が	使 多 く も し は い る が					
a.児童生徒に課題を提示する 場面	20	5.0			95.0			5.0	5.0	
b.児童生徒への動機づけを 図る場面	20	5.0			95.0			5.0	5.0	
c.児童生徒が学習の理解を 深める場面	20	5.0			95.0			5.0	5.0	
d.児童生徒が繰り返しによる 学習の定着を図る場面	20	5.0			95.0			5.0	5.0	
e.児童生徒が自分の考えを まとめる場面	20	5.0			95.0			5.0	5.0	
f.児童生徒同士が話し合う 場面	20	5.0			95.0			5.0	5.0	
g.児童生徒が発表する場面	20	5.0			95.0			5.0	5.0	

《小学校》

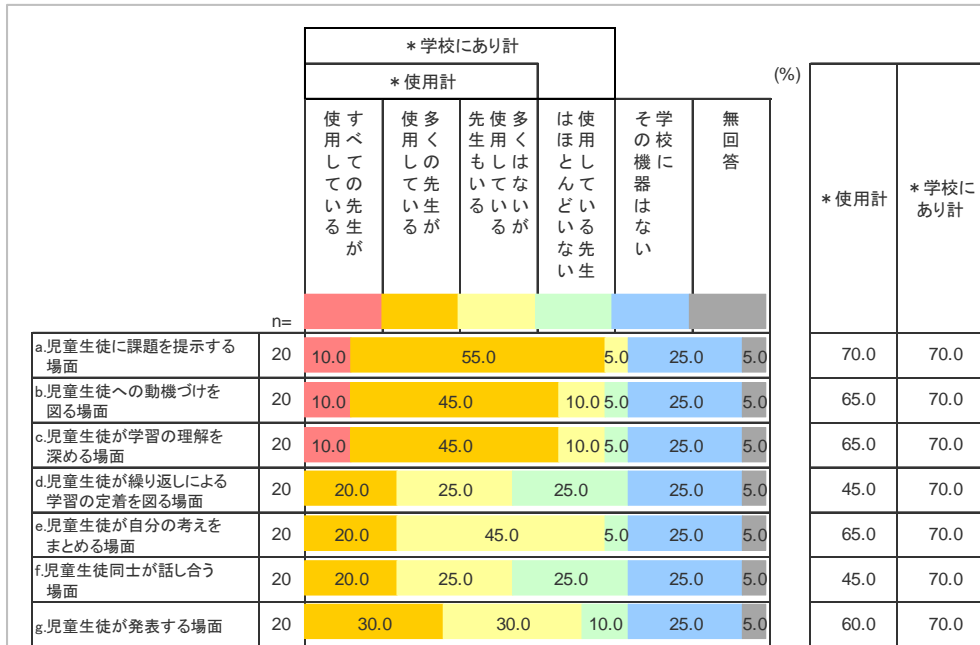
	n=	* 学校にあり計					その学校に 機器はない	無回答	* 使用計	* 学校に あり計
		* 使用計				は使用 として いる 先生				
		使 す べ て し て の 先 生 が	使 多 く し て 先 生 が	先 使 多 く も し は い る が	使 多 く も し は い る が					
a.児童生徒に課題を提示する 場面	14	7.1			92.9			7.1	7.1	
b.児童生徒への動機づけを 図る場面	14	7.1			92.9			7.1	7.1	
c.児童生徒が学習の理解を 深める場面	14	7.1			92.9			7.1	7.1	
d.児童生徒が繰り返しによる 学習の定着を図る場面	14	7.1			92.9			7.1	7.1	
e.児童生徒が自分の考えを まとめる場面	14	7.1			92.9			7.1	7.1	
f.児童生徒同士が話し合う 場面	14	7.1			92.9			7.1	7.1	
g.児童生徒が発表する場面	14	7.1			92.9			7.1	7.1	

## 《中学校》

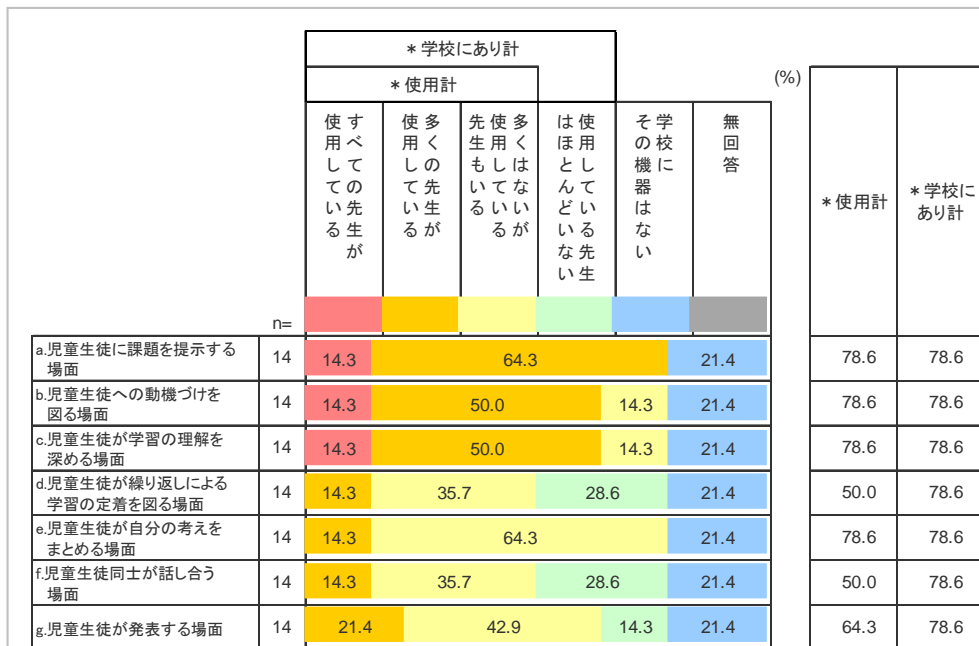
		*学校にあり計									
		*使用計						(%)			
		使 す べ て の 先 生 が	使 多 く し て 先 生 が	先 使 用 も し て い る	多 く は い る	は 使 用 と ん ど い る 先 生	そ 学 校 に 機 器 は な い	無 回 答	*使用計	*学校にあり計	
n=											
a.児童生徒に課題を提示する場面	6	100.0								-	-
b.児童生徒への動機づけを図る場面	6	100.0								-	-
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	6	100.0								-	-
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	6	100.0								-	-
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	6	100.0								-	-
f.児童生徒同士が話し合う場面	6	100.0								-	-
g.児童生徒が発表する場面	6	100.0								-	-

Q14 教師の ICT 機器の活用内容 d. 電子黒板(大画面テレビ) 【管理職回答】

《全体》



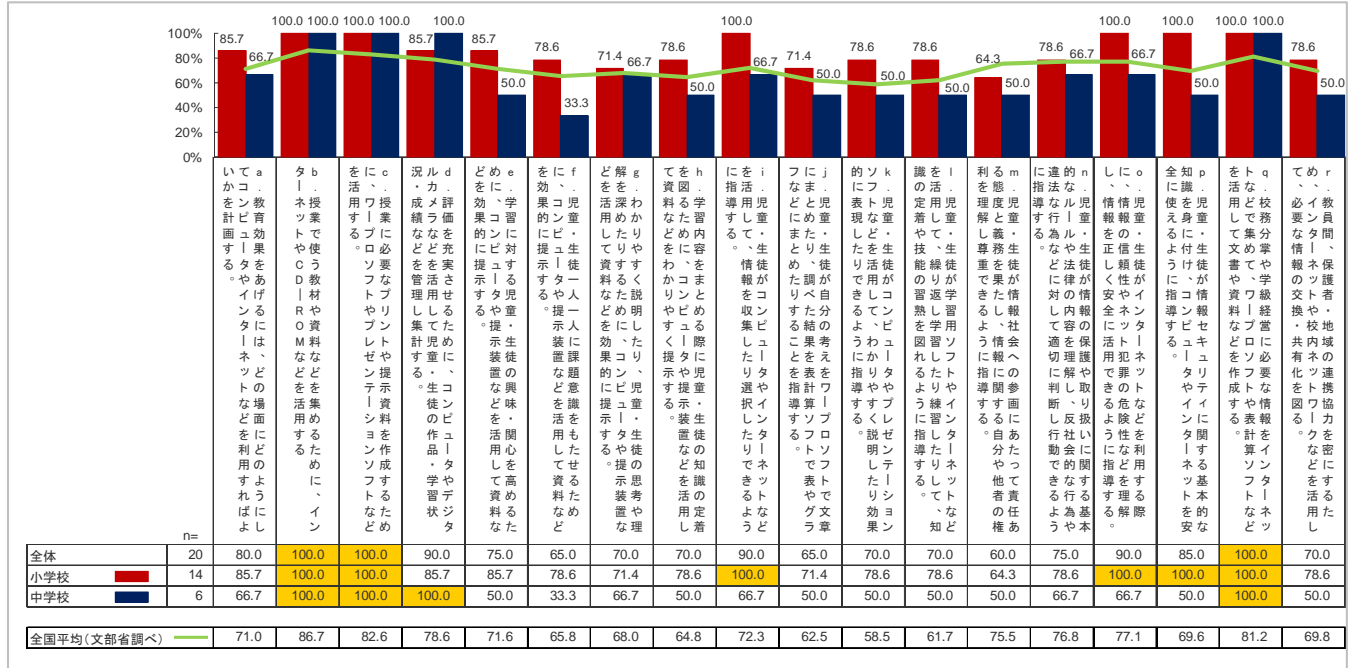
《小学校》



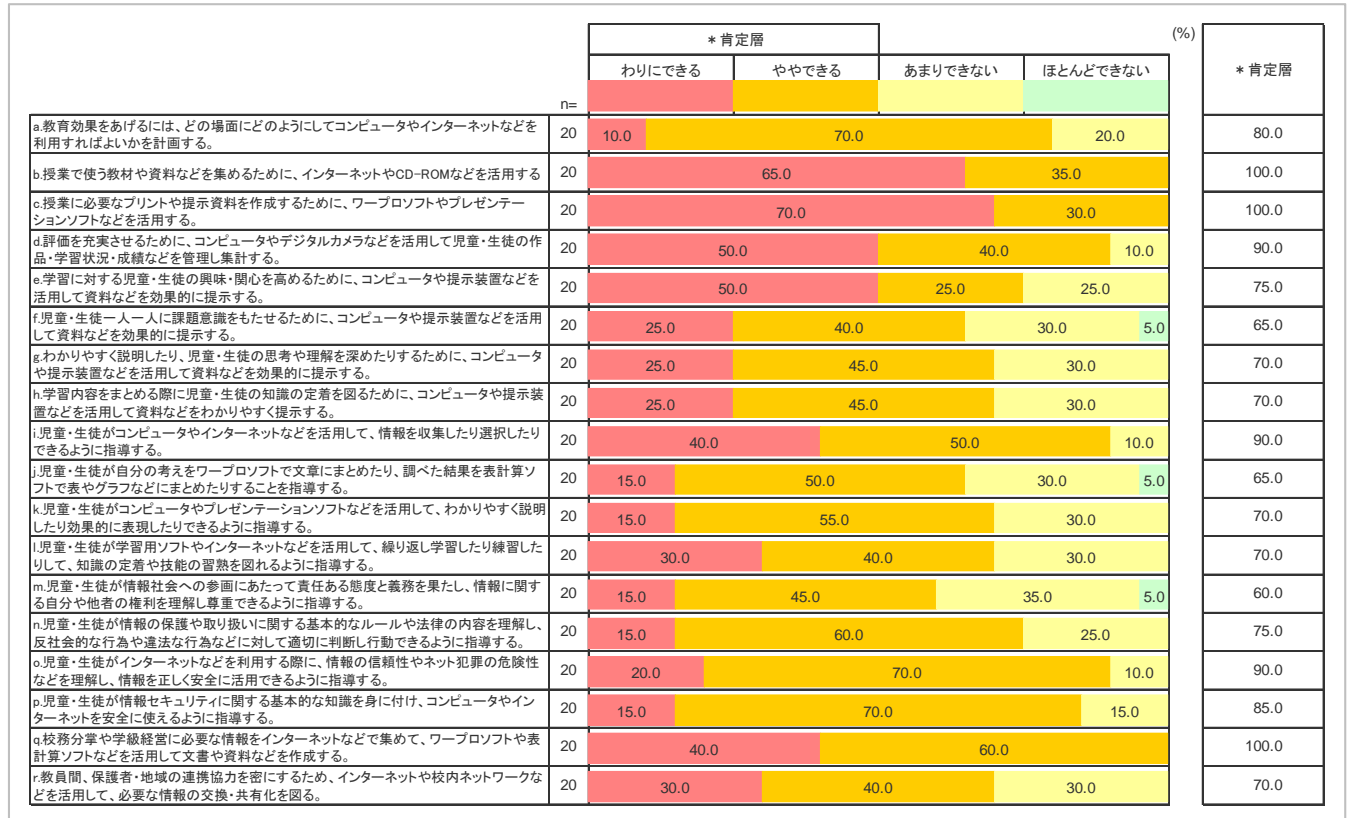




Q15 教師の ICT 活用力程度 肯定層一覽 【管理職回答】



Q15 教師の ICT 活用力程度 《全体》 【管理職回答】



**Q15 教師の ICT 活用力程度 《小学校》 【管理職回答】**

	n=	* 肯定層 (%)				* 肯定層 (%)
		わりにできる	ややできる	あまりできない	ほとんどできない	
a.教育効果をあげるには、どの場面にもどのようにしてコンピュータやインターネットなどを利用すればよいかを計画する。	14	14.3	71.4		14.3	85.7
b.授業で使う教材や資料などを集めるために、インターネットやCD-ROMなどを活用する	14		71.4		28.6	100.0
c.授業に必要なプリントや提示資料を作成するために、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	14		71.4		28.6	100.0
d.評価を充実させるために、コンピュータやデジタルカメラなどを活用して児童・生徒の作品・学習状況・成績などを管理し集計する。	14		64.3		21.4	14.3
e.学習に対する児童・生徒の興味・関心を高めるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	14		64.3		21.4	14.3
f.児童・生徒一人一人に課題意識をもたせるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	14		28.6		50.0	21.4
g.わかりやすく説明したり、児童・生徒の思考や理解を深めたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	14		28.6		42.9	28.6
h.学習内容をまとめる際に児童・生徒の知識の定着を図るために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などをわかりやすく提示する。	14		28.6		50.0	21.4
i.児童・生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり選択したりできるように指導する。	14		50.0		50.0	100.0
j.児童・生徒が自分の考えをワープロソフトで文章にまとめたり、調べた結果を表計算ソフトで表やグラフなどにまとめたりすることを指導する。	14	14.3	57.1		28.6	71.4
k.児童・生徒がコンピュータやプレゼンテーションソフトなどを活用して、わかりやすく説明したり効果的に表現したりできるように指導する。	14	14.3	64.3		21.4	78.6
l.児童・生徒が学習用ソフトやインターネットなどを活用して、繰り返し学習したり練習したりして、知識の定着や技能の習熟を図るよう指導する。	14		35.7		42.9	21.4
m.児童・生徒が情報社会への参画にあたって責任ある態度と義務を果たし、情報に関する自分や他者の権利を理解し尊重できるように指導する。	14	21.4	42.9		35.7	64.3
n.児童・生徒が情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を理解し、反社会的な行為や違法な行為などに対して適切に判断し行動できるように指導する。	14	21.4	57.1		21.4	78.6
o.児童・生徒がインターネットなどを活用する際に、情報の信頼性やネット犯罪の危険性などを理解し、情報を正しく安全に活用できるように指導する。	14	21.4			78.6	100.0
p.児童・生徒が情報セキュリティに関する基本的な知識を身に付け、コンピュータやインターネットを安全に使えるように指導する。	14	21.4			78.6	100.0
q.校務分掌や学級経営に必要な情報をインターネットなどで集めて、ワープロソフトや表計算ソフトなどを活用して文書や資料などを作成する。	14		50.0		50.0	100.0
r.教員間、保護者・地域の連携協力を密にするため、インターネットや校内ネットワークなどを活用して、必要な情報の交換・共有を図る。	14		35.7		42.9	21.4

**Q15 教師の ICT 活用力程度 《中学校》 【管理職回答】**

	n=	* 肯定層 (%)				* 肯定層 (%)
		わりにできる	ややできる	あまりできない	ほとんどできない	
a.教育効果をあげるには、どの場面にもどのようにしてコンピュータやインターネットなどを利用すればよいかを計画する。	6		66.7		33.3	66.7
b.授業で使う教材や資料などを集めるために、インターネットやCD-ROMなどを活用する	6		50.0		50.0	100.0
c.授業に必要なプリントや提示資料を作成するために、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	6		66.7		33.3	100.0
d.評価を充実させるために、コンピュータやデジタルカメラなどを活用して児童・生徒の作品・学習状況・成績などを管理し集計する。	6	16.7			83.3	100.0
e.学習に対する児童・生徒の興味・関心を高めるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	6	16.7	33.3		50.0	50.0
f.児童・生徒一人一人に課題意識をもたせるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	6	16.7	16.7		50.0	16.7
g.わかりやすく説明したり、児童・生徒の思考や理解を深めたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	6	16.7	50.0		33.3	66.7
h.学習内容をまとめる際に児童・生徒の知識の定着を図るために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などをわかりやすく提示する。	6	16.7	33.3		50.0	50.0
i.児童・生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり選択したりできるように指導する。	6	16.7	50.0		33.3	66.7
j.児童・生徒が自分の考えをワープロソフトで文章にまとめたり、調べた結果を表計算ソフトで表やグラフなどにまとめたりすることを指導する。	6	16.7	33.3		33.3	16.7
k.児童・生徒がコンピュータやプレゼンテーションソフトなどを活用して、わかりやすく説明したり効果的に表現したりできるように指導する。	6	16.7	33.3		50.0	50.0
l.児童・生徒が学習用ソフトやインターネットなどを活用して、繰り返し学習したり練習したりして、知識の定着や技能の習熟を図るよう指導する。	6	16.7	33.3		50.0	50.0
m.児童・生徒が情報社会への参画にあたって責任ある態度と義務を果たし、情報に関する自分や他者の権利を理解し尊重できるように指導する。	6		50.0		33.3	16.7
n.児童・生徒が情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を理解し、反社会的な行為や違法な行為などに対して適切に判断し行動できるように指導する。	6		66.7		33.3	66.7
o.児童・生徒がインターネットなどを活用する際に、情報の信頼性やネット犯罪の危険性などを理解し、情報を正しく安全に活用できるように指導する。	6	16.7	50.0		33.3	66.7
p.児童・生徒が情報セキュリティに関する基本的な知識を身に付け、コンピュータやインターネットを安全に使えるように指導する。	6		50.0		50.0	50.0
q.校務分掌や学級経営に必要な情報をインターネットなどで集めて、ワープロソフトや表計算ソフトなどを活用して文書や資料などを作成する。	6	16.7			83.3	100.0
r.教員間、保護者・地域の連携協力を密にするため、インターネットや校内ネットワークなどを活用して、必要な情報の交換・共有を図る。	6	16.7	33.3		50.0	50.0

Q16 今後の教科指導場面での ICT 機器の活用意向 【管理職回答】

《全体》

		* 活用層					(%)	* 活用層
		積極的に活用していきたいと思う	活用していきたいと思う	どちらともいえない	あまり活用を考えていない	まったく活用を考えていない		
n=								
a.課題を提示する場面	20	55.0		45.0			100.0	
b.動機づけを図る場面	20	65.0		35.0			100.0	
c.学習の理解を深める場面	20	60.0		35.0		5.0	95.0	
d.学習の定着を図る場面	20	55.0		35.0		10.0	90.0	
e.自分の考えをまとめる場面	20	45.0		45.0		10.0	90.0	
f.児童生徒同士が話し合う場面	20	45.0		35.0		10.0 10.0	80.0	
g.児童生徒が発表する場面	20	55.0		40.0		5.0	95.0	

《小学校》

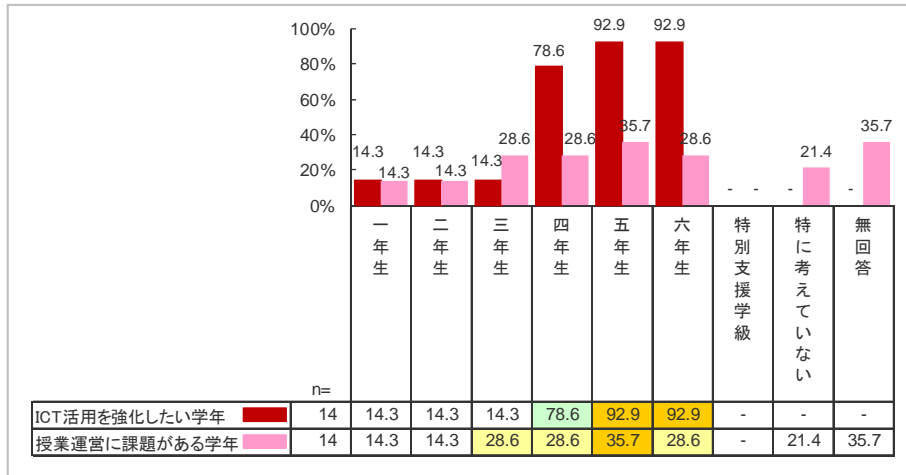
		* 活用層					(%)	* 活用層
		積極的に活用していきたいと思う	活用していきたいと思う	どちらともいえない	あまり活用を考えていない	まったく活用を考えていない		
n=								
a.課題を提示する場面	14	57.1		42.9			100.0	
b.動機づけを図る場面	14	71.4		28.6			100.0	
c.学習の理解を深める場面	14	71.4		21.4		7.1	92.9	
d.学習の定着を図る場面	14	71.4		14.3		14.3	85.7	
e.自分の考えをまとめる場面	14	57.1		35.7		7.1	92.9	
f.児童生徒同士が話し合う場面	14	57.1		21.4		7.1 14.3	78.6	
g.児童生徒が発表する場面	14	57.1		35.7		7.1	92.9	

《中学校》

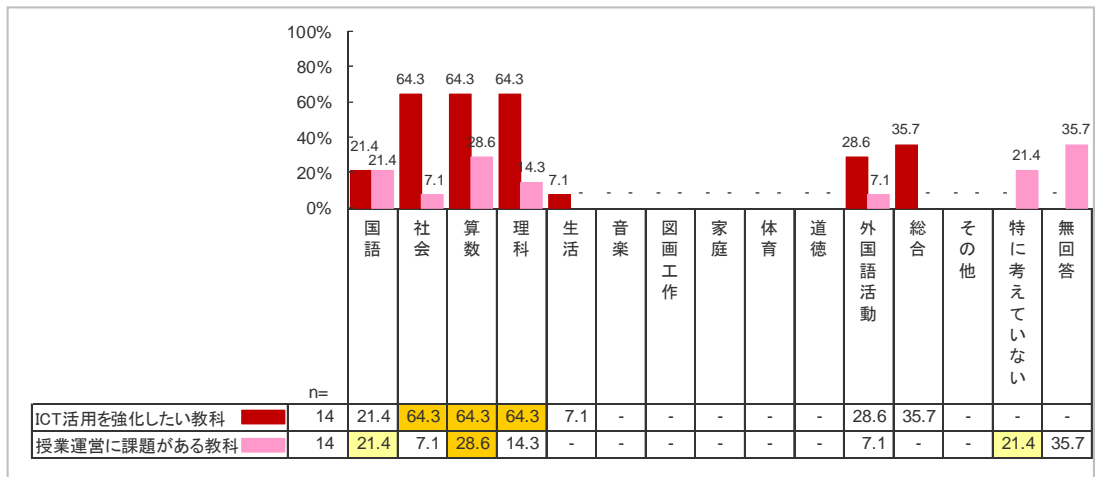
		* 活用層					(%)	* 活用層
		積極的に活用していきたいと思う	活用していきたいと思う	どちらともいえない	あまり活用を考えていない	まったく活用を考えていない		
n=								
a.課題を提示する場面	6	50.0		50.0			100.0	
b.動機づけを図る場面	6	50.0		50.0			100.0	
c.学習の理解を深める場面	6	33.3		66.7			100.0	
d.学習の定着を図る場面	6	16.7		83.3			100.0	
e.自分の考えをまとめる場面	6	16.7		66.7		16.7	83.3	
f.児童生徒同士が話し合う場面	6	16.7		66.7		16.7	83.3	
g.児童生徒が発表する場面	6	50.0		50.0			100.0	

Q17 ICT活用強化意向学年・教科、Q19 授業運営に課題がある学年・教科 【管理職回答】

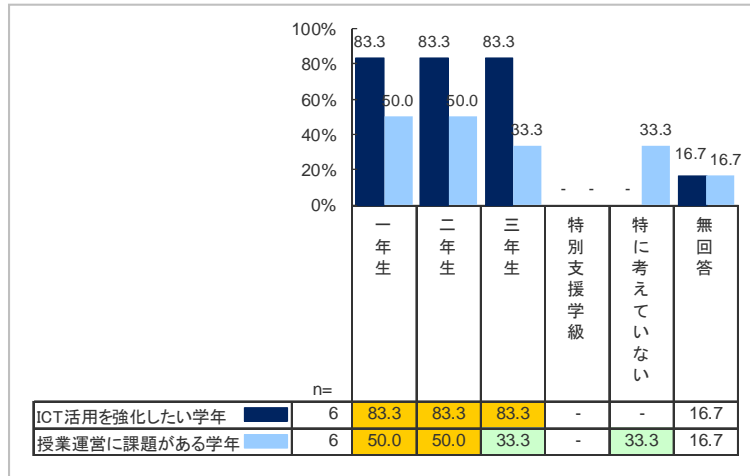
＜ICT活用強化意向学年・授業運営に課題がある学年＞ 《小学校》



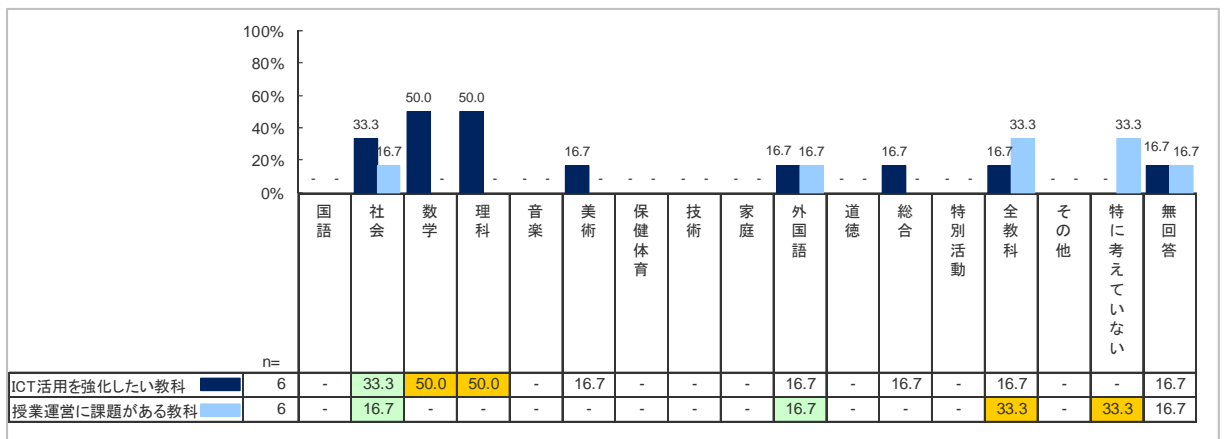
＜ICT活用強化意向教科・授業運営に課題がある教科＞ 《小学校》



＜ICT 活用強化意向学年・授業運営に課題がある学年＞ 《中学校》



＜ICT 活用強化意向学年・授業運営に課題がある教科＞ 《中学校》



Q17 ICT活用強化意向学年と教科の組み合わせ

【管理職回答】

Q19 授業運営に課題がある学年と教科の組み合わせ

＜ICT活用強化意向 学年と教科の組み合わせ＞ 《小学校》

		(%)												
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育	道徳	外国 語活動	総合	その他
n=14														
一年生		14.3	-	14.3	-	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-
二年生		14.3	-	14.3	-	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-
三年生		7.1	-	7.1	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
四年生		14.3	28.6	57.1	42.9	-	-	-	-	-	-	-	35.7	-
五年生		7.1	57.1	50.0	57.1	-	-	-	-	-	-	28.6	28.6	-
六年生		7.1	64.3	50.0	42.9	-	-	-	-	-	-	28.6	35.7	-
特別支援学級		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

＜授業運営に課題がある 学年と教科の組み合わせ＞ 《小学校》

		(%)													
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育	道徳	外国 語活動	総合	その他	無回答
n=14															
一年生		14.3	-	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
二年生		14.3	-	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三年生		21.4	-	21.4	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
四年生		21.4	7.1	28.6	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五年生		21.4	7.1	28.6	7.1	-	-	-	-	-	-	7.1	-	-	-
六年生		14.3	-	21.4	7.1	-	-	-	-	-	-	7.1	-	-	-
特別支援学級		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答															57.1

＜ICT 活用強化意向 学年と教科の組み合わせ＞ 《中学校》

		(%)															
n=6		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	家庭	外国語	道徳	総合	特別活動	全教科	その他	無回答
一年生	-	33.3	50.0	50.0	-	16.7	-	-	-	16.7	-	16.7	-	16.7	-	-	/
二年生	-	33.3	50.0	50.0	-	16.7	-	-	-	16.7	-	16.7	-	16.7	-	-	
三年生	-	33.3	50.0	50.0	-	16.7	-	-	-	16.7	-	16.7	-	16.7	-	-	
特別支援学級	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答																	16.7

＜授業運営に課題がある 学年と教科の組み合わせ＞ 《中学校》

		(%)															
n=6		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	家庭	外国語	道徳	総合	特別活動	全教科	その他	無回答
一年生	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	/
二年生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	-	-	-	-	33.3	-	
三年生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	
特別支援学級	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答																	50.0

**Q18 ICT 活用強化内容（自由回答）**

**Q20 授業運営課題への活用強化内容（自由回答） 【管理職回答】**

**《小学校》 <Q18 ICT 活用強化内容>**

n=14	内容
	タブレットを使った英語文字指導。教室がプラネタリウム（月や星の授業は理解しにくいので）。電子黒板とパソコンをリンクさせたデジタル「英語ノート」黒板にスタイラス等でタッチすると英語の発音や音楽が流れる。外国語活動では、音声、視覚的效果により、学習に効果がある。調べ学習等でインターネット等を活用して調べることができる。
	自分の考えをまとめたり、協働学習により話し合い活動を深めたりする際にもICTは有効であると考えている。
	高学年は英語を書くことが要求されるので、文字について学習させたい。理科では、実験などのために活用する。社会では、学習のまとめとして、自己の考えをまとめたり、グループ活動のまとめに活用する。
	理科：事物事象の映像で理解を深めるとともに興味をもたせる。社会：情報収集や地理的分野に有効。算数：視覚を通して理解を深める。
	理科的観察分野
	児童一人一人の学習状況の把握・個別学習の推進
	インターネットを活用した調べ学習
	プレゼンテーションやローマ字入力ができるようにしたい。
	特になし(6件)

**《小学校》 <Q20 授業運営課題への活用強化内容>**

n=14	内容
	算数においては、計算力等のスキルに重点がおかれ、内容の理解が充分ではない。理科においては、自分で体験する場が少ないこと。体験から、一般化することができないこと。
	全学年のすべての教科について考えられる課題として、児童の活動を重視した学習活動が挙げられます。
	国語：読解力、表現力。算数：思考力、計算力
	ALTの活用。
	基礎基本事項の定着
	特になし(9件)

**《中学校》 <Q18 ICT 活用強化内容>**

n=6	内容
	数学：つまづきの解消、発展的な学習。理科、社会：問題解決的な学習
	有効な資料等の提示により、関心、意欲を高めること。有効な資料等の提示により、理解を深め、基礎・基本を身につけさせること。有効な資料等の提示により、発展的な学習を行うこと。
	書画カメラ、PCからTVモニターへの出力等によって活用し視覚にうったえる内容で使用する
	特別支援学級や支援を要する生活への活用
	特にこの学年のこの教科と特定するものはない。全体に活用しやすい環境を整えてあげたい。
	特になし(2件)

**《中学校》 <Q20 授業運営課題への活用強化内容>**

n=6	内容
	学力の3要素をバランスよく育むこと
	思考、判断、表現の力を育成する指導力。授業の構造化
	程度の差はあるが、すべての教員が授業力の向上を目指していく必要がある。
	特になし(3件)



5 管理職以外回答編

Q21 先生としてかけている時間配分・かけたい時間配分 《全体》 【管理職以外回答】

<Q21-1 学校の先生として実際にかけている時間の配分比率> 《全体》

		0 %	1 %	1 %	2 %	3 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %	9 %	1 0 %	無 回 答	平均 比 率 ( %)
n=															
a.児童生徒の教科指導に関わる時間	191	3.1	8.4	15.7	22.0	17.3	17.8	7.9	6.8	0.5	-	-	-	0.5	35.3
b.児童生徒の生活指導に関わる時間	191	0.5	49.7	31.4	12.0	4.2	0.5	1.0	-	-	-	-	-	0.5	15.6
c.学級経営に関わる時間	191	15.7	58.1	22.0	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	0.5	9.1
d.課外活動に関わる時間	191	26.2	61.3	8.4	3.1	-	0.5	-	-	-	-	-	-	0.5	6.2
e.学校行事に関わる時間	191	4.7	81.7	9.9	2.6	0.5	-	-	-	-	-	-	-	0.5	7.9
f.校務分掌に関わる時間	191	2.6	58.1	21.5	7.9	3.7	3.7	1.6	0.5	-	-	-	-	0.5	14.9
g.研究授業などの研究に関わる時間	191	15.2	78.0	6.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.5	5.7
h.自己研鑽に関わる時間	191	23.0	69.1	5.8	1.0	-	0.5	-	-	-	-	-	-	0.5	5.4

<Q21-2 学校の先生としてかけたいと思っている時間の配分比率> 《全体》

		0 %	1 %	1 %	2 %	3 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %	9 %	1 0 %	無 回 答	平均 比 率 ( %)
n=															
a.児童生徒の教科指導に関わる時間	191	3.1	2.1	12.0	23.0	20.4	20.9	8.4	5.2	2.1	-	-	0.5	2.1	39.0
b.児童生徒の生活指導に関わる時間	191	5.8	54.5	30.9	3.7	2.1	0.5	-	-	0.5	-	-	-	2.1	12.9
c.学級経営に関わる時間	191	16.8	51.3	25.7	3.7	0.5	-	-	-	-	-	-	-	2.1	9.9
d.課外活動に関わる時間	191	28.3	61.3	5.8	2.1	-	0.5	-	-	-	-	-	-	2.1	5.7
e.学校行事に関わる時間	191	11.5	79.6	6.3	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	2.1	6.4
f.校務分掌に関わる時間	191	9.9	73.3	10.5	1.6	1.0	1.0	0.5	-	-	-	-	-	2.1	8.8
g.研究授業などの研究に関わる時間	191	13.1	73.8	9.9	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	2.1	6.8
h.自己研鑽に関わる時間	191	7.3	65.4	19.4	3.7	0.5	1.6	-	-	-	-	-	-	2.1	10.6

<Q21-1 学校の先生として実際にかけている時間の配分比率> 《小学校》

n=		0 %	1 %	1 %	2 %	3 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %	9 %	1 0 0 %	無 回 答	平 均 比 率 ( %)
a.児童生徒の教科指導に関わる時間	123	2.4	9.8	12.2	22.0	19.5	14.6	8.9	8.9	0.8	-	-	-	0.8	36.3
b.児童生徒の生活指導に関わる時間	123	-	53.7	28.5	11.4	4.9	-	0.8	-	-	-	-	-	0.8	14.8
c.学級経営に関わる時間	123	13.0	58.5	22.0	5.7	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8	9.6
d.課外活動に関わる時間	123	34.1	64.2	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8	3.4
e.学校行事に関わる時間	123	2.4	83.7	9.8	2.4	0.8	-	-	-	-	-	-	-	0.8	8.0
f.校務分掌に関わる時間	123	2.4	56.1	23.6	7.3	4.9	2.4	1.6	0.8	-	-	-	-	0.8	15.4
g.研究授業などの研究に関わる時間	123	8.1	82.1	8.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8	6.4
h.自己研鑽に関わる時間	123	17.9	70.7	8.9	0.8	-	0.8	-	-	-	-	-	-	0.8	6.1

<Q21-2 学校の先生としてかけたいと思っている時間の配分比率> 《小学校》

n=		0 %	1 %	1 %	2 %	3 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %	9 %	1 0 0 %	無 回 答	平 均 比 率 ( %)
a.児童生徒の教科指導に関わる時間	123	1.6	1.6	10.6	26.8	18.7	17.1	9.8	8.1	3.3	-	-	0.8	1.6	41.0
b.児童生徒の生活指導に関わる時間	123	2.4	56.9	31.7	4.9	1.6	-	-	-	0.8	-	-	-	1.6	13.3
c.学級経営に関わる時間	123	14.6	49.6	29.3	4.9	-	-	-	-	-	-	-	-	1.6	10.4
d.課外活動に関わる時間	123	36.6	61.0	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.6	3.1
e.学校行事に関わる時間	123	10.6	81.3	5.7	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	1.6	6.2
f.校務分掌に関わる時間	123	9.8	76.4	8.9	1.6	0.8	-	0.8	-	-	-	-	-	1.6	8.1
g.研究授業などの研究に関わる時間	123	8.9	79.7	8.9	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	1.6	7.1
h.自己研鑽に関わる時間	123	6.5	64.2	21.1	4.9	-	1.6	-	-	-	-	-	-	1.6	10.9

<Q21-1 学校の先生として実際にかけている時間の配分比率> 《中学校》

n=		0 %	1 %	1 %	2 %	3 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %	9 %	1 0 0 %	無 回 答	平 均 比 率 ( %)
a.児童生徒の教科指導に関わる時間	68	4.4	5.9	22.1	22.1	13.2	23.5	5.9	2.9	-	-	-	-	-	33.5
b.児童生徒の生活指導に関わる時間	68	1.5	42.6	36.8	13.2	2.9	1.5	1.5	-	-	-	-	-	-	16.9
c.学級経営に関わる時間	68	20.6	57.4	22.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8.1
d.課外活動に関わる時間	68	11.8	55.9	22.1	8.8	-	1.5	-	-	-	-	-	-	-	11.1
e.学校行事に関わる時間	68	8.8	77.9	10.3	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.6
f.校務分掌に関わる時間	68	2.9	61.8	17.6	8.8	1.5	5.9	1.5	-	-	-	-	-	-	14.0
g.研究授業などの研究に関わる時間	68	27.9	70.6	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.5
h.自己研鑽に関わる時間	68	32.4	66.2	-	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.2

<Q21-2 学校の先生としてかけたいと思っている時間の配分比率> 《中学校》

n=		0 %	1 %	1 %	2 %	3 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %	9 %	1 0 0 %	無 回 答	平 均 比 率 ( %)
a.児童生徒の教科指導に関わる時間	68	5.9	2.9	14.7	16.2	23.5	27.9	5.9	-	-	-	-	-	2.9	35.5
b.児童生徒の生活指導に関わる時間	68	11.8	50.0	29.4	1.5	2.9	1.5	-	-	-	-	-	-	2.9	12.0
c.学級経営に関わる時間	68	20.6	54.4	19.1	1.5	1.5	-	-	-	-	-	-	-	2.9	8.9
d.課外活動に関わる時間	68	13.2	61.8	14.7	5.9	-	1.5	-	-	-	-	-	-	2.9	10.4
e.学校行事に関わる時間	68	13.2	76.5	7.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.9	6.7
f.校務分掌に関わる時間	68	10.3	67.6	13.2	1.5	1.5	2.9	-	-	-	-	-	-	2.9	10.2
g.研究授業などの研究に関わる時間	68	20.6	63.2	11.8	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	2.9	6.4
h.自己研鑽に関わる時間	68	8.8	67.6	16.2	1.5	1.5	1.5	-	-	-	-	-	-	2.9	10.0

Q22 児童・生徒の教科指導にかけている時間配分・かけたい時間配分《全体》【管理職以外回答】

<Q22-1 児童・生徒の教科指導に実際にかけている時間の配分比率> 《全体》

n=		0 %	1 %	2 %	3 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %	9 %	10 %	無 回 答	平 均 比 率 ( %)
a.授業をしている時間	191	-	6.8	5.8	12.6	11.5	20.4	13.1	13.6	8.4	3.7	-	4.2	48.5
b.授業の全体構成を考えている時間	191	3.1	77.0	14.1	1.6	-	-	-	-	-	-	-	4.2	8.6
c.授業用の指導案を作成している時間	191	21.5	69.6	3.7	0.5	0.5	-	-	-	-	-	-	4.2	5.0
d.授業用の教材研究をしている時間	191	5.8	66.0	18.8	3.7	0.5	0.5	-	-	-	0.5	-	4.2	10.6
e.授業で使う資料を作成している時間	191	3.1	75.4	15.2	1.6	0.5	-	-	-	-	-	-	4.2	8.9
f.練習問題を作成・準備している時間	191	15.7	73.3	6.8	-	-	-	-	-	-	-	-	4.2	5.9
g.練習問題の採点をしている時間	191	15.7	70.2	7.9	0.5	1.6	-	-	-	-	-	-	4.2	6.8
h.児童生徒の到達度を把握・確認している時間	191	8.4	83.8	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	4.2	5.8

<Q22-2 児童・生徒の教科指導にかけたいと思っている時間の配分比率> 《全体》

n=		0 %	1 %	2 %	3 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %	9 %	10 %	無 回 答	平 均 比 率 ( %)
a.授業をしている時間	191	0.5	7.9	9.4	20.4	13.1	23.6	11.0	4.7	3.7	-	-	5.8	39.7
b.授業の全体構成を考えている時間	191	3.1	69.1	19.9	2.1	-	-	-	-	-	-	-	5.8	10.0
c.授業用の指導案を作成している時間	191	16.8	72.8	4.2	0.5	-	-	-	-	-	-	-	5.8	5.8
d.授業用の教材研究をしている時間	191	0.5	42.4	36.1	12.6	1.6	0.5	-	-	0.5	-	-	5.8	16.0
e.授業で使う資料を作成している時間	191	2.1	69.1	20.9	2.1	-	-	-	-	-	-	-	5.8	10.0
f.練習問題を作成・準備している時間	191	12.6	76.4	5.2	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8	6.0
g.練習問題の採点をしている時間	191	14.1	75.9	3.7	0.5	-	-	-	-	-	-	-	5.8	5.6
h.児童生徒の到達度を把握・確認している時間	191	4.7	83.8	5.8	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8	7.0

<Q22-1 児童・生徒の教科指導に実際にかけている時間の配分比率> 《小学校》

	n=	0 %	1 %	1 %	2 %	3 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %	9 %	1 0 0 %	無 回 答	平均 比 率 ( %)
a.授業をしている時間	123	-	6.5	5.7	12.2	12.2	21.1	13.8	13.8	8.1	2.4	-	-	4.1	48.2
b.授業の全体構成を考えている時間	123	-	80.5	13.8	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	4.1	8.7
c.授業用の指導案を作成している時間	123	16.3	73.2	4.9	0.8	0.8	-	-	-	-	-	-	-	4.1	5.5
d.授業用の教材研究をしている時間	123	2.4	73.2	17.1	0.8	0.8	0.8	-	-	-	0.8	-	-	4.1	10.6
e.授業で使う資料を作成している時間	123	3.3	78.0	13.8	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	4.1	8.3
f.練習問題を作成・準備している時間	123	12.2	78.0	5.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.1	5.6
g.練習問題の採点をしている時間	123	9.8	75.6	7.3	0.8	2.4	-	-	-	-	-	-	-	4.1	7.4
h.児童生徒の到達度を把握・確認している時間	123	7.3	85.4	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.1	5.7

<Q22-2 児童・生徒の教科指導にかけたいと思っている時間の配分比率> 《小学校》

	n=	0 %	1 %	1 %	2 %	3 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %	9 %	1 0 0 %	無 回 答	平均 比 率 ( %)
a.授業をしている時間	123	0.8	6.5	6.5	19.5	14.6	24.4	13.0	6.5	3.3	-	-	-	4.9	41.6
b.授業の全体構成を考えている時間	123	3.3	67.5	23.6	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	4.9	9.7
c.授業用の指導案を作成している時間	123	15.4	76.4	2.4	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	4.9	5.5
d.授業用の教材研究をしている時間	123	0.8	42.3	35.0	13.8	2.4	-	-	-	-	0.8	-	-	4.9	16.2
e.授業で使う資料を作成している時間	123	2.4	71.5	19.5	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	4.9	9.5
f.練習問題を作成・準備している時間	123	13.0	77.2	4.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.9	5.6
g.練習問題の採点をしている時間	123	13.0	78.9	2.4	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	4.9	5.4
h.児童生徒の到達度を把握・確認している時間	123	4.9	83.7	6.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.9	6.5

<Q22-1 児童・生徒の教科指導に実際にかけている時間の配分比率> 《中学校》

	n=	0 %	1 %	1 %	2 %	3 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %	9 %	1 0 0 %	無 回 答	平均 比 率 ( %)
a.授業をしている時間	68	-	7.4	5.9	13.2	10.3	19.1	11.8	13.2	8.8	5.9	-	-	4.4	48.9
b.授業の全体構成を考えている時間	68	8.8	70.6	14.7	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	4.4	8.3
c.授業用の指導案を作成している時間	68	30.9	63.2	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.4	4.2
d.授業用の教材研究をしている時間	68	11.8	52.9	22.1	8.8	-	-	-	-	-	-	-	-	4.4	10.6
e.授業で使う資料を作成している時間	68	2.9	70.6	17.6	2.9	1.5	-	-	-	-	-	-	-	4.4	10.1
f.練習問題を作成・準備している時間	68	22.1	64.7	8.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.4	6.3
g.練習問題の採点をしている時間	68	26.5	60.3	8.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.4	5.8
h.児童生徒の到達度を把握・確認している時間	68	10.3	80.9	4.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.4	5.9

<Q22-2 児童・生徒の教科指導にかけたいと思っている時間の配分比率> 《中学校》

	n=	0 %	1 %	1 %	2 %	3 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %	9 %	1 0 0 %	無 回 答	平均 比 率 ( %)
a.授業をしている時間	68	-	10.3	14.7	22.1	10.3	22.1	7.4	1.5	4.4	-	-	-	7.4	36.0
b.授業の全体構成を考えている時間	68	2.9	72.1	13.2	4.4	-	-	-	-	-	-	-	-	7.4	10.4
c.授業用の指導案を作成している時間	68	19.1	66.2	7.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.4	6.3
d.授業用の教材研究をしている時間	68	-	42.6	38.2	10.3	-	1.5	-	-	-	-	-	-	7.4	15.6
e.授業で使う資料を作成している時間	68	1.5	64.7	23.5	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	7.4	11.1
f.練習問題を作成・準備している時間	68	11.8	75.0	5.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.4	6.7
g.練習問題の採点をしている時間	68	16.2	70.6	5.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.4	5.8
h.児童生徒の到達度を把握・確認している時間	68	4.4	83.8	4.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.4	8.1

Q23 自身の ICT 機器の使用程度 【管理職以外回答】

《全体》

		* 学校にあり計							
		* 使用計							
		すべての教科で使用している	多くの教科で使用している	多くはないが使用している教科もある	使用している教科はほとんどない	学校にその機器はない	無回答	* 使用計	* 学校にあり計
n=									
a.書画カメラ	191	6.8	23.0	42.9	22.5	0.5	4.2	72.8	95.3
b.パソコン	191	4.7	16.2	41.4	33.0	0.5	4.2	62.3	95.3
c.タブレット	191	0.5	10.5	30.4	52.9		4.2	12.6	42.9
d.電子黒板(大画面テレビ)	191	6.8	10.5	21.5	20.9	36.1	4.2	38.7	59.7

《小学校》

		* 学校にあり計							
		* 使用計							
		すべての教科で使用している	多くの教科で使用している	多くはないが使用している教科もある	使用している教科はほとんどない	学校にその機器はない	無回答	* 使用計	* 学校にあり計
n=									
a.書画カメラ	123	8.9	27.6	38.2	21.1	0.8	4.1	74.8	95.9
b.パソコン	123	2.4	15.4	32.5	44.7	0.8	4.1	50.4	95.1
c.タブレット	123	0.8	11.4	29.3	53.7		4.1	13.0	42.3
d.電子黒板(大画面テレビ)	123	6.5	13.8	14.6	22.8	38.2	4.1	35.0	57.7

《中学校》

		* 学校にあり計							
		* 使用計							
		すべての教科で使用している	多くの教科で使用している	多くはないが使用している教科もある	使用している教科はほとんどない	学校にその機器はない	無回答	* 使用計	* 学校にあり計
n=									
a.書画カメラ	68	2.9	14.7	51.5	25.0	1.5	4.4	69.1	94.1
b.パソコン	68	8.8	17.6	57.4	11.8		4.4	83.8	95.6
c.タブレット	68	2.9	8.8	32.4	51.5		4.4	11.8	44.1
d.電子黒板(大画面テレビ)	68	7.4	4.4	33.8	17.6	32.4	4.4	45.6	63.2

Q24 自身の ICT 機器の活用内容 a. 書画カメラ 【管理職以外回答】

《全体》

	n=	*学校にあり計						*使用計	*学校にあり計
		*使用計							
		使 用 す べ て の 教 科 で	使 多 く し て 教 科 で	教 使 多 く も し て あ る	は 使 用 と し て ど い る 教 科	そ の 学 校 に 機 器 は な い	無 回 答		
a.児童生徒に課題を提示する場面	191	6.8	15.2	41.4	30.9	1.0	4.7	63.4	94.2
b.児童生徒への動機づけを図る場面	191	6.8	17.3	41.4	28.8	1.0	4.7	65.4	94.2
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	191	6.8	17.8	42.4	27.2	1.0	4.7	67.0	94.2
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	191	3.1	9.4	27.7	54.5	1.0	4.2	40.3	94.8
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	191	3.1	11.5	25.1	55.0	1.0	4.2	39.8	94.8
f.児童生徒同士が話し合う場面	191	3.1	8.9	22.0	60.2	1.6	4.2	34.0	94.2
g.児童生徒が発表する場面	191	5.2	19.9	34.6	35.1	1.0	4.2	59.7	94.8

《小学校》

	n=	*学校にあり計						*使用計	*学校にあり計
		*使用計							
		使 用 す べ て の 教 科 で	使 多 く し て 教 科 で	教 使 多 く も し て あ る	は 使 用 と し て ど い る 教 科	そ の 学 校 に 機 器 は な い	無 回 答		
a.児童生徒に課題を提示する場面	123	9.8	19.5	38.2	27.6	0.8	4.1	67.5	95.1
b.児童生徒への動機づけを図る場面	123	9.8	21.1	36.6	27.6	0.8	4.1	67.5	95.1
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	123	8.9	22.0	38.2	26.0	0.8	4.1	69.1	95.1
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	123	4.1	10.6	25.2	56.1	0.8	3.3	39.8	95.9
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	123	4.1	11.4	20.3	60.2	0.8	3.3	35.8	95.9
f.児童生徒同士が話し合う場面	123	4.1	9.8	22.0	60.2	0.8	3.3	35.8	95.9
g.児童生徒が発表する場面	123	6.5	23.6	28.5	37.4	0.8	3.3	58.5	95.9

## 《中学校》

	* 学校にあり計						* 使用計	* 学校にあり計	
	* 使用計								
	使用するすべての教科で	多くの教科で	多くの教科もあるが	ほとんどいないが	学校の機器はない	無回答			
	n=						(%)		
a.児童生徒に課題を提示する場面	68	1.5	7.4	47.1	36.8	1.5	5.9	55.9	92.6
b.児童生徒への動機づけを図る場面	68	1.5	10.3	50.0	30.9	1.5	5.9	61.8	92.6
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	68	2.9	10.3	50.0	29.4	1.5	5.9	63.2	92.6
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	68	1.5	7.4	32.4	51.5	1.5	5.9	41.2	92.6
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	68	1.5	11.8	33.8	45.6	1.5	5.9	47.1	92.6
f.児童生徒同士が話し合う場面	68	1.5	7.4	22.1	60.3	2.9	5.9	30.9	91.2
g.児童生徒が発表する場面	68	2.9	13.2	45.6	30.9	1.5	5.9	61.8	92.6

Q24 自身の ICT 機器の活用内容 b. パソコン 【管理職以外回答】

《全体》

	n=	*学校にあり計						*使用計	*学校にあり計
		*使用計							
		使す 用べ して の教 科で	使多 用く し の教 科で	教使 科用 もし はあ てな い	は使 用と して ど い る 教 科	そ 学 校 に 機 器 は な い	無 回 答		
a.児童生徒に課題を提示する 場面	191	4.7	9.4	33.5	46.1	1.0	5.2	47.6	93.7
b.児童生徒への動機づけを 図る場面	191	5.2	11.0	37.7	40.3	1.0	4.7	53.9	94.2
c.児童生徒が学習の理解を 深める場面	191	4.7	8.9	42.9	37.2	1.6	4.7	56.5	93.7
d.児童生徒が繰り返しによる 学習の定着を図る場面	191	3.1	6.8	24.1	60.2	1.6	4.2	34.0	94.2
e.児童生徒が自分の考えを まとめる場面	191	1.6	4.2	28.3	60.2	1.6	4.2	34.0	94.2
f.児童生徒同士が話し合う 場面	191	1.6	3.7	16.8	71.7	2.1	4.2	22.0	93.7
g.児童生徒が発表する場面	191	2.6	8.4	31.4	51.8	1.6	4.2	42.4	94.2

《小学校》

	n=	*学校にあり計						*使用計	*学校にあり計
		*使用計							
		使す 用べ して の教 科で	使多 用く し の教 科で	教使 科用 もし はあ てな い	は使 用と して ど い る 教 科	そ 学 校 に 機 器 は な い	無 回 答		
a.児童生徒に課題を提示する 場面	123	4.1	10.6	22.0	56.9	1.6	4.9	36.6	93.5
b.児童生徒への動機づけを 図る場面	123	4.1	12.2	26.0	52.0	1.6	4.1	42.3	94.3
c.児童生徒が学習の理解を 深める場面	123	3.3	8.1	34.1	48.0	2.4	4.1	45.5	93.5
d.児童生徒が繰り返しによる 学習の定着を図る場面	123	2.4	7.3	17.9	66.7	2.4	3.3	27.6	94.3
e.児童生徒が自分の考えを まとめる場面	123	1.6	3.3	19.5	69.9	2.4	3.3	24.4	94.3
f.児童生徒同士が話し合う 場面	123	1.6	3.3	13.0	76.4	2.4	3.3	17.9	94.3
g.児童生徒が発表する場面	123	3.3	7.3	22.0	61.8	2.4	3.3	32.5	94.3



## 《中学校》

		* 学校にあり計						* 使用計	* 学校にあり計
		* 使用計							
		使 す べ て の 教 科 で 使 用 し て い る	使 多 く の 教 科 で 使 用 し て い る	教 使 多 く も し て あ る が あ て い る	は 使 用 し て い る 教 科	そ 学 校 に 機 器 は な い	無 回 答		
n=									
a.児童生徒に課題を提示する場面	68	5.9	7.4	54.4		26.5	5.9	67.6	94.1
b.児童生徒への動機づけを図る場面	68	7.4	8.8	58.8		19.1	5.9	75.0	94.1
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	68	7.4	10.3	58.8		17.6	5.9	76.5	94.1
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	68	4.4	5.9	35.3		48.5	5.9	45.6	94.1
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	68	1.5	5.9	44.1		42.6	5.9	51.5	94.1
f.児童生徒同士が話し合う場面	68	1.5	4.4	23.5		63.2	1.5	29.4	92.6
g.児童生徒が発表する場面	68	1.5	10.3	48.5		33.8	5.9	60.3	94.1

Q24 自身の ICT 機器の活用内容 c. タブレット 【管理職以外回答】

《全体》

	n=	*学校にあり計					*使用計	*学校にあり計
		*使用計						
		使 用 す べ て の 教 科 で	使 多 く し て 教 科 で	教 使 多 く も し は あ る が	は 使 用 と し て ど い る 教 科	そ の 学 校 に 機 器 は な い		
a.児童生徒に課題を提示する場面	191	1.0 2.1	9.9	33.0	48.7	5.2	13.1	46.1
b.児童生徒への動機づけを図る場面	191	1.0 2.6	8.4	31.9	51.3	4.7	12.0	44.0
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	191	1.0 2.1	9.9	30.9	50.8	5.2	13.1	44.0
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	191	1.0 2.1	6.8	36.1	50.3	4.7	8.9	45.0
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	191	0.5 1.0	4.7	37.2	51.8	4.7	6.3	43.5
f.児童生徒同士が話し合う場面	191	0.5 1.0	3.7	39.3	51.3	4.2	5.2	44.5
g.児童生徒が発表する場面	191	1.6 1.0	4.2	36.6	52.4	4.2	6.8	43.5

《小学校》

	n=	*学校にあり計					*使用計	*学校にあり計
		*使用計						
		使 用 す べ て の 教 科 で	使 多 く し て 教 科 で	教 使 多 く も し は あ る が	は 使 用 と し て ど い る 教 科	そ の 学 校 に 機 器 は な い		
a.児童生徒に課題を提示する場面	123	1.6 1.6	8.1	31.7	52.0	4.9	11.4	43.1
b.児童生徒への動機づけを図る場面	123	1.6 1.6	8.1	30.9	53.7	4.1	11.4	42.3
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	123	1.6 0.8	10.6	29.3	53.7	4.1	13.0	42.3
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	123	1.6 1.6	6.5	34.1	53.7	4.1	8.1	42.3
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	123	0.8 4.1	4.1	35.8	55.3	4.1	4.9	40.7
f.児童生徒同士が話し合う場面	123	0.8 4.1	4.1	36.6	55.3	3.3	4.9	41.5
g.児童生徒が発表する場面	123	1.6 4.1	4.1	35.0	56.1	3.3	5.7	40.7

## 《中学校》

	n=	*学校にあり計					*使用計	*学校にあり計
		*使用計						
		使 用 す べ て の 教 科 で	使 用 す る 教 科 で	多 く 使 用 し て い る 教 科 で	使 用 し て い る が あ る が な い	使 用 し て い る が な い		
a.児童生徒に課題を提示する場面	68	2.9	13.2	35.3	42.6	5.9	16.2	51.5
b.児童生徒への動機づけを図る場面	68	4.4	8.8	33.8	47.1	5.9	13.2	47.1
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	68	4.4	8.8	33.8	45.6	7.4	13.2	47.1
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	68	7.4	2.9	39.7	44.1	5.9	10.3	50.0
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	68	5.9	2.9	39.7	45.6	5.9	8.8	48.5
f.児童生徒同士が話し合う場面	68	2.9	2.9	44.1	44.1	5.9	5.9	50.0
g.児童生徒が発表する場面	68	1.5	4.4	39.7	45.6	5.9	8.8	48.5

Q24 自身の ICT 機器の活用内容 d. 電子黒板(大画面テレビ) 【管理職以外回答】

《全体》

	n=	*学校にあり計						*使用計	*学校にあり計
		*使用計							
		使 用 す べ て の 教 科 で	使 用 し て い る 教 科 で	教 科 も あ る が	使 用 し て い る が	使 用 し て い る が	そ の 機 器 は な い		
a.児童生徒に課題を提示する場面	191	6.8	9.4	19.4	24.1	35.6	4.7	35.6	59.7
b.児童生徒への動機づけを図る場面	191	6.8	10.5	18.8	22.5	36.6	4.7	36.1	58.6
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	191	6.3	9.4	22.0	20.9	36.6	4.7	37.7	58.6
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	191	3.1	4.2	15.7	33.0	39.8	4.2	23.0	56.0
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	191	2.6	2.6	13.1	37.7	39.8	4.2	18.3	56.0
f.児童生徒同士が話し合う場面	191	3.7	2.6	11.0	38.7	39.8	4.2	17.3	56.0
g.児童生徒が発表する場面	191	3.1	7.9	14.7	29.8	40.3	4.2	25.7	55.5

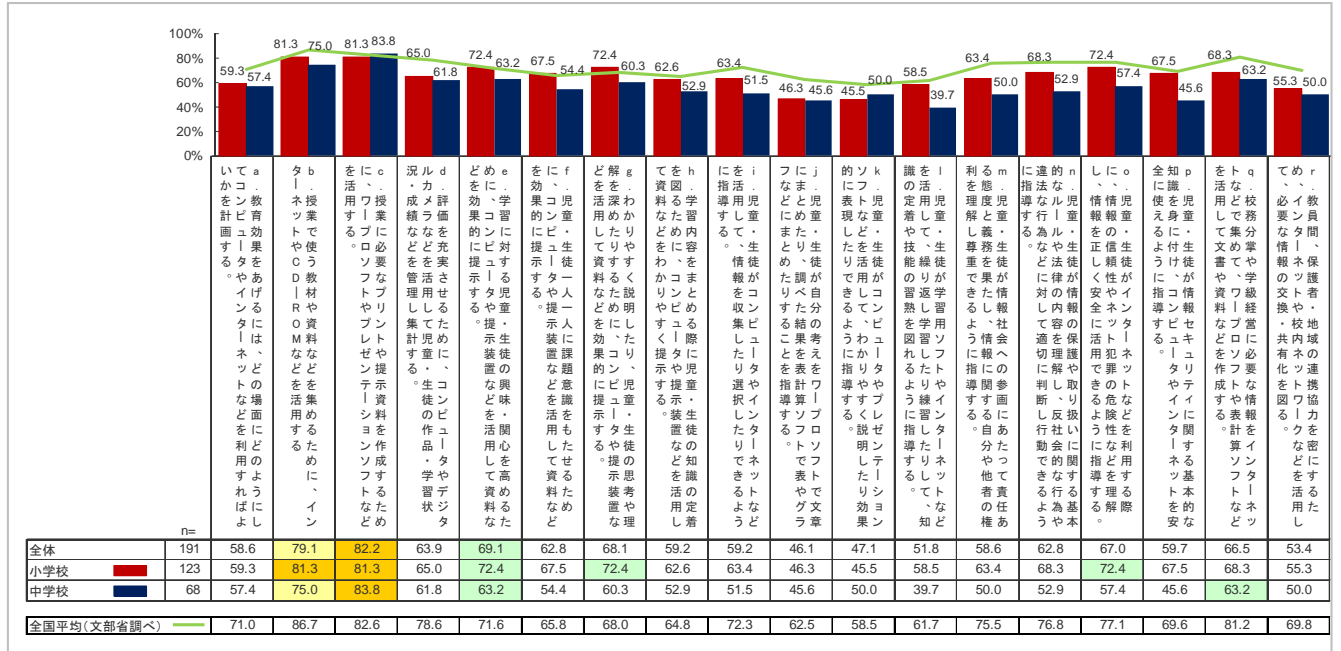
《小学校》

	n=	*学校にあり計						*使用計	*学校にあり計
		*使用計							
		使 用 す べ て の 教 科 で	使 用 し て い る 教 科 で	教 科 も あ る が	使 用 し て い る が	使 用 し て い る が	そ の 機 器 は な い		
a.児童生徒に課題を提示する場面	123	6.5	12.2	15.4	23.6	38.2	4.1	34.1	57.7
b.児童生徒への動機づけを図る場面	123	6.5	13.0	12.2	24.4	39.8	4.1	31.7	56.1
c.児童生徒が学習の理解を深める場面	123	5.7	11.4	16.3	22.8	39.8	4.1	33.3	56.1
d.児童生徒が繰り返しによる学習の定着を図る場面	123	2.4	5.7	12.2	33.3	43.1	3.3	20.3	53.7
e.児童生徒が自分の考えをまとめる場面	123	2.4	3.3	8.9	39.0	43.1	3.3	14.6	53.7
f.児童生徒同士が話し合う場面	123	3.3	2.4	9.8	38.2	43.1	3.3	15.4	53.7
g.児童生徒が発表する場面	123	3.3	8.9	10.6	30.1	43.9	3.3	22.8	52.8

《中学校》

	n=	*学校にあり計					無回答	*使用計	*学校にあり計
		*使用計							
		使用 す べ て の 教 科 で	使 多 用 く し て の 教 科 で	教 使 科 も あ て な い が	は 使 用 と し て い る 教 科	そ 学 校 に 機 器 は な い			
a.児童生徒に課題を提示する 場面	68	7.4 4.4	26.5	25.0	30.9	5.9	38.2	63.2	
b.児童生徒への動機づけを 図る場面	68	7.4 5.9	30.9	19.1	30.9	5.9	44.1	63.2	
c.児童生徒が学習の理解を 深める場面	68	7.4 5.9	32.4	17.6	30.9	5.9	45.6	63.2	
d.児童生徒が繰り返しによる 学習の定着を図る場面	68	4.4 1.5	22.1	32.4	33.8	5.9	27.9	60.3	
e.児童生徒が自分の考えを まとめる場面	68	2.9 1.5	20.6	35.3	33.8	5.9	25.0	60.3	
f.児童生徒同士が話し合う 場面	68	4.4 2.9	13.2	39.7	33.8	5.9	20.6	60.3	
g.児童生徒が発表する場面	68	2.9 5.9	22.1	29.4	33.8	5.9	30.9	60.3	

Q25 自身の ICT 活用力程度 肯定層一覧 【管理職以外回答】



Q25 自身の ICT 活用力程度 《全体》 【管理職以外回答】

項目	n	* 肯定層 (%)				* 肯定層 (%)	
		わりでできる	ややできる	あまりできない	ほとんどできない		
a	191	13.1	45.5	29.3	8.4	3.7	58.6
b	191	31.9	47.1	15.7	2.3	1.1	79.1
c	191	37.7	44.5	12.0	2.6	3.1	82.2
d	191	23.6	40.3	28.8	4.2	3.1	63.9
e	191	21.5	47.6	23.6	3.7	3.7	69.1
f	191	18.3	44.5	29.8	4.2	3.1	62.8
g	191	23.6	44.5	23.6	5.2	3.1	68.1
h	191	15.7	43.5	32.5	5.2	3.1	59.2
i	191	19.9	39.3	30.9	6.8	3.1	59.2
j	191	11.0	35.1	39.3	11.5	3.1	46.1
k	191	10.5	36.6	37.7	12.0	3.1	47.1
l	191	10.5	41.4	35.6	9.4	3.1	51.8
m	191	10.5	48.2	33.0	5.8	2.6	58.6
n	191	11.0	51.8	30.4	4.2	2.6	62.8
o	191	10.5	56.5	26.2	4.2	2.6	67.0
p	191	9.9	49.7	30.4	7.3	2.6	59.7
q	191	24.6	41.9	27.2	3.7	2.6	66.5
r	191	7.9	45.5	34.6	9.4	2.6	53.4

**Q25 自身の ICT 活用力程度 《小学校》 【管理職以外回答】**

	n=	* 肯定層 (%)					* 肯定層 (%)	
		わりにはできる	ややできる	あまりできない	ほとんどできない	無回答		
a.教育効果をあげるには、どの場面にどのようにしてコンピュータやインターネットなどを利用すればよいかを計画する。	123	14.6	44.7		30.1	7.3	3.3	59.3
b.授業で使う教材や資料などを集めるために、インターネットやCD-ROMなどを活用する	123	33.3	48.0		13.8	2.4	4.4	81.3
c.授業に必要なプリントや提示資料を作成するために、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	123	38.2	43.1		13.0	3.2	4.4	81.3
d.評価を充実させるために、コンピュータやデジタルカメラなどを活用して児童・生徒の作品・学習状況・成績などを管理し集計する。	123	22.8	42.3		27.6	4.9	2.4	65.0
e.学習に対する児童・生徒の興味・関心を高めるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	123	23.6	48.8		21.1	3.3	3.3	72.4
f.児童・生徒一人一人に課題意識をもたせるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	123	21.1	46.3		26.8	3.2	4.4	67.5
g.わかりやすく説明したり、児童・生徒の思考や理解を深めたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	123	26.0	46.3		22.0	3.2	4.4	72.4
h.学習内容をまとめる際に児童・生徒の知識の定着を図るために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などをわかりやすく提示する。	123	17.1	45.5		31.7	3.2	4.4	62.6
i.児童・生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり選択したりできるように指導する。	123	20.3	43.1		29.3	4.9	2.4	63.4
j.児童・生徒が自分の考えをワープロソフトで文章にまとめたり、調べた結果を表計算ソフトで表やグラフなどにまとめたりすることを指導する。	123	8.9	37.4		39.0	12.2	2.4	46.3
k.児童・生徒がコンピュータやプレゼンテーションソフトなどを活用して、わかりやすく説明したり効果的に表現したりできるように指導する。	123	8.1	37.4		38.2	13.8	2.4	45.5
l.児童・生徒が学習用ソフトやインターネットなどを活用して、繰り返し学習したり練習したりして、知識の定着や技能の習熟を図るよう指導する。	123	10.6	48.0		29.3	9.8	2.4	58.5
m.児童・生徒が情報社会への参画にあたって責任ある態度と義務を果たし、情報に関する自分や他者の権利を理解し尊重できるように指導する。	123	11.4	52.0		26.8	8.1	1.6	63.4
n.児童・生徒が情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を理解し、反社会的な行為や違法行為などに対して適切に判断し行動できるように指導する。	123	13.0	55.3		23.6	6.5	1.6	68.3
o.児童・生徒がインターネットなどを活用する際に、情報の信頼性やネット犯罪の危険性などを理解し、情報を正しく安全に活用できるように指導する。	123	12.2	60.2		20.3	5.7	1.6	72.4
p.児童・生徒が情報セキュリティに関する基本的な知識を身に付け、コンピュータやインターネットを安全に使えるように指導する。	123	10.6	56.9		23.6	7.3	1.6	67.5
q.校務分掌や学級経営に必要な情報をインターネットなどで集めて、ワープロソフトや表計算ソフトなどを活用して文書や資料などを作成する。	123	26.0	42.3		26.0	4.1	1.6	68.3
r.教員間、保護者・地域の連携協力を密にするため、インターネットや校内ネットワークなどを活用して、必要な情報の交換・共有化を図る。	123	8.1	47.2		30.9	12.2	1.6	55.3

**Q25 自身の ICT 活用力程度 《中学校》 【管理職以外回答】**

	n=	* 肯定層 (%)					* 肯定層 (%)	
		わりにはできる	ややできる	あまりできない	ほとんどできない	無回答		
a.教育効果をあげるには、どの場面にどのようにしてコンピュータやインターネットなどを利用すればよいかを計画する。	68	10.3	47.1		27.9	10.3	4.4	57.4
b.授業で使う教材や資料などを集めるために、インターネットやCD-ROMなどを活用する	68	29.4	45.6		19.1	1.5	4.4	75.0
c.授業に必要なプリントや提示資料を作成するために、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	68	36.8	47.1		10.3	1.5	4.4	83.8
d.評価を充実させるために、コンピュータやデジタルカメラなどを活用して児童・生徒の作品・学習状況・成績などを管理し集計する。	68	25.0	36.8		30.9	2.9	4.4	61.8
e.学習に対する児童・生徒の興味・関心を高めるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	68	17.6	45.6		27.9	4.4	4.4	63.2
f.児童・生徒一人一人に課題意識をもたせるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	68	13.2	41.2		35.3	5.9	4.4	54.4
g.わかりやすく説明したり、児童・生徒の思考や理解を深めたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	68	19.1	41.2		26.5	8.8	4.4	60.3
h.学習内容をまとめる際に児童・生徒の知識の定着を図るために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などをわかりやすく提示する。	68	13.2	39.7		33.8	8.8	4.4	52.9
i.児童・生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり選択したりできるように指導する。	68	19.1	32.4		33.8	10.3	4.4	51.5
j.児童・生徒が自分の考えをワープロソフトで文章にまとめたり、調べた結果を表計算ソフトで表やグラフなどにまとめたりすることを指導する。	68	14.7	30.9		39.7	10.3	4.4	45.6
k.児童・生徒がコンピュータやプレゼンテーションソフトなどを活用して、わかりやすく説明したり効果的に表現したりできるように指導する。	68	14.7	35.3		36.8	8.8	4.4	50.0
l.児童・生徒が学習用ソフトやインターネットなどを活用して、繰り返し学習したり練習したりして、知識の定着や技能の習熟を図るよう指導する。	68	10.3	29.4		47.1	8.8	4.4	39.7
m.児童・生徒が情報社会への参画にあたって責任ある態度と義務を果たし、情報に関する自分や他者の権利を理解し尊重できるように指導する。	68	8.8	41.2		44.1	1.5	4.4	50.0
n.児童・生徒が情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を理解し、反社会的な行為や違法行為などに対して適切に判断し行動できるように指導する。	68	7.4	45.6		42.6	4.4	4.4	52.9
o.児童・生徒がインターネットなどを活用する際に、情報の信頼性やネット犯罪の危険性などを理解し、情報を正しく安全に活用できるように指導する。	68	7.4	50.0		36.8	1.5	4.4	57.4
p.児童・生徒が情報セキュリティに関する基本的な知識を身に付け、コンピュータやインターネットを安全に使えるように指導する。	68	8.8	36.8		42.6	7.4	4.4	45.6
q.校務分掌や学級経営に必要な情報をインターネットなどで集めて、ワープロソフトや表計算ソフトなどを活用して文書や資料などを作成する。	68	22.1	41.2		29.4	2.9	4.4	63.2
r.教員間、保護者・地域の連携協力を密にするため、インターネットや校内ネットワークなどを活用して、必要な情報の交換・共有化を図る。	68	7.4	42.6		41.2	4.4	4.4	50.0

Q26 自身の今後の教科指導場面での ICT 機器の活用意向 【管理職以外回答】

《全体》

	n=	* 活用層 (%)					* 活用層
		積極的に活用していききたいと思う	活用していききたいと思う	どちらともいえない	あまり活用を考えていない	まったく活用を考えていない	
a.課題を提示する場面	191	29.8	44.5	14.7	6.8	1.0	74.3
b.動機づけを図る場面	191	37.2	39.8	13.1	5.8	1.0	77.0
c.学習の理解を深める場面	191	32.5	39.3	16.8	5.2	3.1	71.7
d.学習の定着を図る場面	191	24.1	36.6	24.1	8.4	3.1	60.7
e.自分の考えをまとめる場面	191	18.8	34.0	29.3	11.0	3.1	52.9
f.児童生徒同士が話し合う場面	191	17.3	35.1	26.7	13.6	4.2	52.4
g.児童生徒が発表する場面	191	33.0	42.4	12.6	7.3	1.6	75.4

《小学校》

	n=	* 活用層 (%)					* 活用層
		積極的に活用していききたいと思う	活用していききたいと思う	どちらともいえない	あまり活用を考えていない	まったく活用を考えていない	
a.課題を提示する場面	123	35.0	42.3	14.6	5.7	0.8	77.2
b.動機づけを図る場面	123	43.1	37.4	10.6	6.5	0.8	80.5
c.学習の理解を深める場面	123	36.6	40.7	13.0	5.7	2.4	77.2
d.学習の定着を図る場面	123	26.0	38.2	22.0	8.9	2.4	64.2
e.自分の考えをまとめる場面	123	22.0	32.5	26.0	14.6	2.4	54.5
f.児童生徒同士が話し合う場面	123	20.3	36.6	22.8	14.6	4.1	56.9
g.児童生徒が発表する場面	123	34.1	45.5	10.6	7.3	0.8	79.7

《中学校》

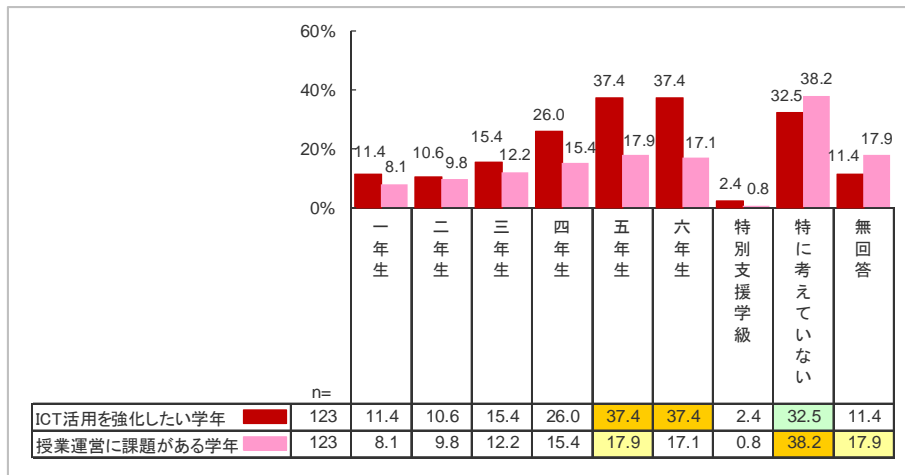
	n=	* 活用層 (%)					* 活用層
		積極的に活用していききたいと思う	活用していききたいと思う	どちらともいえない	あまり活用を考えていない	まったく活用を考えていない	
a.課題を提示する場面	68	20.6	48.5	14.7	8.8	1.5	69.1
b.動機づけを図る場面	68	26.5	44.1	17.6	4.4	1.5	70.6
c.学習の理解を深める場面	68	25.0	36.8	23.5	4.4	4.4	61.8
d.学習の定着を図る場面	68	20.6	33.8	27.9	7.4	4.4	54.4
e.自分の考えをまとめる場面	68	13.2	36.8	35.3	4.4	4.4	50.0
f.児童生徒同士が話し合う場面	68	11.8	32.4	33.8	11.8	4.4	44.1
g.児童生徒が発表する場面	68	30.9	36.8	16.2	7.4	2.9	67.6



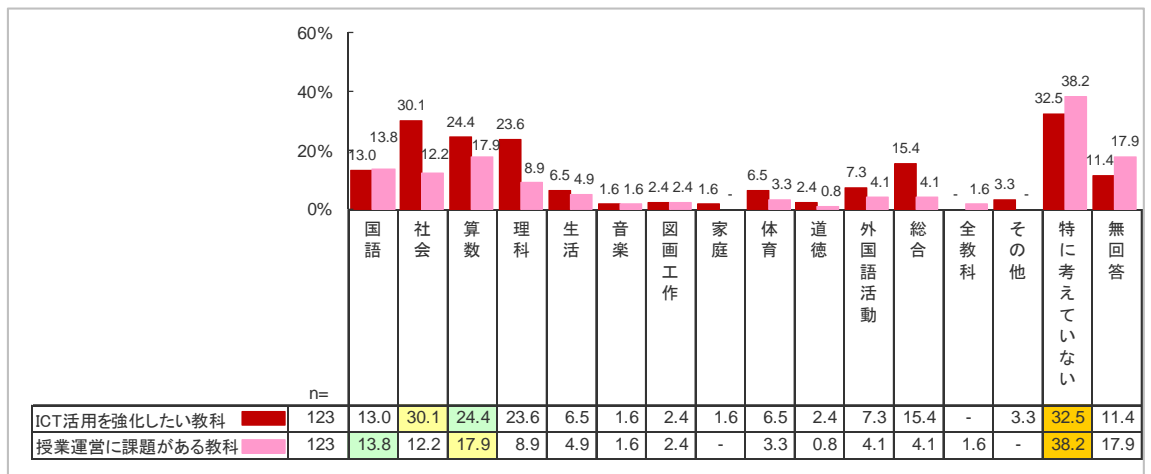
Q27 ICT活用強化意向学年・教科

Q29 授業運営に課題がある学年・教科【管理職以外回答】

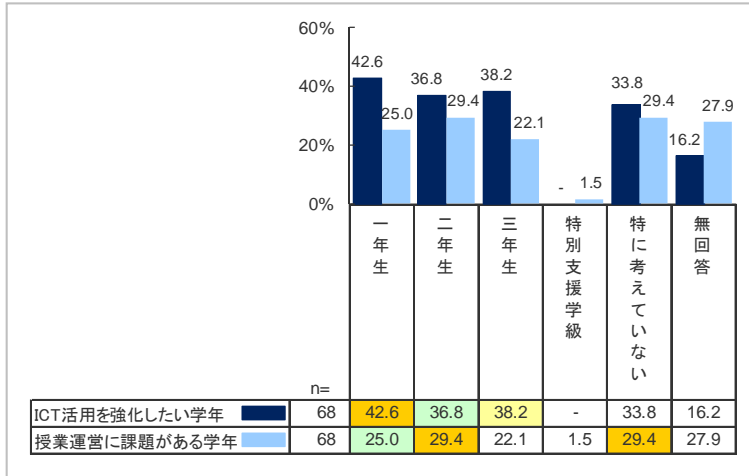
＜ICT活用強化意向学年・授業運営に課題がある学年＞ 《小学校》



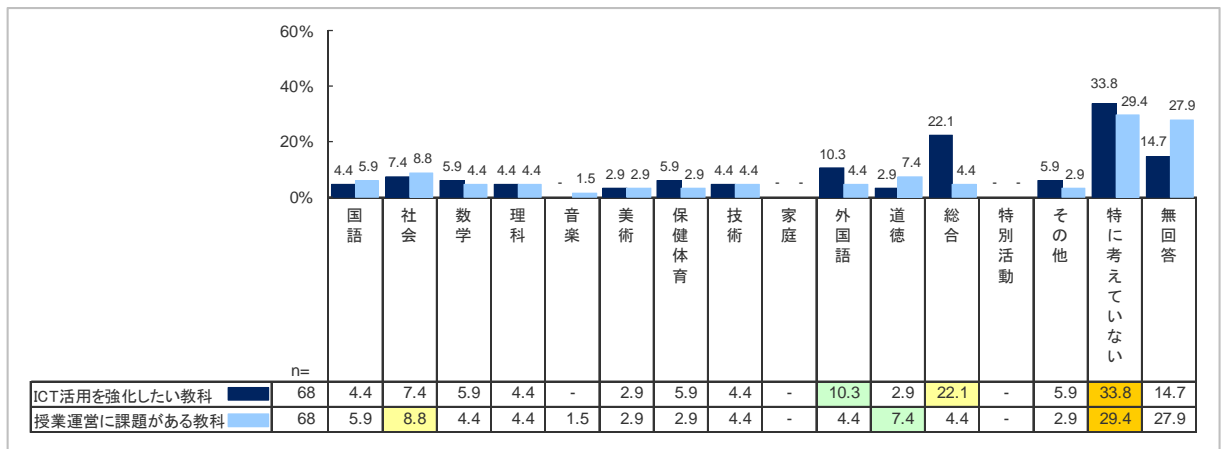
＜ICT活用強化意向教科・授業運営に課題がある教科＞ 《小学校》



< ICT 活用強化意向学年・授業運営に課題がある学年 > 《中学校》



< ICT 活用強化意向教科・授業運営に課題がある教科 > 《中学校》



Q27 ICT活用強化意向学年と教科の組み合わせ 【管理職以外回答】

Q29 授業運営に課題がある学年と教科の組み合わせ

<ICT活用強化意向 学年と教科の組み合わせ> 《小学校》

		(%)														
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	道徳	外国語活動	総合	全教科	その他	無回答
n=123																
一年生		5.7	-	7.3	0.8	4.9	0.8	-	-	0.8	0.8	-	-	-	-	
二年生		4.1	-	6.5	0.8	4.9	0.8	-	-	-	1.6	-	-	-	-	
三年生		4.1	4.1	7.3	8.1	-	1.6	-	-	-	-	0.8	3.3	-	-	
四年生		3.3	12.2	10.6	13.0	-	1.6	-	-	2.4	-	4.1	5.7	-	0.8	
五年生		5.7	21.1	12.2	17.1	-	1.6	1.6	0.8	2.4	-	6.5	10.6	-	-	
六年生		2.4	20.3	12.2	16.3	-	0.8	2.4	1.6	4.1	0.8	6.5	11.4	-	-	
特別支援学級		1.6	0.8	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.4	
無回答																43.9

<授業運営に課題がある 学年と教科の組み合わせ> 《小学校》

		(%)														
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	道徳	外国語活動	総合	全教科	その他	無回答
n=123																
一年生		4.9	-	3.3	-	3.3	0.8	0.8	-	-	-	-	0.8	0.8	-	
二年生		4.1	-	5.7	-	3.3	0.8	0.8	-	0.8	-	-	0.8	-	-	
三年生		2.4	3.3	4.1	3.3	0.8	-	1.6	-	-	-	-	3.3	0.8	-	
四年生		0.8	5.7	5.7	4.1	0.8	-	0.8	-	1.6	-	-	2.4	0.8	-	
五年生		1.6	6.5	4.9	2.4	0.8	-	0.8	-	0.8	-	3.3	2.4	0.8	-	
六年生		1.6	4.1	6.5	2.4	0.8	-	1.6	-	1.6	0.8	4.1	3.3	0.8	-	
特別支援学級		0.8	-	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答																56.1

<ICT 活用強化意向 学年と教科の組み合わせ> 《中学校》

		(%)															
		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	家庭	外国語	道徳	総合	特別活動	全教科	その他	無回答
n=68																	
一年生		1.5	7.4	4.4	2.9	-	2.9	4.4	4.4	-	8.8	1.5	17.6	-	-	4.4	
二年生		1.5	2.9	4.4	1.5	-	2.9	4.4	2.9	-	7.4	2.9	17.6	-	-	4.4	
三年生		1.5	2.9	5.9	2.9	-	2.9	4.4	2.9	-	7.4	1.5	13.2	-	-	5.9	
特別支援学級		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答																	50.0

<授業運営に課題がある 学年と教科の組み合わせ> 《中学校》

		(%)															
		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	家庭	外国語	道徳	総合	特別活動	全教科	その他	無回答
n=68																	
一年生		2.9	4.4	1.5	4.4	-	2.9	2.9	4.4	-	1.5	1.5	-	-	-	2.9	
二年生		1.5	5.9	2.9	1.5	1.5	2.9	2.9	2.9	-	2.9	2.9	1.5	-	-	2.9	
三年生		-	2.9	2.9	1.5	-	2.9	2.9	2.9	-	2.9	2.9	-	-	-	2.9	
特別支援学級		1.5	-	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答																	57.4

Q28 ICT 活用強化内容（自由回答） 《小学校》 【管理職以外回答】

《小学校》 <Q28 ICT 活用強化内容>

内 容	F2 担任学年
意欲付けを図る場面での活用。習熟場面での活用。児童の生活に身近な資料提示として、理解を深める場面	三年生
今どこをやっているのかわかりやすくしたい。ノート指導をやすくしたい。	五年生
ネット上の活用できる教材を児童に提示等して活用を強化したい。	一年生
パソコンによる資料提示	担任を受け持っていない
課題提示、学習の定着を図る時、理解を深める場面、発表させる場面、などで積極的に活用していきたい。	担任を受け持っていない
教科書を掲示し、児童にわかりやすく示したい。	一年生
教材の提示	担任を受け持っていない
資料の提示	四年生
資料や教材をテレビ画面で写して、子どもに気づきを多くもたせたい。	五年生
資料を提示して課題を設定する場面など。	担任を受け持っていない
資料提示。理科ネットワークの活用など	二年生
導入のひきつけ、資料の見やすさ、学び合い等。	六年生
導入の部分(国語)で物語の大筋や昔の家の造りなど、子どもが現在社会で見たことがないことをインターネットより引き出して見せたい。	特別支援学級
情報の視覚化。資料(画像)で理解しやすいように活用したい。	特別支援学級
アニメーション、コマドリアニメ、写真加工	担任を受け持っていない
デジタル機器を使った作品を作りたいです(映像など)	担任を受け持っていない
自分の動きやボールの動きをタブレットで見ることで、普段見ることのできない姿を見て、課題解決ができる。また、タブレットをすぐに見返し、友だちと話すことでコミュニケーションをたくさんとることができるようになる。その場で動き等を、友だち同士で動画にとる。	三年生
実際の映像やCG、アニメーションで、具体的な動きや現象について見る。また、自分の動きを見て改善につなげる等。	五年生
実物投影机、プロジェクター、スクリーンを自分で準備(購入)し、教室に設置、いつでもICTを使える教室環境にする。	二年生
動きのある動画などは、手順などの流れを説明するのに助けになるので強化をしていきたい	二年生
3年生の総合や理科・社会の調べ学習において積極的にインターネットを活用する	三年生
自分が関心のあることについて、情報を取り出せるようにしたい。	二年生
実際に調べたり、まとめたりする時	六年生
調べ学習(インターネット)、発表(パワーポイント)	五年生
調べ学習やまとめ学習。	二年生
すべての教科で活用していくべき。たとえば、ワークテスト等を、タブレット端末で行うことにより、採点等を効率的に行い、余剰の時間を学習上、課題がある児童の指導に充てたい。	三年生
タブレットを使用して、計算問題を練習する・理科の観察でタブレットのカメラを使う	三年生
調べ学習(パソコン、タブレットを使用)・漢字の習得、アルファベットの習得	特別支援学級
タブレットの使用、教材、児童に1人1台タブレット、くり返し学習、すき間学習、朝学習に使用	特別支援学級
タブレット等(カメラ)を活用して、見本の動きを見せたり、子どもの運動を撮影して、その場で見せたりするなど、課題提示やふりかえりの場で活用したい。	一年生
PC+電子黒板or大画面テレビ	特別支援学級
PCや書画カメラなどを活用して、視覚化し、学習意欲の強化につなげたい。	四年生
パソコン等をたくさん活用して(専門の方を招いて指導してもらう。使う機会を増やす)情報を得る力や自分の考えをまとめる力を強化したい。	一年生
高学年のパソコンを活用した授業(プレゼンなども含む)	五年生
プレゼンソフトやプロジェクターを使い発表をさせたい。反復学習やドリル学習で活用したい。	六年生
社会で資料提示・理科で資料提示	六年生
プレゼンなどが子供たちでできる力をつけるために、積極的にICTを活用していきたい。	二年生
児童が自分の意見や考えを発表するときに活用する。資料から読み取る力をつけたいときに活用する。	六年生
児童の考えをICTを活用して、クラス全体で共有できるようにしたい。	一年生
児童の発表、交流場面での活用。師範場面での活用。	六年生

内 容	F2 担任学年
図形の解説。サンマ漁の様子などの資料映像	五年生
図形の提示など。植物や動物の観察、実験など	六年生
表やグラフなど、最新の統計資料を用いる。産業や生活など、現地情報を入手する。プレゼン能力を高める	四年生
4年→ドリル学習にて、四則計算、ローマ字入力。5年→ワープロソフトにて、スピーチ原稿や提案文、プレゼンソフトでスライド構成(一枚)。6年→プレゼンソフトでスライド構成(複数)	五年生
ドリルで使いたい。	四年生
算数や理科のイメージづくり	四年生
視覚により直観的に理解させる。立体の辺や頂点が展開図に開くとどうなるか。立体になるとどうなるか等、くりかえし示すなど。時刻と時間などでも。	担任を受け持っていない
図・表の提示	六年生
図形のときに多く使用したい	六年生
地図やグラフなどの提示。数の学習の視覚化、問題提示	一年生
日本地図を俯瞰して見たり、土地の様子を感覚的にとらえる映像。理科では、体のつくりなど、直接見られない内容の映像など	四年生
社会→実際には行けないところ(外国、地方、危険なところetc)のこについて知らせる。歴史や社会情勢について知らせるための映像、写真、などを見せること。外国語→会話や発音、リズムなどを示すための音声を聞かせること。	二年生
社会では、実際の人物や工場、地形など。総合では、パソコンの理解。理科では宇宙、星、植物の成長など。英語は、発音や、情景の理解。いろいろ活用していきたい。	特別支援学級
社会や総合では資料的なもの、英語は発音を中心に。	二年生
宿題や小テストなど。又、立体図形等の空間を見せたいと思います。	担任を受け持っていない
観察	四年生
理科では、観察の結果やコンテンツの提示	六年生
理科では、月の学習で夜にしか見られない動きなどを、クラスでICTを活用して観察したりしていきたい。各教科、まとめや予想などの発表場面でも活用していきたい。	四年生
理科では、生物の発育や生態などを考えさせながら提示したい。社会では、NHKの番組を利用したい	六年生
歌詞の学習	担任を受け持っていない
楽譜、記号、歌詞の提示	担任を受け持っていない
基礎、基本の確認。定着の確認。思考活動の確認。	特別支援学級
総合や英語など、興味、関心をもたせるのに活用したい。	四年生
イメージをもたせる、理解の向上	五年生
児童の意欲づけに活用したい	一年生
今後ネット社会の中に入っていき年頃なのでモラル教育をすすめたい	特別支援学級
電子黒板があるとICT活用が広がるが、現在のテレビ(後ろから見えない)と書画カメラではICTを日常的に活用しにくい。	五年生
特になし(58件)	

《中学校》 <Q28 ICT 活用強化内容>

内 容	F2 担任学年
パワーポイントを使用したプレゼンテーション能力	三年生
パワーポイント等を利用して、視覚にうったえるような授業を今後実践していきたい。	二年生
プレゼンテーション	担任を受け持っていない
まとめ発表(最先端技術や、三年間の学習のまとめなど)	三年生
活動の説明をパワーポイントを用いて英語で行う	二年生
考えや調べた内容をまとめて発表する	一年生
社会や総合で発表のプレゼンテーションを行ってみたい	一年生
修学旅行、職場体験などの発表	一年生
生徒が自らの発表を自ら評価する際に利用したい	二年生
総合の発表などで、プレゼンなどできるように指導したい。	担任を受け持っていない
写真などを提示する際に今まで印刷して出していたものを、タブレットや電子黒板があればそれら機器を使って活用したい。発表活動・発表活動にむけての調べ学習	三年生
映像、画像情報を増やして、提示していきたい。	一年生
画像等の提示	一年生
視覚的な情報を用いることで、わかりやすく伝え、理解を深めさせたい。発表等で活用させたい。	二年生
たくさんある資料から、理解を深めさせる資料を精選して、映像等で見せていきたい。	担任を受け持っていない
教材の提示。21世紀型の能力を育てるためのプレゼンなど	三年生
単元の導入の場面でICTを活用する。PowerPointのスライドショー	二年生
美術、理科、技術、家庭科、音楽など特別教室にはインターネットをつなげて、資料をダイレクトに提示できる環境を作ってもらいたい。作品や作り方などの動画を直接提示できると、生徒の興味関心を持たせることにつながる。	三年生
生徒の動きをビデオカメラ等で撮影し、生徒自身で振り返りをさせ、技能向上に努める。	一年生
動きを録画し、観察するために使う	特別支援学級
動画を撮って振り返りに使用する。行事の事前、事後学習に役立てる。	担任を受け持っていない
地図の提示、作図(1、2、3)。統計資料の処理	担任を受け持っていない
調べ学習の発表。体育での内的フィードバック。外発的動機づけ。	特別支援学級
特に図形など、視覚的に捉えた方が理解しやすい分野について活用できたら効果的だと思う。	二年生
担当教科の技術科は、情報教育をおこなうので、これから生徒たちが社会に出たときに使用するICT機器等は、実際に指導する必要性があると感じています。	担任を受け持っていない
国語…書字が苦手な生徒に、ワードの基本的な使用法を教える。自立…調査・発表のツールとして。数学…練習問題、ドリルなど	特別支援学級
学習の定着をはかる、考えをまとめる場面。生徒同士が話し合う場面	担任を受け持っていない
教材への導入	三年生
ネットを利用した事件が後をたたないので、起こった事例を体験させ、予防につなげて行きたい。情報モラルについて強化していきたい。教室でICT機器を利用したいが、準備に手間がかかる。もっと簡単に使えるようにしてほしい。	二年生
使えれば使ってみたくと思っています。	担任を受け持っていない
ICTを使うことでコストを抑えられる、準備に時間をあまり多く必要としないことが見込めるときに活用していきたい。ICTを、適切な場面で活用することは良いことではあるが、何でもかんでもICTを取り入れていくことは賛成しない。	特別支援学級
現状の時間ではICTを導入するための準備をする時間はない	担任を受け持っていない
特になし(36件)	

Q30 授業運営課題への活用強化内容（自由回答） 《小学校》 【管理職以外回答】

《小学校》 <Q30 授業運営課題への活用強化内容>

内 容	F2 担任学年
イメージを想起させるための、資料提示。用意されているのかもしれないが、教科書会社がそうした資料集をつくってくれると使えると思う。	三年生
気軽に映像を見せられる環境にないこと。	一年生
記録、観察にタブレットは有効だが、タブレットがないので写真を撮ってプリントアウトしている。タイムリーな学習にタブレットの必要性を感じる。	三年生
効果的な資料提示。ノート指導。	五年生
資料のよみとり	五年生
資料提示(生きものの動画集など)	二年生
資料提示に電子黒板が使えると効果が広がる。	五年生
どう資料をさがさせるか	特別支援学級
ほしい資料を探すのが大変、時間がない	四年生
目指すべきねらいがはっきりとせず、各学校の特色を生かした活動を展開していくという点で、その学習内容があいまいである点。	三年生
テンポよく分かりやすい授業の展開	六年生
児童一人一人が達成感を感じられる授業展開	一年生
児童理解、授業の内容、やり方、生活指導の方法	一年生
自分自身の授業内容や指導方法	担任を受け持っていない
教えるだけになっており、考えさせたり調べてまとめたりする活動が少ない。	五年生
ICTをどのように効果的に授業に取り入れていくか。	二年生
国語、大切な文だけを読み取る力、要約する力。算数、理解度に大きな差、分かっているようで、テストをやると分かっていない。	三年生
今以上に、ICT活用をして、児童の意見などを共有し合う時間を多くもうけていきたい。	四年生
ICTを活用する場面が特別支援学級において「生活」「総合」であるが機器の基本的な使い方の指導以上のICTの活用は、難しい。	特別支援学級
調べ学習でタブレットがあるとその場で調べることができ便利	三年生
意欲を高める授業展開に課題を感じている。	一年生
興味・関心を持たせる	四年生
動機づけ、読みを深める教材や発問の工夫	一年生
基礎基本の定着。量感の育っていない児童に、筆算式と連動してアレイ図が示され、直観的に理解させるようにすること。また、個に応じて繰り返した練習、採点、記録。	担任を受け持っていない
基礎基本の定着を図るための練習問題や多様な問題が少ない。	五年生
教科の専門性	六年生
教材・教具が足りない(少人数展開になったため)。	二年生
学力が極端に低い子達に、どのように力をつけていくか。	二年生
個に応じた指導のあり方について。	二年生
個人差が激しく一斉授業内で支援しきれない部分があること。	四年生
個人差が大きいこと。日本語を母国語としない児童に学習内容を理解させること	一年生
パソコンを使う時間があまりない。	二年生
説明の多い構成になってしまう(1時間で教えなければいけないことが決まっているため)	担任を受け持っていない
発展問題までなかなかたどりつけないこと。基礎問題の定着もきびしい単元が多い。	担任を受け持っていない
言葉づかい、態度、授業理解(学習の定着)	六年生
生活指導上の課題です(私語、忘れ物など)	担任を受け持っていない



内 容	F2 担任学年
専門的な指導のポイントが分からない。	五年生
体育、算数、音楽→技能的なことを教える際、もっと教員がいるといい。一クラスあたりの児童の数がもっと少人数だと、一人一人ていねいに指導できる。	二年生
社会科…校外学習で行けない地域、場所の学習を充実させること。インターネットで調べさせた情報のまとめ方。理科…観察が必要な単元の学習で指導が充分にできる環境を整えること(季節と生き物、星の動きなど)	四年生
住んでいる地域の学習が多いので、地域のことを把握していないと、充実した学習活動がしにくい。特に異動1年目は厳しいと感じる。	一年生
身近な地域をデータにしたものが少ない。自治体毎に歴史、特産、防災などをデータにしたものがあるとよい。行政のHPは低学年には見にくいです。	二年生
正しい情報の活用と、正しくない情報を区別する力。教科1つ1つの単元の深い理解と想像力。	特別支援学級
児童にわかりやすく課題を提示する。場面を把握させる。平面図形、立体図形の等積変形などで、変化の課程を理解させるなど様々な場面で、機器を活用しきれていない。	担任を受け持っていない
図形などを拡大して提示するのはできるが、向きが違う図形を回転させて提示することが現状できない。ICTを利用し、それができればいいと思う。	六年生
外国語は実質英語であるが、国際理解にはあまりつながらず、中学の予習をしている感が否めず、英語の興味関心にもつなげていない。国語の時間数が少なすぎる	六年生
雨天の場合、植物、天体の実験ができない	六年生
図工では制作の順序、方法。外国語では、音声CDの活用	六年生
特になし(76件)	

《中学校》 <Q30 授業運営課題への活用強化内容>

内 容	F2 担任学年
ICT機器を少人数で用いるために必要な環境。基本的には同じ内容のものを、全グループで実施したい。そのための他教員との連携など。	二年生
インターネットにつながるようにしてほしい(授業用パソコン)。火山噴火や台風など、その場その場でスピードが大事だと感じている。生徒実生活と学習をつなげるのに有効だと思う。また、理科ネットワークも活用したい	三年生
パソコン室が一室しかないため、同時に複数のクラスがパソコンを利用できない。プロジェクターを各クラスに固定設置してほしい。インターネット等をすぐに参照したり、映像として示したりできるような教室環境にしてほしい。	二年生
美術室にインターネット環境がなく、資料提示がダイレクトにできない。ネット上で見られるものが印刷できず、生徒に提示できないことが多い。生徒の考えたアイデアを活かしたり、それにつながる作例を見せることができない。	三年生
予算のこともあるので、どうしても古い機器を使用しての指導になってしまう。基礎的、基本的なことは指導できるので良いですが、例えばPC等家庭では最新のものを使用しているので、学校現場が追いついてない部分もあります。	担任を受け持っていない
説明だけでなく、映像等で理解を深めさせたい	担任を受け持っていない
映像資料をもっと活用できたらと思う。	一年生
視覚教材ができない	一年生
授業に積極的、主体的になれる工夫が少なく生徒が受動的であること	担任を受け持っていない
授業中、教師の話の聞くだけの受け身の姿勢に生徒達になってしまっている。もっと自由に自分の意見や考えを伝えられる授業にしたい。	担任を受け持っていない
画面の見やすさより分かりやすい授業にしていきたい。生徒の意欲、関心が高まるような、構成の工夫(色をつけたり、動くなど)やスキルを身につけていきたい。	二年生
生徒の心に響くような授業展開をすること。	二年生
生徒への説明を簡潔に分かりやすく説明すること。興味・関心を引いて、説明内容を理解させること。	特別支援学級
パワーポイントの使用ができていない	二年生
発表活動の取り組み	三年生
学習したことを定着させること。学習習慣の確立	一年生
数学は、学力向上に課題を感じる。道徳は、道徳心を育てるにはどうしたらいいか課題	三年生
技能面において生徒自身が、自分の動きをイメージできていない場合が多いように感じる。	一年生
運動が苦手な生徒への、運動を好きになってもらえるような指導。	特別支援学級
生徒の作品を置くスペースがない。作品を貼る掲示板がない。大型機械がスペースをあつぱくしている。	二年生
使えれば使ってみたいと思っています。	担任を受け持っていない
集中して話を聞ける時間が長く続かない。	担任を受け持っていない
人格形成、規範意識のもたせ方。	担任を受け持っていない
教えるべき内容が多く、内容を整理する必要がある	一年生
教材研究など、授業以外の時間がとれない	担任を受け持っていない
時間がありません	三年生
授業準備、教材研究の時間がない。	特別支援学級
情報機器の準備をする時間がとれない。	一年生
近度	担任を受け持っていない
特になし(39件)	

## 福生市立学校 ICT 推進計画

平成 28 年 3 月

(編集・発行) 福生市教育委員会教育部 教育支援課  
〒197-8501 東京都福生市本町 5 番地  
電話 042-551-1948  
<http://www.city.fussa.tokyo.jp>